

文部省・石垣市教育委員会指定
体力づくり推進校

平成3年度(3年次)

研究報告書

研究主題

一人ひとりが めあてを持ち 自ら取り組む
体力づくり

— 授業の改善を通して —



平成3年11月15日

石垣市立 大浜小学校

ごあいさつ

近年食生活水準の向上等により、子供たちの体位は伸びているが、それに比して体力は低下していると指摘されております。そこで子供たちの体力づくりの必要性が叫ばれ、各学校や地域において、いろいろな研究が試られております。

本校では平成元年度に文部省並びに石垣市教育委員会より「体力づくり推進校」としての研究指定を受け、「一人ひとりがめあてを持ち、自ら取り組む体力づくり、一授業の改善を通して」を主題にして研究に取組み最終年次の3年目を迎えました。

第1年次は「器械運動」領域を中心に理論研究と授業実践に努めると共に、体力づくりの遊具の設置など環境整備にも努めてきました。平成元年12月11日に第1年次の発表会を持ちました。

第2年次は1年次の研究成果を踏まえつつ「ボール運動」領域を中心に研究を進め昨年12月7日に第2年次の研究発表会を持って実践の様子を発表し、ご参会の多くの先生方から御指導をいただきました。

本年度は1年次、2年次の研究成果及び反省を踏まえて陸上運動領域についての研究を進めてきました。教科体育の時間における指導法の改善工夫を図ると共に休み時間を利用した業間遊び（体力づくり）等でも子供たちが、自らめあてを持って、積極的に活動し、体力づくりに励むよう場の設定をして参りました。

振り返ってみますと、大きな研究の成果としてみるべきものは少なく、多くの課題のみが次々と出てくるような状況にあります。

これまでの実践の様子を発表し、ご参会の先生方から御指導、御助言を頂き、今後の研究実践に資したいと思ひ本日の発表会を持つことにいたしました。ご参会の皆様の忌憚のないご批正をお願いいたします。

尚、これまでいろいろと御指導頂きました県教育委員会、石垣市教育委員会の指導主事の先生方並びに本校の研究取り組みを側面からご支援頂きましたPTAの皆様にも心から深く感謝申し上げます。

平成3年11月15日

石垣市立大浜小学校長 前 津 栄 信

目次

I	研究の概要	
	1. 研究主題	1
	2. 主題設定理由	1
	3. 研究の進め方	2
	(1) 研究の方針	2
	(2) 研究の組織と運営	2
	①組織図	2
	②運営（各部の活動内容）	3
	(3) 研究の構想図	4
	(4) 研究計画（3年間の概要）	5
	1年次の研究経過	6
	2年次の研究経過	7
	(5) 3年次の研究計画	8
	(6) 3年次の研究経過	9
II	体力づくりについて	
	1. 体力づくりの基本的な考え方	10
	2. 新しい体育と体力づくり	12
	3. 運動の特性と運動の分類	15
	4. 新しい体育の学習過程	16
	5. めあて、学習カード・資料について	20
III	研究内容	
	1. 指導研究部	
	(1) ねらい	22
	(2) 内容	22
	授業実践（陸上運動）	
	(3) 高学年（5年、リレー・短距離走）	23
	(4) 中学年（4年、かけっこ・リレー）	32
	(5) 低学年（1年、はばとびあそび）	41
	(6) 低学年（2年、折り返しリレー）	52

2. 施設・用具部	
(1) ねらい	62
(2) 内容	62
(3) 施設・用具の利用法	63
(4) 施設の種類と設置場所	66
(5) 体育用具の一覧表	67
3. 調査研究部	
(1) ねらい	70
(2) 内容	70
(3) 本校児童の体位	71
(4) スポーツテストの結果と考察	72
①体力診断テスト	72
②運動能力テスト	76
(5) 体育学習についての意識調査	85
(6) 校外での児童の実態	87
(7) 父母の意識調査	88
IV 教科外体力づくり	
1. ねらい	92
2. 内容	92
3. 業間遊び実施計画	93
(1) 石垣島一周マラソンカード	95
(2) クロスカントリーコース図	96
4. なわとび集会実施計画	97
5. 校内陸上実施計画	99
6. 校内持久走実施計画	101
V 地域におけるスポーツ活動	
1. 趣旨	104
2. 部の現状	104
3. 組織と活動	104
4. 各種大会参加記録	105
VI 資料	106
VII 研究のまとめ	122

I 研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりがめあてを持ち、自ら取り組む体力づくり
— 授業の改善を通して —

2. 主題設定理由

近年になって子供たちの体位は急速に伸びてきた。それは生活水準の向上や学校体育の振興等、良い条件が揃ってきたからだと思われる。その反面、体力や精神的な面には、悪い条件が目立っているようである。また、交通機関の発達に伴い、人々の活動範囲が広がったものの運動が減少しつつあると言われる。このような状況は、都市から地方まで同じ条件になりつつあり、こうした現状の中で生活している子供たちに今必要なものは何かを考えると、体育学習の重要性が強く浮かび上がってくるのである。

本校の児童は素直で明るく、スポーツ好きな子が多い。また、地域にはスポーツ少年団が組織され、スポーツは大変活発である。にもかかわらず、体力診断テストの結果を見ると、筋力・柔軟性などは県の平均を下回っている。また、きびきびした動作や粘り強さに欠け、精神的な面での弱さも見られる。

そこで、児童一人ひとりに自己の体力を認識させ、自分に合った目標を持って楽しく活動し、運動への愛好的態度を育てさせたいと考え体力づくりの研究を進めることにした。

研究にあたっては、1年次は器械運動、2年次はボール運動を中心に授業改善を図り、さらに3年次はこれまでの研究をふまえて、陸上運動を中心に研究することにした。

そこで本校の教育目標の一つである「健康でねばり強くがんばる子」を基本にし、その具現化に努め、運動の生活化を推進することによって、体力を高めさせ、生涯体育へ運動させたいと考える。更に学力と体力の相関関係を探りつつ、授業のより良い改善を図りながら、その課題を解決すべく本主題を設定した。

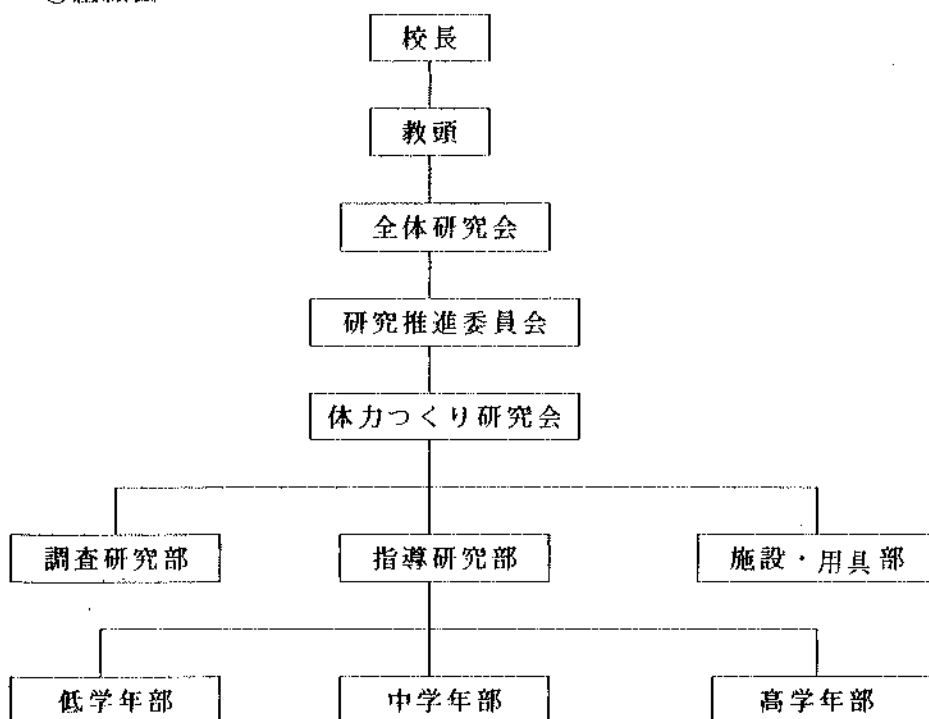
3. 研究の進め方

(1) 研究の方針

- ① 本校の教育目標を中核とし、「生涯体育」をめざした研究を推進する。
- ② 研修日は、学校経営計画に位置付け研究を進める。 第一・第三水曜日
- ③ 全体会、研究推進委員会、指導研究部会、施設・用具部会、調査研究部会、学年部会（低・中・高ブロック）を通して研究を進める。
- ④ 研究は原則として、勤務時間内で終われるようにする。
- ⑤ 研究の推進については、全職員の共通理解のもとに一致協力して取り組む。
- ⑥ 3年間の研究の中で器械、ボール、陸上運動を中心に研究を進めるようにする。

(2) 研究組織と運営

①組織図



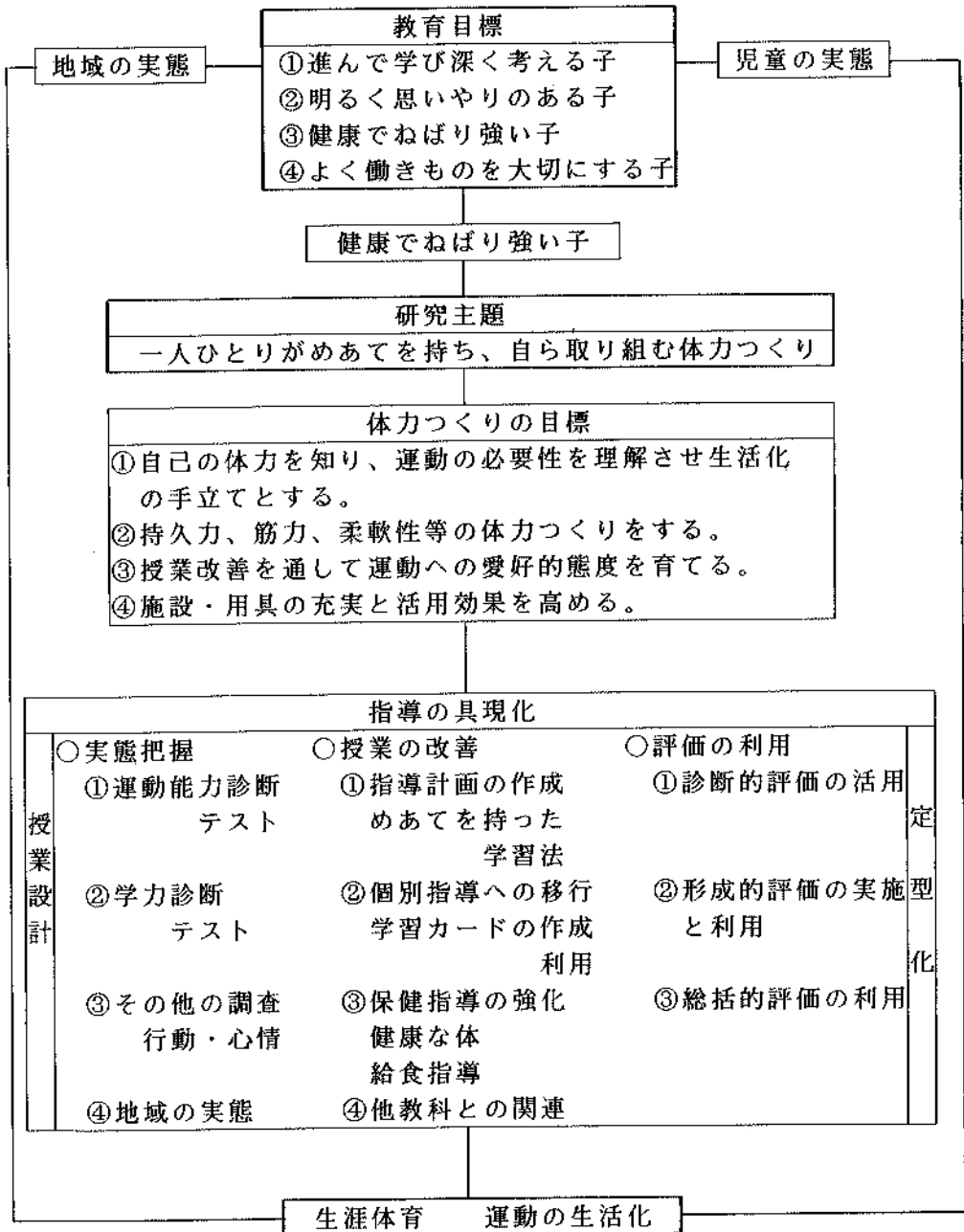
研究推進委員

(校長、教頭、教務主任、体育主任、各部部长)

②運営 (各部の活動内容)

<p>全体 研究会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員参加による主題の設定、研究内容、方法等、研究の全体計画決定 ・理論研究、実践研究等、各研究^{部提}武帝案の検討並びに決定 ・全職員共通理解による研究の深化 ・その他全体研究に関わる事項
<p>研究推進 委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の全体計画の立案 ・全体研修会の企画 ・各部の研究進行等の調整 ・指導主事招請の計画 ・予算措置 ・研究報告書のまとめ
<p>指導 研究部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりの理論研究 ・学習指導法の研究 ・実技研修の計画と実施 ・授業研究会の計画 ・家庭・地域社会への体力づくり奨励
<p>調査 研究部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸調査の実施、分析、考察 ・運動能力テスト、体力診断テスト ・健康・安全・給食に関する調査・考察 ・家庭・地域の体力づくり意識調査
<p>施設 設備部 用具</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具施設、グラウンド施設の全体構想 ・施設の管理 ・遊具施設の研究と利用計画 ・学習用具の開発 ・学校環境美化 ・備品、教具の工夫

(3) 研究の構想図



(4) 研究計画 (3年間の概要)

1年次 (器械運動)

- ・ 研究主題の設定
- ・ 研究方針、研究計画の決定と組織づくり
- ・ 実態調査と個人カルテの作成
- ・ 体力と運動の理論研究
- ・ 授業実践と研究会
- ・ 年間指導計画の作成
- ・ 地域との連携による体力づくりの推進
- ・ 1年次のまとめと発表

2年次 (ボール運動)

- ・ 2年次の研究計画
- ・ 実態調査
- ・ 学習指導法の研究
- ・ 学習カード、個人カルテの活用
- ・ 授業実践と研究
- ・ 特別活動との関連の研究
- ・ 地域との連携による体力づくりの推進
- ・ 2年次のまとめと発表

3年次 (陸上運動)

- ・ 実態調査 (スポーツテストの比較と考察)
- ・ 授業実践と研究会
- ・ 運動の生活化
- ・ 地域との連携による体力づくりの推進
- ・ 3年次のまとめと発表

① 1年次の研究経過

月	日	研 究 内 容
4	12	研究部会の割り振り
	19	主題設定、研究方針、研究計画の作成
5	17	校内研年間計画、スポーツテスト実施について
	24	理論研究（新しい体育の考え方・進め方）
6	7	研究仮説、構想図について
	21	単元の取扱について
7	5	1年次の研究計画修正案検討、児童の意識調査 研究の方向性について
8	21	理論研究（新しい体育の考え方と体力づくり）指導主事招請
	22	アンケート調査の報告と集計・考察
9	6	研究の概要修正案検討
	13	指導案検討（6年）
	18	指導案検討（2年、4年）
	20	6年研究授業、授業研究会 指導主事招請
	27	各部ごとに研究会、4年指導案検討
10	4	4年研究授業、授業研究会
	11	2年研究授業、授業研究会
	16	報告書原稿、資料作成
	25	報告書のまとめ方について
11	1	報告書原稿、資料作成
	15	報告書原稿、資料作成
	22	原稿まとめ、推敲、校正
	25	印刷・製本
	29	発表会の役割分担
12	6	発表会打合せ
	11	研究発表会

② 2 年次研究経過

月	日	研 究 内 容	持ち方
4	18	組織と運営について、2年次の計画案検討	全体会
	2	業間遊び計画について、スポーツテスト実施計画 各部会の活動計画	全体会
5	16	指導案検討会（5年）技能のめやすの考え方	全体会
	23	研究授業（5年）指導主事招請 新しい体育の考え方・進め方について	全体会
6	6	理論研究（学習カード、学習資料の考え方）	全体会
	20	指導案検討（4年）ねらいとめあてについて	全体会
7	4	研究授業（4年）めあての立てさせ方について	全体会
	11	実態調査のまとめ	部 会
	5	指導案検討会（6年）資料の活用について	全体会
9	10	指導案修正、実態調査のまとめ	部 会
	19	研究授業（6年）ねらいのとらえ方について	全体会
	7	指導案検討会（2年）準備運動の考え方 学習カードの検討、技能の評価について	全体会
10	15	学習カードの作成、教具や施設の工夫について	部 会
	24	研究授業（2年）技能的なめやすの考え方	全体会
	29	学習資料について、アンケート調査について	部 会
	5	原稿作成	部 会
	7	発表会の日程について、当日の日程について	全体会
11	14	報告書原稿まとめ	部 会
	19	原稿修正	全体会
	21	報告書読みあわせ	全体会
12	5	発表会打合せ	全体会
	7	研究発表会	全体会

(5) 3年次の研究計画

領域(陸上運動)

月日	曜	事項	研究内容
4.17	水	全体研	○年間計画の検討、組織と運営について ○業間運動実施計画案検討 ○なわとび集会実施計画案検討
5. 1	水	全体研	○指導案検討(5年) *指導主事招請 ○3年次の研究の進め方について ○学力と体力の相関関係の研究方法について
5.13	月	部会	各部会年間活動計画案作成
5.29	水	全体研	○研究授業(5年)及び授業研究会 ○学習カード作成について(陸上運動) *指導主事招請
6. 5	水	全体研	○研究授業(4年)及び授業研究会 ○資料の提示、活用のさせ方について
6.10	月	全体研	○調査部 スポーツテスト集計について ○指導部 効果的な授業の進め方について ○施設部 遊具の調査、点検、教具の工夫について
7. 3	水	全体研	○研究授業(1年)及び授業研究会 ○1学期のまとめと反省
7. 8	月	部会	○各部会資料作成
7.10	水	全体研 (部会)	○理論研究(体力と学力の相関について) ○各部会資料作成
9. 4	水	全体研	○研究授業(2年)及び授業研究会 *指導主事招請
9. 9	月	部会	○資料作成
9.18	水	全体研	○研究報告書のまとめ方について
10. 2	水	部会	○報告書原稿作成
10.16	水	部会	○報告書原稿しめきり
10.21	月	部会	○報告書仮製本
10.23	水	全体研	○報告書原稿読みあわせ、印刷所へ提出 ○発表会の役割分担

(6) 研究経過 (3年次の研究経過)

月	日	研 究 内 容	持ち方
4	17	年間計画案検討、組織と運営方法について 業間運動実施計画案、なわとび集会実施計画案検討	全体会
5	1	指導案検討(5年)、学習カードの考え方 研究主題と設定理由について 学力と体力の相関関係の研究方法について スポーツテスト実施計画案検討	全体会
5	13	各部会年間活動計画作成	全体会
5	29	研究授業(5年)、めあての立てさせ方について 学習カード作成について(陸上運動)	全体会
6	5	研究授業(4年)	全体会
6	10	授業研究会(4年)	全体会
7	3	研究授業(1年)場の工夫について	全体会
7	8	各部会資料作成	部 会
7	22	各部会の1学期のまとめ	部 会
9	4	学力と体力の相関関係の研究方法について	全体会
9	9	各部会資料作成	部 会
9	18	研究報告書のまとめ方について	全体会
10	2	学力と体力の相関関係の研究について 発表会の日程について、当日の日程について 発表会の役割分担、報告書原稿作成	全体会
10	7	報告書原稿作成について	指導主事訪問指導 全体会
10	9	報告書原稿作成	部 会
10	16	報告書読みあわせ、公開授業指導案検討 指導主事訪問指導	全体会
10	30	報告書原稿検討会	全体会
11	6	報告書読みあわせ	全体会
11	11	各部会発表打合せ、役割打合せ	全体会
11	15	研究発表会	全体会

Ⅱ 体力づくりに ついて

研究内容

1. 体力づくりの基本的な考えかた

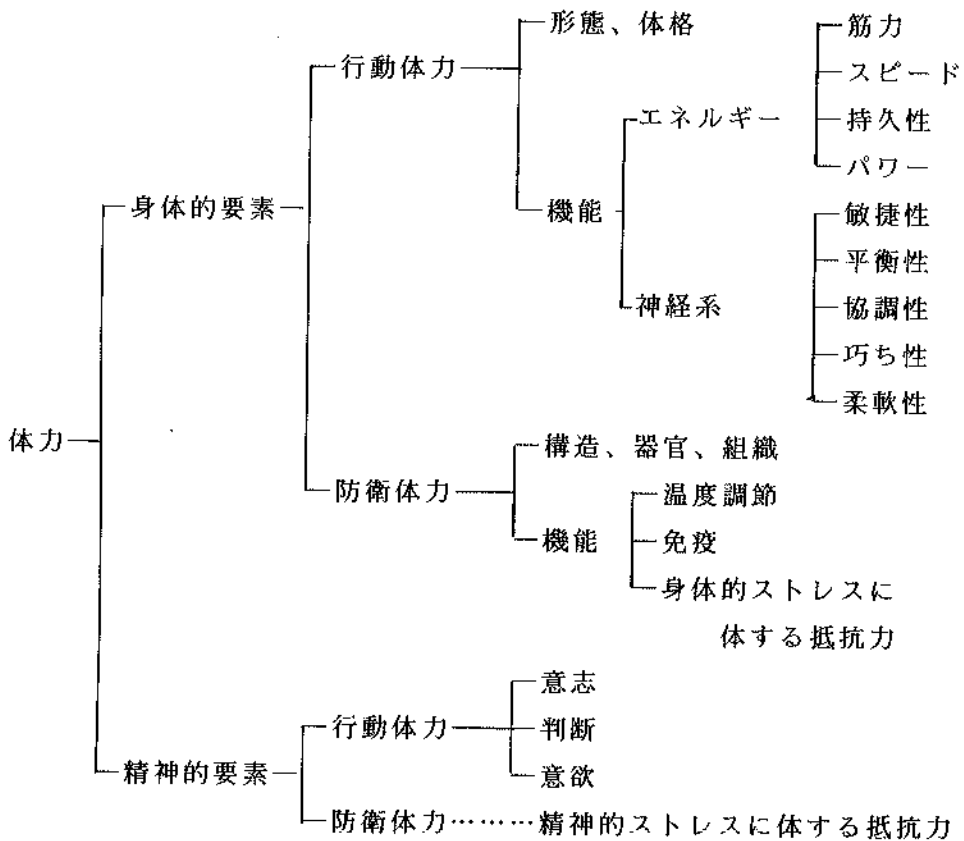
(1) 体力のとらえ方

「体力とは人間の存在と活動の基礎をなす身体的、及び精神的能力である。」(猪飼)といているように体力は、身体的能力の活動の源であり、今日の間社会で活動していくための最も基本的な行動力と考える。

行動体力とは、積極的に外部に働きかける能力であり、身体的なものとしては筋力、持久力等があり、精神的なものとしては判断し計画する能力が考えられる。

防衛体力とは、外部からの抵抗を受け止め、これにうちひしがれないようにする能力である。

上記の考えにたって本校でも体力を一般に用いられている行動体力と防衛体力とにわけて下記のように考えることにした。



体力の構造を前記のようにとらえるとすれば、体力づくりは、大きく身体的要素と精神的要素とを踏まえての人間育成であり、両者の水準を高めていくことである。

身体的要素（行動体力の）一面の機能が優れていると、体力が優れているととらえることは体力の一面の把握にほかならないのであって精神面や防衛面を無視した体力は真の体力とはいえないのである。

体育の目標としての体力は当然両者を含むものであるが、直接的、具体的には活動能力を高めることを中心として、それとの関連において精神力抵抗力を高めることをねらいとする。また、保健の立場からは、抵抗力を高めることを中心とし、それとの関連において活動能力を高めることをねらいとしている。

特別活動においては、児童の自主的、主体的な行動を通して、身体的並びに精神的要素を高めようとするものである。

今日、活動能力の狭い意味での体力ととらえることが常識的になっているので、狭義の体力の要因を^{活動}（運動）に関係する体の器官や、機能^ととしてとらえておくことも体力づくりを進める上で大切であると思う。

（２）体力の基礎要因

運動を起こす力	筋力（筋）、瞬発力（筋と神経、筋力と敏捷性が融合した力）
運動を持続する力	持続性（筋力と呼吸・循環器）、平衡性（神経、バランス）
運動を調整する力	敏捷性（神経）、巧み性（関節、関節の可能性）

以上は体力を身体的側面からとらえたものであるが、これらの体力が発揮されるためには、精神の集中力、忍耐、判断力及び責任、協力など精神的な働きが関与するものである。

（松田岩男 東京教育大学教授 体育学習における体力トレーニング）

2. 新しい体育と体力づくり

生涯学習が叫ばれている今日、「自ら学ぶ」という自主、主体的な学習のあり方が強調されている。生涯体育においても、スポーツに親しみ生活の一部としてスポーツに取り入れ、自己の生活を充実させることが重要な課題となっている。こうした課題を持って学校体育の中での体力づくりを次のように考える。

(1) 体力づくりと運動技能

体力づくりとは人間活動の基礎となる身体的能力であり、各自の運動を行う能力、技術であるといえる。

体力を高める直接のねらいを持つ運動領域は体操である。運動技能を高める領域としては器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動である。

小学校においては、それらの学習を意図的計画的に行うことにより体力が高められると考える。体力は、運動技能を習熟させるための体力という狭義にとらえ方ではなく、より広い意味で生涯にわたって生活を支える基盤となる体力と考えて指導することが望ましいと思われる。そこで一般的には体力を高めれば運動技能も高まり、運動技能を高めることによって体力が養われるという循環作用としてとらえることができる。

(2) 新しい体育の考え方

そこで運動技能を高めるにはどのようにすればよいかということになると、学校期に運動への愛好的態度を作っておくことが望まれる。また、このような愛好的態度を持つということは、運動への自発的、自主的な態度の形成につながるものといえよう。

「新しい体育」では、人間と運動を根源的に結び付ける機能的特性を目的・内容とした学習を基本としている。

つまり、「新しい体育」は運動の本質的な魅力や意味に触れ、それを深めていくことを学習の中核にしている運動目的・内容論に立った体育といえる。

また、「新しい体育」は、一般社会における運動への参加が楽しさ欲求にせよ、体の必要充足にせよ、人々の関心や技能のレベルに応じて活動を行っているという事実を踏まえて、子供たち一人一人の欲求や必要なレベルにあった運動の選択を行ったり、あるいは、学習のねらいや学習の道筋（学習過程）を導く個別化、個性化につながる体育でもある。

このような運動の本質的な魅力や意味を学習のねらい、内容とし、更にその学習過程を学習者状況にあわせて作っていく「新しい体育」は生涯的な運動への愛好的態度と運動への自発的・自主的な態度の個別的形成を可能にするものといえよう。

このように運動にたいする愛好的態度を培うことにより、運動技能が高まり、運動技能が高まればその循環作用として体力も高まるものと考えられる。

そこで「新しい体育」の考えに基づき子供たちに運動への愛好的態度を育てることにより体力づくりを進めていこうと考えた。

なお、体育の目標としての体力は、体力の要因の発達上の特性を考慮して決めることが大切である。すなわち、調整力の発達と筋力や持久性の発達を比較すると調整力の発達が最も早く、総じて、小学校の時期に著しく発達するとされ、筋力、持久力がこれに次ぐとされている。

このように、それぞれの能力は、発達に適した時期があるので、体育の目標としての体力の要因の発達上の特性を考慮して定めることが大切である。

以下に体力の基礎要因となるものの説明を加える。

①筋力

筋が収縮することによって生じる力が筋力であり、すべての運動は筋力であり、すべての運動は筋力によって行われる。筋力は握力・背筋などで測定される一時的な最大筋力と用いられる筋群に負荷のかかった状態で如何に長時間作業を続けることができるかという持久筋力（筋持久力）に分けられる（持久筋力は広義の持久力に含められることが多い）

②瞬発力（パワー）

パワーという語は物理学用語であり、単位時間当りの仕事量として定義されるが、体育では瞬発力と同じ意味で用いられ、瞬発的に大きな力をだして運動を起こす能力を意味する。

③持久力

持久力は筋の持久力と呼吸・循環器能の持久力に大別される。呼吸・循環器能の持久力は、全身的な運動を長時間継続して行う能力を指す。

④調整力（協応性）

調整力とは、身体の一つ以上の部位の運動を一つのまとまった運動に融合したり身体の内・外からの刺激に対応して運動する能力を指す。

⑤平衡性

身体の姿勢を保つ能力を平衡性といい、平衡性の維持は姿勢反射によってなされる。平衡性は、歩いたり、跳んだりする運動の中での姿勢の安定性を意味する動的平衡性と静止した状態での安定性を意味する静的平衡性とが区別される。

⑥敏捷性

身体をすばやく動かして方向を転換したり、刺激にたいして反応したりする能力を敏捷性といい、反応速度や動作の反復速度が含まれる。

⑦柔軟性

柔軟性とは、身体をいろいろな方向に曲げたり伸ばしたりする能力で、主として関節部分の構造・靭帯・筋膜の弾性、筋の進展性によって決定される。柔軟性が優れていると、運動をスムーズに、大きく、美しく行うことができる。

⑧巧み性

巧み性とは、身体を目的に合わせて正確に素早く、滑らかに動かす能力であり、いわゆる器用さ、巧みさのことをいう。

3. 運動の特性と運動の分類

「新しい体育」を学習する場合には、運動種目の特性を明確にとらえてどんな欲求と充足を必要としているかを考えておくことが大切である。

運動は行う者のどの様な欲求、あるいは必要を充たし、魅力を持っているかは種目によって違うが、それぞれの運動が持っている一般的な欲求、必要充足、機能、魅力を「運動の一般的特性」という。

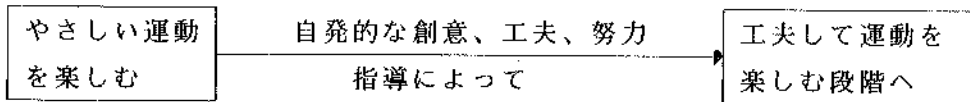
種目の一般的特性を導くために、どんな欲求や必要を充足する機能を持っているのかという視点から運動の分類を考えると下記のようなになる。

1. 欲求を充足するために工夫されている運動			
スポーツ	競争型	他人へ挑戦し、勝ち負けを競いあうことが楽しい運動（個人対個人、集団対集団）	ボール運動 陸上、水泳
挑戦の欲求に基づくもの	克服型	自然や人工的に作られた物的障害へ挑戦し、それを克服することが楽しい運動。	器械運動 水泳
	達成型	記録やフォーム等の観念的に定めた基準に挑戦し、それを達成することが楽しい運動。	陸上、水泳 器械
表現ダンス	リズム型	リズムを手がかりにし、それに対応し、自由に動くことで変身することが楽しい運動。	リズムダンス、ロック
変身の欲求に基づくもの	社交型	構成されているリズムカルな動きで変身し相手と対応することが楽しい運動	フォークダンス 社交ダンス
	バレエ型	構成されたリズムカルな動きで変身し、イメージ・対象を模倣表現することが楽しい運動	バレエ 民族舞踊
	創作型	リズムカルな動きを自由に工夫し、イメージ対象を模倣・表現することが楽しい運動	モダンダンス等
2. 必要を充足するために工夫される運動			
体に必要とされる種類に応じて分類されるもの			

4. 新しい体育の学習過程

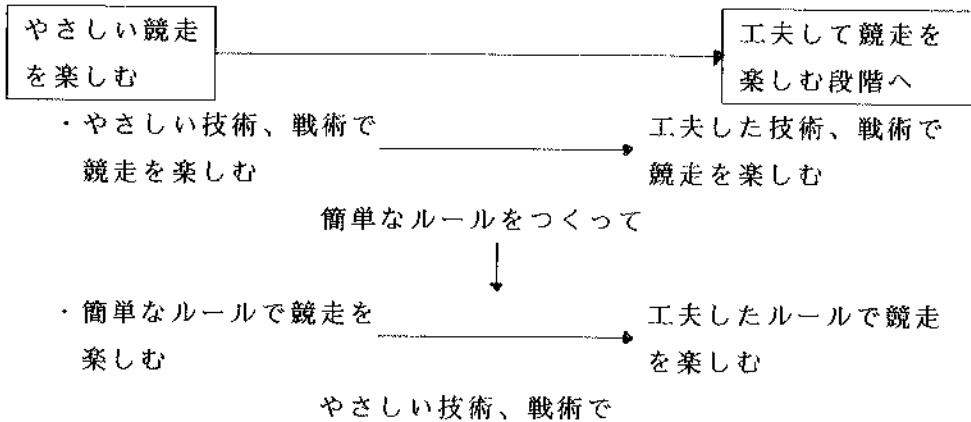
(1) 学習過程のとらえ方

「やさしい運動」とは、それぞれの能力に応じて現在楽しく行えるレベルのものであり「工夫した運動」は自発的な創意、工夫、努力によって高まった能力のレベルに対応する挑戦のレベルにあるもので、次のように発展させるよう進める。

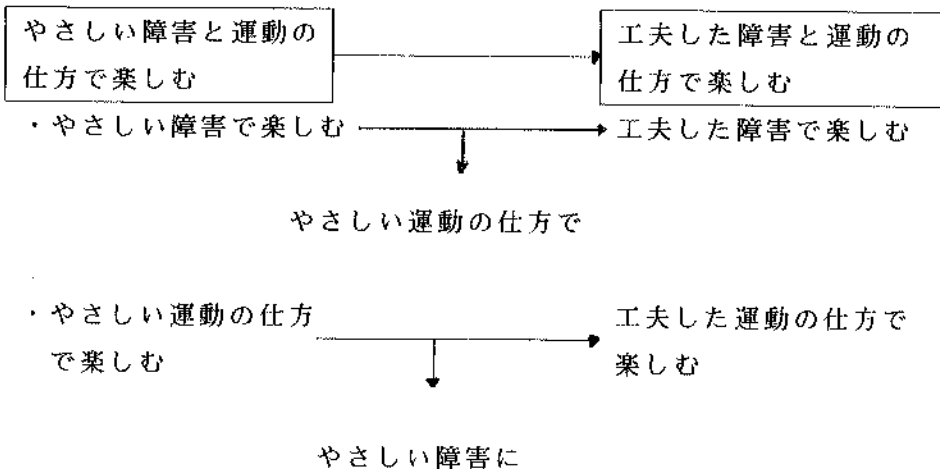


運動学習の発展の過程を次のように考えて進める。

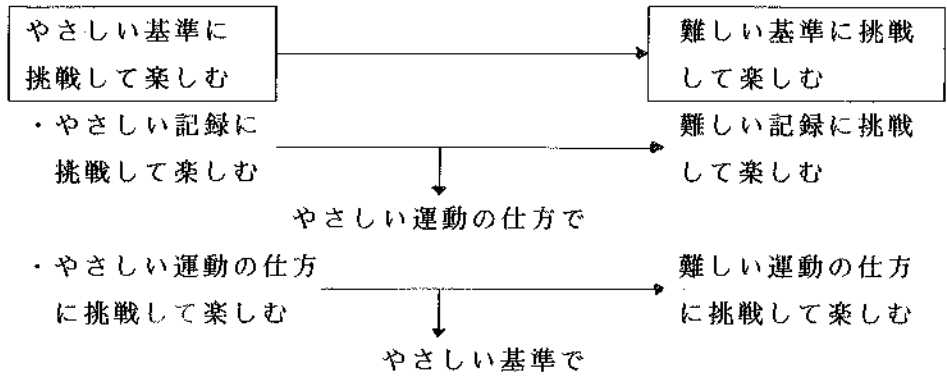
①競走型の学習過程（ゲーム）



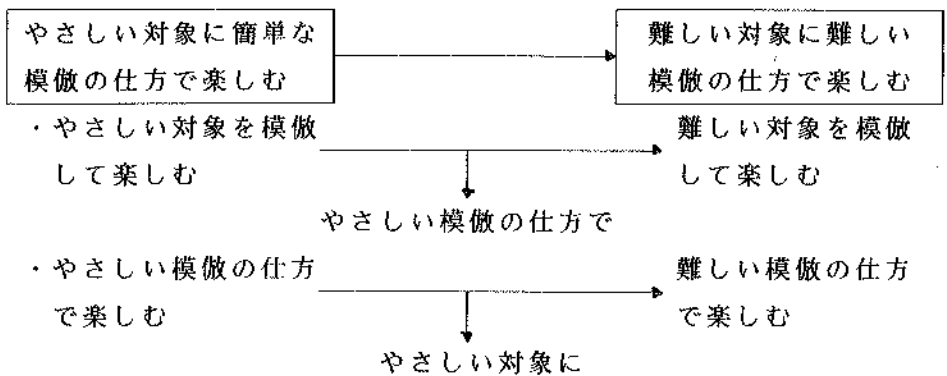
②克服型の学習過程（跳び箱、鉄棒）



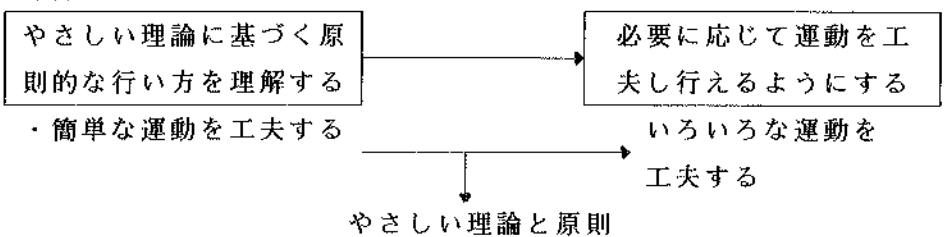
③達成型の学習過程



④模倣、変身型の学習過程



⑤体操の学習過程



このような学習過程は「今の力を十分に生かして、特性を求める学習」から「創意・工夫、努力を加えて特性を求める学習」の段階へと十分時間をかけて進めることになる。「できることで十分特性に触れ」そこで培われた力や新しく身に付いた力を使って「出来そうなことに挑戦し、更に特性に触れる」という学習の流れである。

(2) 単元計画の形式例

- ①運動の特性…………… 種目の欲求あるいは必要を充足する機能を中心にとらえ、行う者にとっての種目の意味と価値、基礎的な行い方を明らかにし、具体的な学習のねらいと内容・経験を導き出す手がかりにする。
- ア、一般的特性…………… 行う者にとっての種目の一般的な魅力（機能的特性）を中心に特性と基礎的な特性の求め方、触れ方を明らかにする。
- イ、子供から見…………… 意欲や能力、経験等に個人差のある児童の実態を踏まえて、学習する児童にとって、どこが楽しくどこがつまらなく（魅力）、どんな楽しみ方ができる運動か等を明らかにする。
- ウ、授業に対する
- 基本的な考え…………… 運動の特性や児童の実態を踏まえて、指導者がこの種目に対してどのように捕らえ、どのように授業を進めていこうとしているのかを明らかにする。
- ②学習のねらい…………… 運動の特性を踏まえて、どの児童も特性を求められるねらいと、特性に触れながら、学習が発展する流れを示す。
- ア、学習のねらい…………… すべての児童が、何を求め、何を考え工夫してどんな活動をすれば良いかを示す。
- イ、学習の道筋…………… ねらいを区分けし、自発的・自主的な学習が深まり、広がる段階を示す。
- ねらい1…………… 今の力を十分に発揮して、特性に触れられるねらいを示す。
- ねらい2…………… 高まった力で工夫を加えたり、新しい課題に挑戦するねらいを示す。
- ③時間配分と…………… 各段階に時間の配分を予定し必要な施設・用具施設・用具…………… を示す。
- ④学習と指導…………… 学習のねらいと道筋を具体的な活動の展開に予定し、示す。

(3) 指導案形式例

学習と指導

(本時の指導案には、本時のねらいを明記する。)

学習のねらいと指導		施設・用具	指導
はじめ ○分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいと道筋。 ○学習の進め方がわかる。 ○グループや活動の場を知る。 ○学習の決まりや約束を作る。 ○何をねらいとし、どんな運動を誰と、どこで行うかがわかる。 		
なか か1 ○分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ねらい1</div> <p>学習の進め方 ねらい1の活動 例 (ボールゲーム) リーグ戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ○めあて例 ○試しのゲームをする。 ○チームで練習する。 ○対戦相手を変えてゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を進めていく上で指導すべき点や観察する点など ○力に応じたねらいか。 ○自発的・自主的な活動か。 ○仲良く協力しているか 	
なか か2 ○分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ねらい2</div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方 ○ねらい2の活動をする。 対抗戦 ○ゲーム1をする。 ○作戦を工夫する。 ○ゲーム2をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を進めていく上で指導すべき点や観察する点など ○力に応じたねらいか。 ○仲良く協力しているか ○話し合いができているか。 ○作戦が生かされているか。 ○どこにつまづいているか。 	
まとめ ○分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の反省と記録、学習カードの整理。 ○楽しかったこと、楽しくなかったこと、上手になったこと、できなかったこと、改めたいこと、次にしたいことなどをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ねらいから学習を反省させる。 ○共通の問題を考えさせる。 	

5. めあて（学習課題）と学習カードについて

「めあて」とは運動の楽しさや、喜び（特性）に触れるために、いま自分の力でできることはどんなことか少し努力すれば出来そうな新しいことへの挑戦としてどんなことを取りあげるか。どんなルールや作戦にしたら良いかなど1時間、1時間の学習の中で学習のねらいに迫るためにチームまたは個人がこの時間でやろうとする学習課題のことである。

(1) めあて（学習課題）の必要性

子供たちは運動を行なっていく中で、「自分はこうしたい」、「これができるようになりたい」など多くの欲求を持っている。こうした欲求が充たされるとき学習は次から次へとつながり、自ら積極的に学習に取り組むようになる。

しかし、児童は心理的にも技能的にも個人差があるので、個やチームに応じた「めあて」（学習課題）を持たせることによって学習に意欲的に取り組むのではないか。こうした児童の欲求を実現するために「この時間何をするのか」という「めあて」（学習課題）を持たせることが大切である。

(2) めあて（学習課題）の持たせ方

①学習のねらいに迫るようにさせる。

「ねらい」は単元全体の学習活動を方向づけるものであるので、それに沿っためあてを持たせるようにさせる。

②めあての例を、あらかじめ教師がいくつか示し、その中から選択できるようにさせ、学習の進め方に慣れた頃、自分で考えるようにさせる。（特に低学年の場合）

③態度的な学習課題から技能的な学習課題へと移行させるようにする。

④態度的な学習課題は1単元を通して変わることが少ないので、常にその課題を意識させ、新しい学習課題を考えるようにさせる。

⑤技能的な課題は、その時間や場の設定に応じて児童自身が工夫できるようにさせ、学習カードや資料にヒントをいれるようにする。

⑥学習カードや資料をもとに、自分のめあてが持てるようにさせる。

⑦場の設定に応じて、その児童が出来そうなもの（今持っている自分の力でできるもの）から学習課題を見つけさせるようにさせる。

⑧友達同士互いに意見を出し合い、その中から見つけるようにさせる。

(3) 学習カード（記録ノート）、学習資料

① 学習カード

学習カード（記録ノート）は、児童が学習を進めていく中でその時間の学習の記録をし、反省や話し合い活動の基になるものである。また、今できることや、これから頑張れば出来そうなことを「めあて」として記入し、学習課題を設定する為のものであるから、学習カードは体育の学習を進めていく上で最も大切なものものである。

*学習カード作成上の留意点

- 学習のねらいや道筋にあっているもの。
- 児童の発達段階や実態にふさわしいもの。
- 運動の内容・方法が分かりやすいもの。
- 現在の力が把握でき、更に次に挑戦する課題を選択しやすいもの。
活動を進める中で、発生する問題点や、つまづきを解決するためのヒントが含まれているもの。
- 教師の助言が書けるようなもの。
- 進歩の度合いが分かるもの。
- 短時間に記入でき、分かりやすいよう工夫されたもの。
- 評価の資料として役立つもの。
- 学年で学習する単元の記録を全部残せるようなノート形式のもの。
児童が授業の中で楽しい、自分にもできるという気持ちになり、学習意欲がわくように上記のような点に注意し、学習カードを作成することが大切である。

② 学習資料

「資料」は児童が学習をしていく中で、どのような練習方法や、どのような技があるのかを知り、自ら意欲的な活動ができるよう提示し、また、めあて（学習課題）を立てるときの参考や、場の設定の工夫にも役立つ大切なものである。

*学習資料作成上の留意点

- 児童が見やすく理解しやすいもの。
- 場所や単元に応じて大きさを工夫したもの。
- 内容によって、個人やグループで使えるようになっているもの。
- 助言やヒントが含まれ、場の設定に応じて使えるもの。

Ⅲ 研究内容

1. 指導研究部

(1) ねらい

指導内容、活動内容を分析し、児童の実態に即した教材や、指導法を研究し体力づくりを推進する。

(2) 内容

- ①学習指導法の研究
- ②実技研修の計画と実施
- ③授業研究会の計画と運営
- ④年間計画の検討、

(3) 高学年 体育学習指導案

平成3年5月29日

大浜小学校5年1組

男13名、女14名、計27名

指導者 漢 那 憲 吉

1. 単元名 リレー・短距離走

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

リレーは何人かでチームを組み、一定の距離を次々にバトンを渡すことによって走り、相手チームと記録に挑戦したりして楽しむ運動である。

(2) 子供の立場から見た特性

①楽しいときはどんなときですか。(アンケート調査より)

- みんなががんばって勝ったとき楽しい。
- 競走に勝ったとき楽しい。
- 走るのが好きなので楽しい。
- 全力を出し、走りきったとき楽しい。
- 相手を追い越したとき楽しい。
- 記録が伸びたとき楽しい。

②楽しくないときはどんなときですか。

- 競走に負けたとき。
- 文句を言われたときや喧嘩をしたとき。
- 追い抜かれたとき。
- ころんだとき。
- バトンを落したとき。

3. 児童の実態

リレーや短距離走については多くの児童はこれまでに経験をしている。

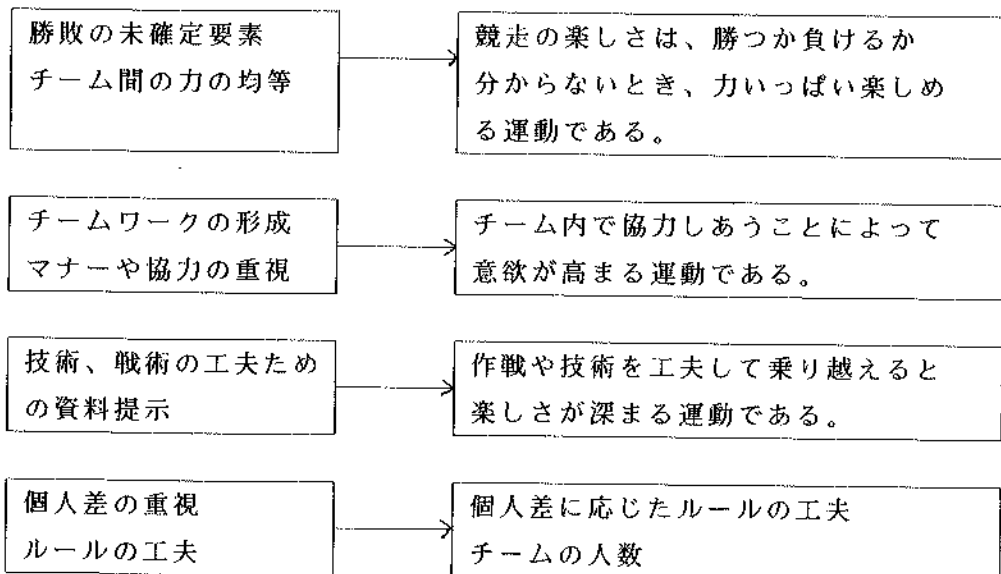
リレーと短距離走ではリレーが大好きだという児童が多く、リレーに対して興味が深い。しかし、中には体力的な面から走ることをあまり好まない子もいる。

技術面においては、正しいバトンパスを出来ない子が多く、またコーナートップ、テイクオーバーゾーン、スタンディングスタートなどをあまり知らない。

4. リレー・短距離走に対する基本的な考え

陸上運動の一般的特性を何にもとめるか、そのことはとても重要である。競走の楽しさにもとめるか、記録の達成の楽しさに求めるのか、それとも両者を組み合わせたものに求めるのか、いくつかの選択肢がある。ここでは、児童の発達の適時性という視点から基本的にリレー・短距離走の種目においては競走の楽しさと記録の達成という両者を組み合わせた学習を中心として進めてみようと思う。

リレー・短距離走においては個人差がはっきりしている種目であるため、次のような点に注意し学習を進めていくことによって、児童がリレー・短距離走の特性により触れられるようにしたい。



5. 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

対戦する相手チームを選び、ルールや決まりを話し合っ
て決め、作戦を立てて練習をし、チーム対抗のリレーを
楽しむ。

(2) 学習の道筋

①ねらい1

対戦する相手を決め、ルールや決まりを話し合っ
て決め、リレーを楽しむ。

②ねらい2

競走の仕方やルールを工夫し、作戦を立て、練習の仕
方を工夫してリレーを楽しむ。

6. 時間配分

	1	2	3	4	5	6
10	は じ め	ねらい1		ねらい2		
20						
30						
						ま と め

7. 学習指導と展開

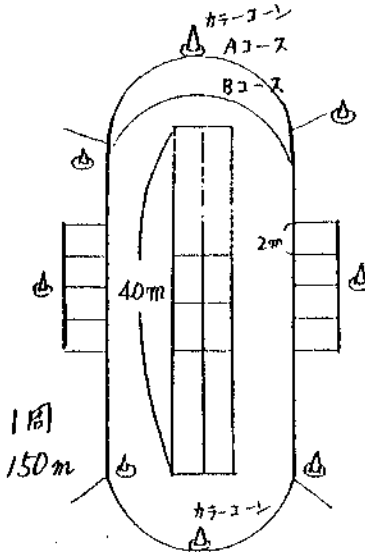
学習のねらいと活動		施設 用具
は	①学習のねらいや内容を理解し、学習の進め方を知る。	バトン6本 ストップウォッチ2個 シグナル1
じ	②スポーツテストの記録をもとに、グループビンゲームをし、役割分担をする。	ゼッケン人数分 カラーコーン6本 ライン引き 決勝テープ
30分	③ルールや約束事を知る。	
	④学習カードや資料の利用の仕方を知る。	
		指 導
な	①ためしのリレーをする。 各チームの記録をとる。	○チーム間の力が均等しているか確認し、話し合っ調整する。
か	ねらい1 対戦する相手を決め、ルールや決まりを決め、リレーを楽しむ。	
1	②みんなで学習の場を作る。	○学習の場は、活動する内容や利用の仕方を考え設定させる。
45	③めあてを確認する。	○チームのめあてが適切かどうか確認する。
×	めあて例 一生懸命走ろう。 みんなで協力しよう	○個人のめあては、学習の中で確認していく。
2	④走るときのきまりを決める。	○きまりの中に安全のことも考えさせる。
+	走る順序を変えても良い。 1人の走る距離は違ってても良い。 コーナートップの方法でコースを決める。	○どのようなチームとも対戦できるように組合せを考えさせる。
15		○出発係、決勝係、時計係、記録などの役割を交換しあうことも考えさせる。
	⑤対抗リレーをする。 A - B B - C D - E	○勝敗にたいして素直に認めるよう指導する。 ○記録をとっておくよう指導する。
ま	⑥学習カードに今日のまとめや反省をする。	○学習カードに記録させる。
と	⑦反省を発表する。	○2～3人発表させる。
め		
5分		

ねらい2

競走の仕方やルールを工夫して、作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。

①みんなで学習の場を作る。

場の例



な
か
2
45
×
2
+
30

②めあてを確認する。

③対抗リレーをする。

- 対戦チームを選んでおく。
- 3チーム対抗戦とする。
- リレーのないチームは練習をする。
- A-B-C
- D-E-F

④勝敗の結果をもとに作戦を立てる。

○作戦例

- ・走る順序を変える。
- ・一人が走る距離を変える。
- ・バトンパスの位置を工夫する。
- ・A君はBコースを使う。

○学習の場はいくつかの例を用意し、すべての児童が楽しめるようにする。

○場の使い方を良く理解させる。

○練習であっても必要なら記録をとるようにさせる。

○チーム内で個人差を認めあい、一人ひとりが自分の力をだせるようなコースを設定させる。

○チームのめあてが適切か確認する。個人のめあては学習の中で確認していく。

○リレーをしていないチームは係りを分担したり、練習をしたりさせる。

○40m走、バトンパス、スタートの練習などを指導する。

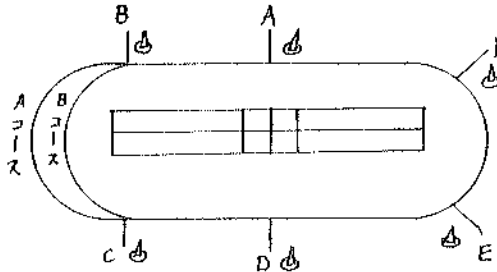
○勝敗を素直に認めるように指導する。

○自チームにあった作戦を立てているか確認し、必要に応じて助言する。

	<p>⑤作戦が生かせるよう練習する。</p> <p>練習例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパス ・スタートの練習 </div> <p>⑥対抗リレーをする。</p> <p>同じチーム同志で対戦する。</p> <p>A - B - C</p> <p>D - E - F</p>	<p>○バトンパスの練習が中心になると思われるので直線コースを利用させる。</p> <p>○練習したことを競走の中で生かしているかどうかに関心を置く</p>
<p>ま と め 5分</p>	<p>⑦学習カードに今日のまとめや反省を記入する</p> <p>⑧反省を発表する。</p>	<p>○学習カードに記入させる。</p> <p>○2～3人に発表させる。</p>
<p>ま と め 15分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>グループで次のようなことについて話し合い学習のまとめをする。</p> </div> <p>○全力で走ることが出来たか。</p> <p>○めあては達成出来たか。</p> <p>○記録は伸びたか。</p> <p>○ルールやマナーは守ることが出来たか。</p> <p>○リレーを楽しむことが出来たか。</p>	<p>○個人やチームがどのようなめあてを持って、どのような方法でどの程度達成出来たかなどを話し合わせる。</p>

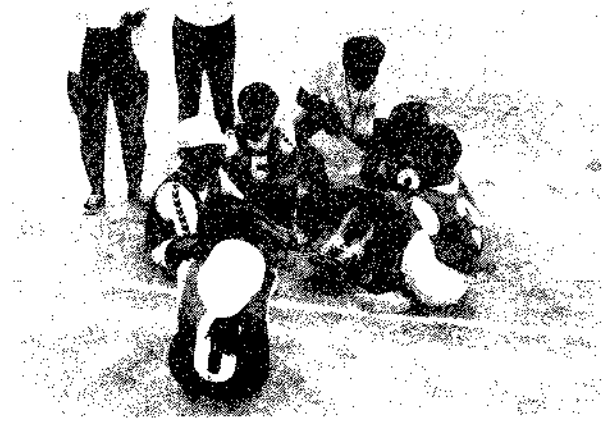
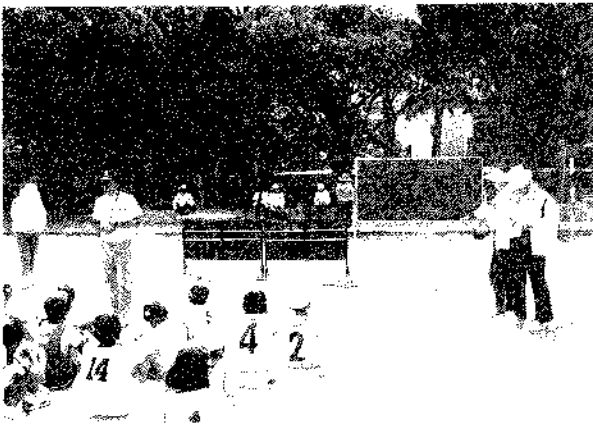
8. 本時の学習展開 $\frac{5}{6}$
 本時のねらい

競走の仕方やルールを工夫して、作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。

5分	<p>①みんなで協力しあい学習の場を作る。</p>  <p>②準備運動をする。</p>	<p>施設・用具</p> <ul style="list-style-type: none"> バトン6本 ストップウォッチ2個 シグナル1 ゼッケン人数分 カラーコーン6本 ライン引き 記録用紙
	学習のねらいと活動	チームごとにさせる。指導
なか	<p>ねらい2</p> <p>競走の仕方やルールを工夫して、作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。</p> <p>③学習のねらいを確認する。</p> <p>④チームのめあてを確認する。</p> <p>⑤対抗リレーの準備をする。</p> <p>⑥対抗リレーをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1レース(1回戦) <ul style="list-style-type: none"> ブラックコンドル カールルイス・ジョイナー Xチーム ○第2レース(1回戦) <ul style="list-style-type: none"> フリックス カルビー チャーター <p>⑦勝敗の結果をもとにレースを反省し、作戦を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作戦例 <ul style="list-style-type: none"> 走る順序を変えよう。 一人の走る距離を変えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで読み確認する。 ○チームのめあてが適切か確認する。個人のめあては学習の中で確認する。 ○記録、決勝などの係り分担に準備させる。 ○係りの仕事はちゃんとされているか。 ○安全に気を付けて活動しているか。 ○自チームにあった作戦を立てているか確認し、必要に応じて助言指導する。

	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">バトンパスの位置を変えよう A君はBコースを走らせよう。</p> <p>⑧ 作戦が生かされるよう練習をする。</p> <p>○練習例</p> <p>バトンパスの練習 スタートの練習 走法の練習</p> <p>⑨ 対抗リレーをする。</p> <p>○第1レース（2回戦）</p> <p>ブラックコンドル カールルイス・ジョイナー Xチーム</p> <p>○第2レース（2回戦）</p> <p>フリックス カルビー チーター</p>	<p>○バトンパスの練習が中心になる と思われるので直線コースを利用させる。</p> <p>○係りの仕事がちゃんとされているか。</p> <p>○安全に気を付けて活動しているか。</p>
<p>ま と め 5分</p>	<p>⑩ 学習カードに今日の反省をする。</p> <p>○反省を発表する。</p>	<p>○学習カードに記入させる。</p> <p>○2～3人に発表させる。</p>

5年授業風景



(4) 中学年 体育学習指導案

平成3年6月5日

大浜小学校4年2組

男17名、女13名、計30名

指導者 石田 美喜子

1. 単元名 かけっこ・リレー

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

リレーは何人かの者でチームを組み、各チーム全員がバトンをパスして一定の距離を走ったり、その速さを競ったりして記録に挑戦したりすることが楽しい運動である

また、かけっこは一定の距離を全力で走って他者とその速さを競ったり、記録に挑戦したりすることが楽しい運動である。

(2) 子供の立場からみた特性

①楽しいときはどんなときですか。

○バトンパスをしながら抜きつ抜かれつつのスリリングな競走が楽しい。

○バトンパスがうまくいったとき楽しい。

○仲間とチームをつくってはしれるから楽しい。

○走ってみるまでは勝敗が分からないので楽しい。

○相手を追い越したとき楽しい。

○仲間同士で教えあったり、協力し合えたとき楽しい。

作戦が成功したとき楽しい。

②楽しくないときはどんなときですか。

○速い人と走ったとき。

○友達に文句をいわれたとき。

○チームが負けたとき。

○相手に追い越されたとき。

○転んだとき。

○バトンを落したとき。

3. 児童の実態

体もだいぶ大きくなり、行動も活発で、健康で疲れを知らない元気な児童たちである。

走ることに關しては、リレーを含め楽しいという児童が多いが中には走るのが遅いためリレーを好まない子もいる。かけっこ・リレーに対する興味・関心は高いようであるが、その反面、かけっこ・リレーに關しての用語などはあまり知らない。

4. かけっこ・リレーに対する基本的な考え

かけっこ・リレーはこれまでに何度も経験しているので、児童にとっては比較的取り組みやすい教材である。しかし、リレーの場合個々の走力の積み重ねがチーム全体の成績となるので、ややもすると遅い子は非難の対象となりやすい。また、自チームの力と他のチームの走力とに差があると興味を失いがちである。

かけっこは、個々の走力が勝敗を分け個人差がはっきりしているが、リレーは複数の人がバトンパスをして勝敗を競う種目なので、走力と共にバトンパスなどの技術が勝敗の大きな分かれ目となり、その分以外性もある。

かけっこ、リレーの学習を楽しく行うためには、何が必要なのかを考えさせ、決まりの工夫や、場の工夫を行い、チームの弱点をカバーするための練習などを通して、リレーの楽しみを深める学習指導を展開したいと考える。

5. 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

みんなで決まりをきめ、練習の仕方や作戦を工夫してリレーを楽しむ。

(2) 学習の道筋

ねらい1

いま持っている力で決まりを決めリレーを楽しむ。

ねらい2

作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。

6. 時間配分

	1	2	3	4	5	6
10	は	ねらい	ね ら い			ま
20	じ	1	2			と
30	め					め
40						

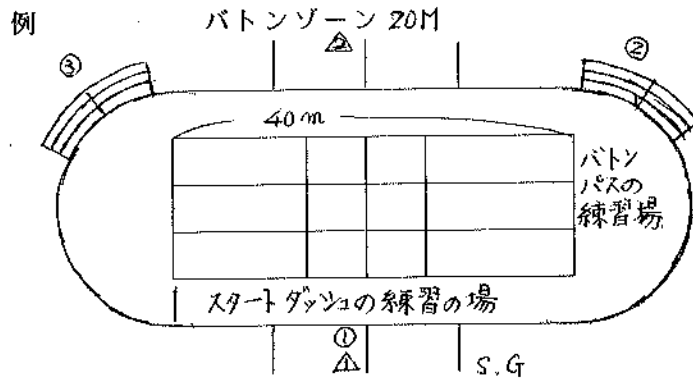
7. 学習指導の展開

		学習のねらいと活動	
は じ め 35 分		①学習のねらいを理解し、学習の進め方を知る。	<input type="checkbox"/> バトン（6本） 施 <input type="checkbox"/> ストップウォッチ 設 <input type="checkbox"/> 笛、ゼッケン ・ <input type="checkbox"/> カラーコーン 用 <input type="checkbox"/> 巻尺、ライン引き 具 <input type="checkbox"/> 学習カード、資料
		②50M走の記録をもとにグルーピングし、役割分担をする。 男女混合 5名×6チーム ③ルールや約束事について話し合う。 学習カードの記入の仕方や資料の利用の仕方を知る。	指 導 <input type="checkbox"/> グルーピングではどのチームも同じような力になるように配慮する。 <input type="checkbox"/> チームごとに代わりあってリレーの合間にバトンパス練習や係りの仕事、応援をすることを知らせる
		ねらい1 いま持っている力できまりをきめ、リレーを楽しむ。	
		①試しのリレーをする。	①チームの力が均等しているか確認する。

な
か
1
10
+
45
分

②準備運動をする。

③学習の場作りをする。



○ 1周3人の場合

△ 1周2人の場合

④めあてを確認する。

⑤リレーのきまりについて話し合う。

きまりの例

- 12Mのバトンゾーンの中でバトンパスを行う。
- 一人の走る距離は違っててもよい。
- コーナートップの方法でコースを決める。
- 内側から追い越さない。
- 遅い人、抜かされた人を非難しない。

○バランスが悪いときは調整する。

○キャプテンを中心にしてチームごとに進める。

○足の運動を念入りに行うように指導する。

○めあてが適切かどうかを確認し、必要に応じて指導助言する。

な か 1 10 分 +	⑥リレーの方法を知る。	○モデルチームを使って覚えるレースをする。		
	⑦リレーをする。	○リレーをしていないチームは係りの仕事、または応援をする。		
45 分	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>第1レース A-B-C</td> <td>第2レース D-E-F</td> </tr> </table> <p>分担された係りの仕事を交代して行う。 出発係、決勝係、記録係、時計</p>	第1レース A-B-C	第2レース D-E-F	○出発係は旗で合図をするようにさせる。
	第1レース A-B-C	第2レース D-E-F		
⑧チームで練習をする。	○練習の方法が分からないチームには必要に応じて指導助言する。			
分	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>○練習例 バトンパスの仕方 スタートダッシュの仕方 バトンゾーンの使い方</td> </tr> </table>	○練習例 バトンパスの仕方 スタートダッシュの仕方 バトンゾーンの使い方	○個人、チームの順に反省させる。	
	○練習例 バトンパスの仕方 スタートダッシュの仕方 バトンゾーンの使い方			
⑨学習のまとめをする。	○学習カードをもとに反省させる。			

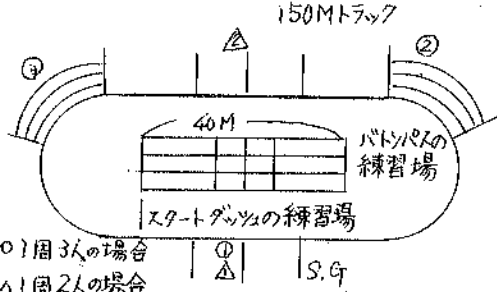
な か 2	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>ねらい2 作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。</td> </tr> </table>	ねらい2 作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。	
	ねらい2 作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。		
①準備運動をする。	○キャップテンを中心にチームごとにさせる。		
	○ジョギング、もも上げ	○足首、ひざの方を念入りに行うよう指導する。	
	②めあての確認をする。	○チームごとにめあてを確認し意欲的に練習できるよう気持ちを高めさせる。	
	③トラックの安全点検をする。	○ケガのないように安全面にも気をつけさせる。	
	④きまりについて話し合い、1回目のリレーをする。(対抗戦)	○レースを通して課題がつかめるよう指導する。	

<p>な か 2 45 × 3</p>	<table border="1" data-bbox="351 164 739 256"> <tr> <td>第1レース A-B-C</td> <td>第2レース D-E-F</td> </tr> </table> <p>⑤チームごとに作戦をたて、工夫して練習をする。</p> <table border="1" data-bbox="351 349 739 585"> <tr> <td> <p>作戦例</p> <p>走る順番を変える。</p> <p>速い人は出来るだけ長くバトンゾーンを使う。</p> <p>スタートの目安を決める。</p> </td> </tr> </table> <p>⑥2回目のリレーをする。</p> <table border="1" data-bbox="351 629 739 722"> <tr> <td>第1レース A-B-C</td> <td>第2レース D-E-F</td> </tr> </table> <p>リレーをしていないチームは交代で係をする。</p> <p>⑦学習のまとめをする。 結果を記録し、学習カードに記入し反省する。</p> <p>①準備運動をする。 ②トラックの安全点検をする。</p>	第1レース A-B-C	第2レース D-E-F	<p>作戦例</p> <p>走る順番を変える。</p> <p>速い人は出来るだけ長くバトンゾーンを使う。</p> <p>スタートの目安を決める。</p>	第1レース A-B-C	第2レース D-E-F	<p>○資料を利用し、自チームに合った作戦を考えさせる。</p> <p>○どの子ども満足するように作戦を工夫させる。</p> <p>○個人、チームの順に反省をする。</p> <p>○カードをもとに反省する。</p> <p>○キャップテンを中心にしてチームごとにさせる。</p>
第1レース A-B-C	第2レース D-E-F						
<p>作戦例</p> <p>走る順番を変える。</p> <p>速い人は出来るだけ長くバトンゾーンを使う。</p> <p>スタートの目安を決める。</p>							
第1レース A-B-C	第2レース D-E-F						
<p>ま と め 45 分</p>	<p>③めあての確認をする。</p> <p>④単元のまとめのリレーをする。 (6チーム対抗戦)</p> <p>⑤レース、練習、チームワークなどについて反省し、結果の整理をする。</p> <p>⑥グループの反省を発表する。</p> <p>○楽しく競走することが出来たか。</p> <p>○作戦を生かすことが出来たか。</p> <p>○勝敗を素直に認めることが出来たか。</p> <p>○みんなが楽しめるようにきまりは工夫したか。</p>	<p>○単元のまとめの学習であることを確認させる。</p> <p>○グループで反省したことを全体で話し合うようにする。</p> <p>○めあての達成の様子を発表させる。</p> <p>○工夫した点も発表させる。</p>					

8. 本時の学習展開 5

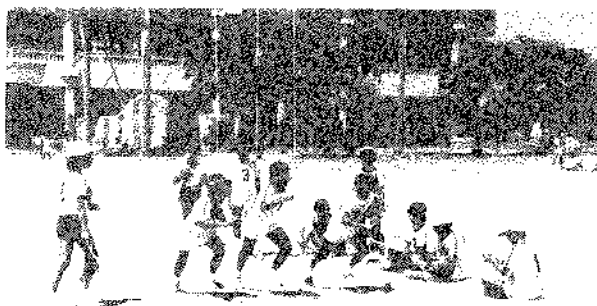
本時のねらい 6

作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。

<p>はじめ 7分</p>	<p>○みんなで協力し、学習の場をつくる。</p>  <p>150Mトラック</p> <p>40M</p> <p>スタートダッシュの練習場</p> <p>バトンパスの練習場</p> <p>○1人3人の場合 △1回2人の場合</p>	<p>施設・用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バトン（6本） ○ストップウォッチ ○笛 ○ゼッケン ○カラーコーン ○巻尺、ライン引き ○学習カード・資料
<p>学習のねらいと活動</p>		<p>指導</p>
<p>な か 2 28 分</p>	<p>ねらい2</p> <p>作戦を立て、練習の仕方を工夫してリレーを楽しむ。</p> <p>① チームで準備運動をする。 簡単な練習を加える 小きざみ走、おおまた走</p> <p>② 本時のねらいと道筋を知る。</p> <p>③ 学習のきまりや約束事を確認する。</p> <p>④ チームのめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて例</p> <p>スピードを落さないでバトンパスをする。</p> <p>バトンパスを確実に。</p> <p>バトンゾーンをうまく使おう。</p> </div> <p>⑤ 1回目のリレーをする。（対抗戦）</p>	<p>○キャプテンを中心に進めるように指導する。</p> <p>○チームごとにめあてを確認し、意欲的に学習できるように気持ちを高めさせる。</p> <p>○自チームの調子や相手チームの調子を知る。</p> <p>○係分担して手際良く行わせ自主的にリレーが進められるよう指導する。</p>

<p>な か 2 28 分</p>	<p>⑥レースの反省をし、チームの課題をつかむ。（作戦会議）</p> <p>⑦作戦を立て、チームで課題にせまる練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>練習例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バトンパス ・バトンゾーンの使い方 ・コーナーリング ・スタートダッシュ </div> <p>⑧2回目のリレーをする。</p>	<p>○チームの力でどこが不足しているところはどこか意識させる。</p> <p>○ロスの少ないバトンパスの重要性に気付かせる。</p> <p>○スタートの姿勢やバトンの受渡しの声、走り出すタイミングなどの助言を必要に応じてする。</p> <p>○練習したことや作戦がリレーに活かされているか。</p> <p>○勝敗は素直に認められるよう指導する。</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>⑨各チームで記録を整理し、学習の反省をする。</p> <p>⑩学習カードに記入し、自己評価をする。</p>	<p>○学習カードをもとに発表させる。</p> <p>○何を工夫したのか、それを練習や競走で生かしたか。</p>

4年授業風景



(5) 低学年 体育学習指導案

平成3年7月3日

大浜小学校1年1組

男15名 女14名 計29名

指導者 入福浜 美佐恵

1. 单元名 はばとびあそび

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

いろいろな幅のある場所を、片足や両足で踏み切ってとび友達と競走したりして、自分の記録に挑戦したりすることが楽しい運動である。

(2) 子供の立場からみた特性

- 走ったり跳んだりすることは大好きだ。何もなくて走ったり跳んだりすることより、絵があったり、線がかいてあるともいっきりできる。
- そのまま立って跳ぶよりも、走って跳んだ方が遠くまで跳べるので楽しい。
- 友達と跳びっこくらべをすともっと楽しい。

3. 児童の実態

一年生は走ること、跳ぶこと自体が楽しくてたまらないと言える。しかも、他人と競走すると、より遠くへ跳べるので競走意識が強い。

スポーツテストで立ち幅とびを経験したが、より遠くへ跳ぶということあまり意識せず楽しんで跳んでいた。しかし、中にはあまり緊張しすぎて跳ぶバランスが崩れてしまいあまり跳べない子がいた。

スポーツテストによる立ち幅とび記録

(5月29日実施)

	70~80cm	80~90cm	90~100cm	100~110	110~120	120~130	130~140	計
男	0	2	3	3	3	3	1	15
女	3	4	2	4	0	1	0	14
計	3	6	5	7	3	4	1	29

遊びの中で、ブランコから飛び降りたり、タイヤからタイヤへ跳んで渡っている。また、なわとびを使って大波小波をしたりと跳ぶ遊びは数多く経験している。こうしたことからほとんどの子が跳ぶことは楽しいと答えている。

4. 幅とび遊びに対する基本的な考え

一年生の子供は、活動欲求が強く運動に対する興味関心も極めて高い。中でも勝敗を競いあうリレーや音楽に合わせて体を動かすリズム的なゆーぎや遊びは、特に興味を持って取り組む。

これまで子供たちは、日常の中で川とびのような遊び数多く経験しているが、とぶこと自体が楽しい、友達と一緒に仲良く活動できるので楽しいということに満足している。まだ、自分の記録へ挑戦することには至っていない。

幅とびは出来るだけ遠くへ跳ぶことをめざす運動である。子供達は力いっぱい走ったり、跳んだりする欲求はあっても一つのことを長く続けて行うことが出来ないので、多様な場を設定して幅とび遊びに慣れさせ、友達と競走させたり、記録に挑戦させたりしたい。まず、川とび遊びでやさしい場をたくさん作りおもいっきり遊ばせることによって幅とび遊びを楽しんで行わせるようにさせたい。

5. 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

いろいろな跳び方で幅とび遊びをしたり、跳びやすいとび方で友達やグループで競走したりして幅とびを楽しむ。

(2) 学習の道筋

ねらい1

いろいろな跳び方で川とびを楽しむ。

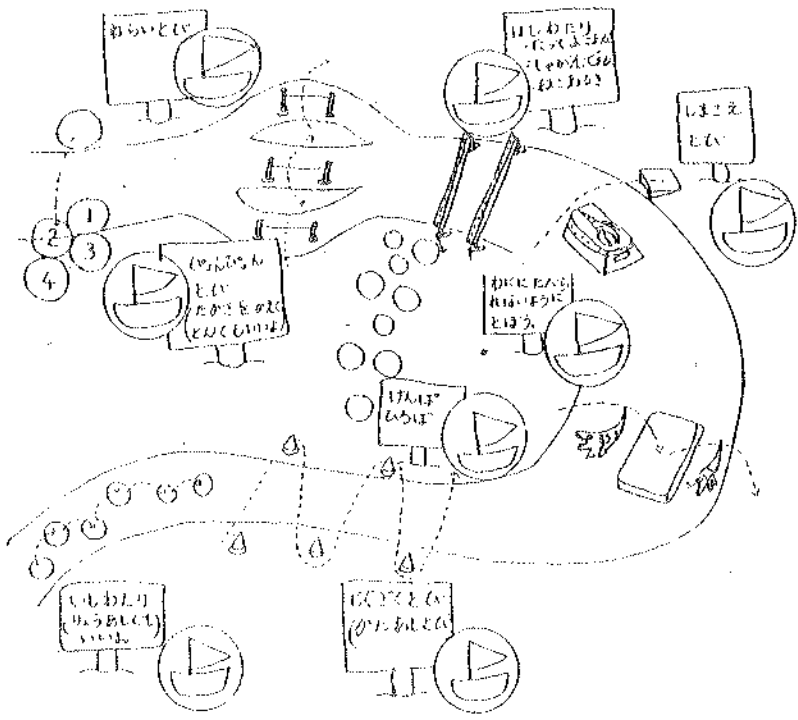
ねらい2

めあてを持って友達やグループで競走して楽しむ。

な
か
1
45
分
×
2

ねらい1
いろいろなどびかたで、かわとびをたのしむ。

①学習の場作りをする。



- ②音楽にあわせて自由に跳ぶ。
輪から輪へ
ラインからラインへ(川の中)
- ③めあてを確認する。
- ④いろいろな跳び方を知り、川
跳び遊びをする。

跳び方の例

- 両足ふみきり両足着地
- 片足ふみきり両足着地
- 片足ふみきり片足着地

- 学習の雰囲気作りをするため
ポンプの曲にあわせて跳べ
るよう助言する。
- グループで発表し、確認させ
る。
- 川はばに変化をつけたり、跳
び方に変化をつけさせたりす
るための条件立て札をたて、
意欲的に活動させる。

6. 時間配分

	1	2	3	4	5	6
10	は					
20	じ	ね	ら	い	1	
30	め					ま
40						と
						め

7. 学習指導の展開

	学習のねらいと活動	施設・用具
は じ め 45 分	①学習のねらいを理解し、学習の学び方をしる。	<ul style="list-style-type: none"> ○輪、平均台（2台） ○マット（1）踏切板、 ○跳び箱（一段目） ○ライン引き、ゴムひも ○カラーコーン、 ○ワニの絵 ○学習カード、資料
	②グループを作る。 ③みんなで楽しく幅とびあそびをするための約束をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 約束の例 ○ケガをしないようにきをつける。 ○順番を守る。 ○文句をいわない。 </div> ④学習カードの使い方をしる。	指 導 ○お互いに認めあい、励ましあいながら学習できるようにグルーピングする。 ○1年生に無理のないやさしいカードを作成し使い方をしる

な

川跳び遊びの例

○石わたり

・輪から輪へ

か

○ジグザグ跳び

・連続して跳んでいく

1

○けんば

・調子良くとぶ

○島わたり

・助走して跳ぶ

45

○島とびこえ

・ふみきり板を踏み切つてとぶ

分

・すばやくわたる

・立ってわたる

・立って横歩き

×

・しゃがんでわたる

・ネコわたり

2

○びよんびよんとび

・調子良くとぶ

○ねらい跳び

・勢い良く走ってきて着地
出来そうな輪をねらつてとぶ

・どの輪を跳ぶかスタート前宣言する

・どの輪まで跳べたか確かめておく

○出来そうな場所から順に挑戦したり、失敗したら何度も挑戦したりして川とび遊びを楽しませる。

○両足で踏み切るときの勢いのつけ方については示範して見せてやる。

○助走をつけても両足ふみきりになりやすい子には個別に指導する。

○ゴムの調整などもさせる。

○自分のできばえについて正確に振り返ることができるようにする。

ま ⑤学習のまとめをする。
 と ○個人カードに記録する。
 め ・めあては出来たか。
 ・約束は守れたか。
 ・友達と仲良く競走出来たか。
 ・楽しかったか。

○学習カードに記入させたり
 発表させたりして、学習の
 まとめをする。

ねらい2

めあてを持って友達やグループで競走して楽しむ。

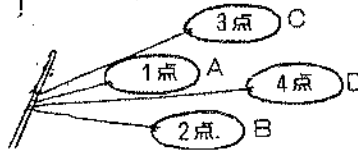
①学習の場作りをする。

か

- A.....100cm.....1点
- B.....120cm.....2点
- C.....140cm.....3点
- D.....160cm.....4点

②

〔助走をつけて
片足で〕

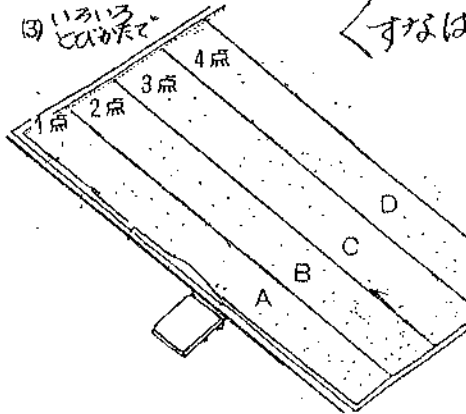


2

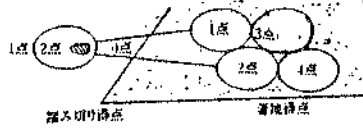
〈すなはて〉

45
分

③いろいろ
こまかく



(4) 助走をつけて
片足で...



×

2

+

25

②学習のめあてを確認する。
 ③競走する友達を決める。
 ・力の差の大きい相手は選ばない

○グループ対グループでさせる。

な	<p>④競走の仕方を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳んでみたい場を決める。 ・自分に跳べそうな距離に挑戦する。 	<p>○示された例（場）の中から選ばせる。</p>
か	<p>○競走の仕方の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの場所（跳び方）でどちらが遠くまで跳べるかを競う。 ・一つの場所（跳び方）でお互いに、自分の跳ぶ距離を決めておき、正確に跳べた回数の多さを競う。 ・複数の場所（跳び方）で跳んだ距離を得点化し、合計点を競う。 	<p>○競走の仕方については図などを使って具体的に分かりやすく説明を加える。</p>
2		
45		
分		
×		
2	<p>⑤練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きだけではなく、競走の仕方についても確かめながら練習する。 ・順番を守って練習する。 	<p>○場にあった跳び方が出来にくい子供には、個別に指導する。</p>
+		
25		
	<p>⑥競走する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳んだら学習カードに記録する 	<p>○友達の跳んでいるところを必ず見るように指導する。</p>
		<p>○学習カードを用いて取組みの結果がとらえやすいようにさせる。</p>
ま	<p>⑦できばえを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競走の結果だけではなく学習態度についても反省する。 	<p>○友達にも見てもらうようにする。</p>
と		
め		

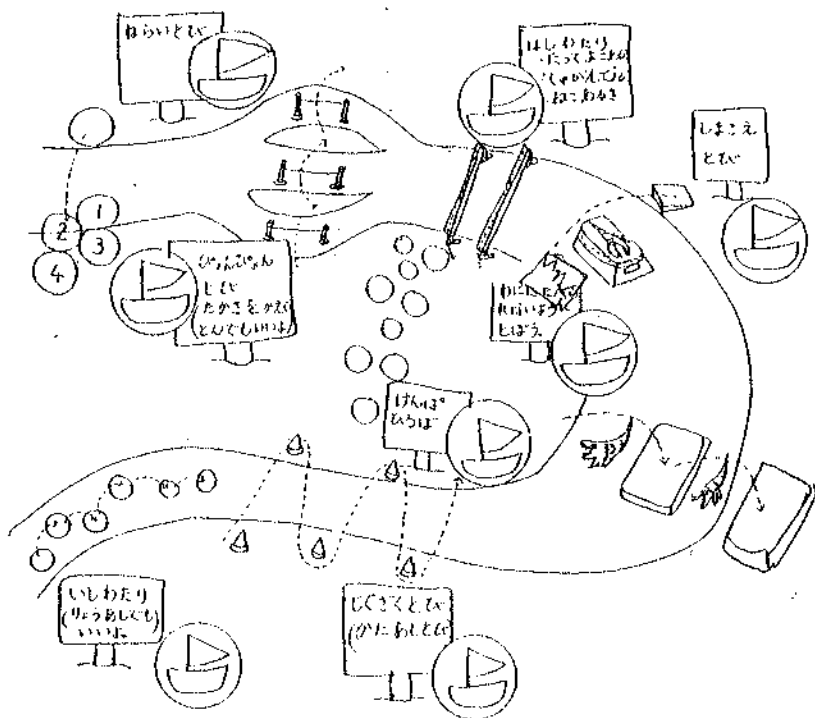
ま と め 20 分	○いろいろな跳び方ができるようになったか。また、少しでも遠くへ跳べるようになったかを確認する。 ○約束は守れたか。また、友達と仲良く競走することが出来たか反省する。 ○楽しかったことや今後やってみたいことなどについて話し合いまとめる。
------------------------	---

8. 本時の学習展開 $\frac{3}{6}$
本時のねらい

いろいろなとびかたで、かわとびをたのしむ。

は じ め 8 分	学習のねらいと活動	施設 ・ 用具
	①学習の場作りをする。	○輪、平均台、踏切板 ○跳び箱（一段目） ○マット、カラーコーン ○ゴムひも、ワニの絵 ○ライン引き
な か 1	②音楽にあわせて自由に跳ぶ。 ・輪から輪へ ・ラインからラインへ ③グループのめあてを確認する。	指導 ○学習の雰囲気作りをするためのブンブンの曲に合わせて跳べるよう助言する。
	ねらい いろいろなとびかたで、かわとびをたのしむ。 ④いろいろな跳び方で川とびを遊びをする。 ○跳び方の例 ・両足ふみきり両足着地 ・片足ふみきり両足着地 ・片足ふみきり片足着地	○前時の学習を振り返り、あまり出来なかった場所ややってみたい場所をきめて遊ばせるようにさせる。

な
か
1
30
分



遊び方の例

○石わたり

- ・ 輪から輪へ

○ジグザグ跳び

- ・ 連続して跳ぶ

○けんば広場

- ・ 調子良く跳ぶ
- ・ ジャンケン遊びをする。

○島わたり

- ・ 立ったまま跳ぶ
- ・ 走ってきて跳ぶ

○島とびこえ

- ・ 踏み切り板をふみ
- ・ きって跳ぶ

○両足跳びや片足跳びで自由に跳ばせる。

○片足ふみきりにした方がよいことに気付かせる。

○調子良く跳べるように、けんば遊びをさせる。

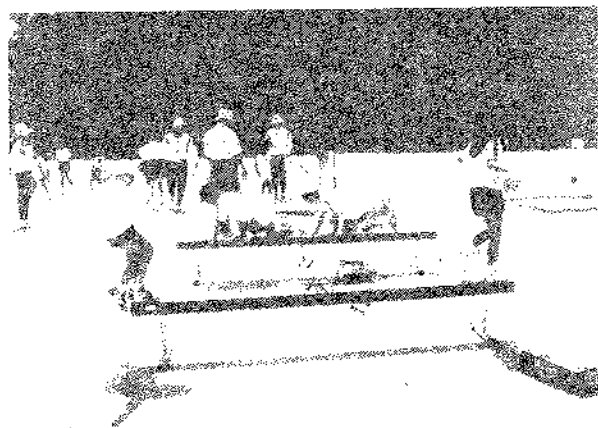
(音楽を準備する。)

○片足ふみきりで跳ぶようにさせる。

○助走をつけても両足ふみきりになりやすい子には個別に指導する。

<p>な か 1 30 分</p>	<p>○橋わたり ・立って歩く ・立って横歩き ・しゃがんで ・ネコ歩き ○ピョンピョン跳び ○ねらい跳び ・着地出来そうな輪を きめる ・どの輪まで跳べたか 確かめておく</p>	<p>○小さく分かれた川を調子よく 飛び越すようにさせる。 ○自分のできばえについて正確 振り返ることが出来るように する。 ○学習の進み具合を確かめる。 出来ないところや、楽しくつ てもっと遊びたい所へ挑戦さ せる。</p>
<p>ま と め 7 分</p>	<p>⑦学習のまとめをする。 ○めあてはできたか。 ○約束は守れたか。 ○友達と仲良く競走できたか。 ○楽しかったか。 ⑧次時の学習について知る。</p>	<p>○学習カードにまとめさせる。 ○学習してできるようになった ことや楽しかったことを発表 させる。</p>

1年授業風景



(6) 低学年 体育学習指導案

平成3年7月10日

大浜小学校2年2組

男12名、女16名、計28名

指導者 金 嶺 秀 子

1. 単元名 折り返しリレー

2. 運動の特性

(1) 一般的特性

2年生のリレー遊びは一定のルールのもとに直線や曲走路を全力ではしったり、途中でボールなどを置き換えたり、色々な障害物を渡ったり、くぐったりするコースを引き継いで走り、チーム対抗で勝敗を競う運動である。

リレー遊びの楽しさは、ルールが簡単でだれもが力いっぱい取り組むことができること、追い越す、追い越されるという競いあいや次の走者にうまくつないで勝ったときの壮快さにある。

(2) 子供の立場からみた特性

①楽しいときはどんなときですか（アンケートの結果より）

- 力いっぱい走って勝ったとき楽しい。
- 何回も走ることで記録が伸びるので楽しい。
- 走るのが好き。
- 障害などを超えてはしるのが楽しい。
- 色々な障害があると楽しい。

②楽しくないときはどんなときですか。

- 走るが遅いので楽しくない。
- 勝負に負けたとき。
- 追い越されたとき。

3. 児童の実態

最近、子供たちは一段と行動が活発になり、休み時間も常に走ったり、とんだりしている。50M走の記録をみると平均して足の遅い子が多いが、全員が体育は大好きである。走ることに関しては、どの子も「足が速くなりたい」という望みを持っている。しかし、中には数人ではあるが「走るのが遅いからいやだ」と言う子もいる。

4. リレーに対する基本的な考え

リレーはこれまでに様々な場面で経験していて、子供たちにとって楽しみのある教材である。全力ではしることや抜きつ抜かれつつ、レースが終わってみなければ勝敗が分からない緊張感がなんともいえないであろう。

低学年のリレーというと、バトンパスの練習、折り返しや回旋の小回りの練習、直線の走り方等、技術面の指導もあるが、それよりもリレーそのものを楽しませることを大切にしたい。そして、毎時間レースを数回繰返し行うことによって、子供にとっての運動の欲求をみだし、約束を守る態度、チーム意識を高め協力することの大切さや友達を思いやる心を育てることが出来ると考える。

5. 学習のねらいと道筋

(1) 学習のねらい

みんなできまりを決めて、作戦を立てながら折り返しリレーを楽しむ。

(2) 学習の道筋

ねらい1

きまりをきめて、いろいろなチームとリレーを楽しむ。

ねらい2

チームで作戦を考えながらリレーを楽しむ。

6. 時間の配分

	1	2	3	4	5	6
10	は					
20	じ	ねらい1		ねらい2		ま
30	め					
40						

7. 学習指導の展開

		学習のねらいと活動	施設 用具
45分	は	①学習のねらいを理解し学習の進め方を知る。	○バトン（お手だま、輪） ○笛、ゴムひも、ゼッケン ○カラーコーン、巻尺 ○得点板 ○学習カード、資料
	じ	②グループをつくる。 男女混合	指 導
	め	〔 5名×4チーム 4名×2チーム 〕	○チーム作りでは、どのチームも同じ力になるように50M走の記録をもとにつくる。
	分	③ルールや約束事について話し合う。 ④学習カードの使い方を知る。 ためしのリレーをする。	○楽しくリレー遊びをするために、仲良く練習したり応援をしたり、係りの仕事をすることを確認する。 ○チームの力が均等であるか確認し、それによって兄弟チームをつくる。

ねらい1

きまりを決めて、いろいろなチームとリレーを楽しむ

- | | | |
|----|--|--|
| な | ①準備運動をする。 | ○足首、ひざを特に念入りに行
う。 |
| か | ②今日のリレーの決まりや方法に
ついて話し合う。 | ○チームごとに、自分たちの
コースをゆっくり走って調子
を整える。 |
| 1 | ③学習のねらい、チームのめあて
を確認する。 | ○本時のリレーの仕方について。
○本時の係について。
○本時の対戦相手について。 |
| 45 | ④リレー1をする。(3チーム対戦)
例 第1レース A-B-C
第2レース D-E-F | ○リレーをしていないチームは
係りの仕事や応援をする。 |
| × | ⑤チームで話し合いをする。 | ○出来るだけいろいろなチーム
と対戦し、チームの特徴を知
る。 |
| 2 | ⑥リレー2をする。
例 第1レース A-D-F
第2レース B-C-E | ○チームで教えあつて記録する。 |
| | ⑦学習のまとめをする。
○各チームに分かれて各自記録
する。
○チームのめあてについて反省
する。
○みんなで反省する。
・本時のねらいについて。
・チームのめあてについて。
・良かった点、困った点に
ついて。 | |

ねらい2

チームで作戦を立て、リレーを楽しむ。

な

か

2

45

×

2

①準備運動をする。

②学習のねらい、チームのめあてを確認する。

③今日の学習の決まり、約束方法について話し合う。

④リレーをする。(1回戦)

例	第1レース	A-C-E
	第2レース	B-D-F

⑤反省をし、作戦を立てチームで練習する。

作戦例

バトンパス。

走る順序を変える。

リレーゾーンの利用方法

⑥リレーをする。(2回戦)

例	第1レース	A-C-E
	第2レース	B-D-F

⑦学習のまとめをする。

○各チームに分かれて各自記入。

○各チームのめあてについて反省する。

○みんなで反省する。

○本時のねらい、めあてについて。

○チームのめあてについて。

○良かった点、困った点について。

○足首、ひざを特に念入り行う。

チームごとに自分たちのコースをゆっくり走る。

学習カードで確認させる。

○本時のリレーの仕方について。

○本時の係について。

○本時の対戦相手について。

○3チーム対抗戦とする。

○リレーをしていないチームは係りの仕事や応援をする。

○負けたチームには教師が助言し、次のリレーでは少しでも速く走れるように励ます。

○話し合いがうまく行っているか観察する。

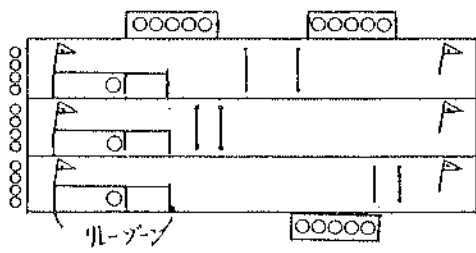
○作戦、練習が活かされているかをみる。

○チームで教えあっている。

<p>ま と め 45 分</p>	<p>①準備運動をする。</p> <p>②学習のねらい、めあてについて確認する。</p> <p>③単元まとめのリレーをする。 例 [6チーム対抗戦 兄弟チーム対抗戦</p> <p>④これまでのレース結果やチームワークなどについて反省する。</p> <p>⑤感想文を発表しあう。</p> <p>⑥表彰式をする。</p>	<p>○学習カードで確認させる。</p> <p>○これまでの学習が活かされているか観察する。</p> <p>○リレーの学習を終えての感想文を書く。</p> <p>○チームごとに発表する。</p> <p>○それぞれのチームにあった賞を与える。</p>
-----------------------------------	---	--

8. 本時の学習展開 $\frac{4}{6}$
 本時のねらい

チームで作戦を立てて、力いっぱい走りリレーを楽しむ。

<p>みんなで力を合わせて学習の場をつくる。(休み時間)</p>  <p>ルールゾーン</p>	<p>施設 ・用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バトン(輪) 6本 ○ゼッケン(28) ○カラーコーン ○ライン引き ○得点板 ○笛、旗(赤、白) ○学習カード(資料)
<p>学習のねらいと活動</p> <p>①準備運動をする。</p> <p>②今日の学習の決まりや、方法約束、係りなどの確認をする。</p> <p>③学習のねらい、チームのめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードを落さないようにして、コーンを回る。 ・バトンを渡すとき落さないようにする。 ・よそみをしないでまっすぐ走る。 ・ゴムを飛ぶときかからないようにする。 </div>	<p>指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○足首、ひざは特に念入りに行う。 ○チームごとにコースを走って調子を整える。 ○学習がスムーズに進められるようにする。 ○発表しあうことで学習への意欲づけとする。 ○チームのめあてが適切か確認し、必要に応じて助言する。

ねらい2

チームで作戦を立てて、力いっぱい走り、リレーを楽しむ

な
か
2
27
分

④ 1回目のリレーをする。

○第1レース

- チータチーム
- うさぎチーム
- タイガーチーム

○第2レース

- わしチーム
- ドラゴンクウェストチーム
- ネコチーム

⑤ 1回目のリレーの反省をし作戦を立てて、チームで練習をする。

作戦例

- ・走る順序を変える。
- ・バトンを素早く渡す。
- ・ゴムの置場所を変える。
- ・リレーゾーンの利用方法を工夫する。

⑥ 2回目のリレーをする。

○第1レース

- チータチーム
- うさぎチーム
- タイガーチーム

○第2レース

- わしチーム
- ドラゴンクウェストチーム
- ネコチーム

⑦ 今日のリレーの結果を確認する。

○3チーム対抗戦とする。

○準備は短時間でできるように指導する。

○リレーのないチームは係りの仕事や応援をする。

○負けたチームにはどのような原因で負けたか考えさせ、それを解決できるような助言をして励ます。

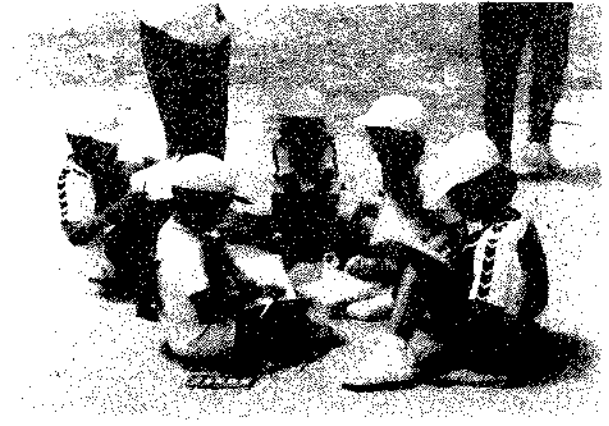
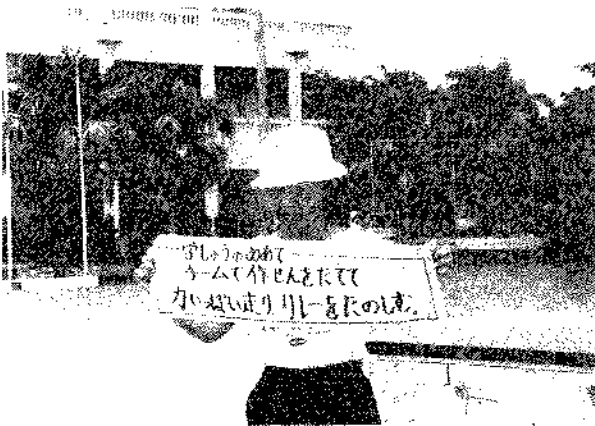
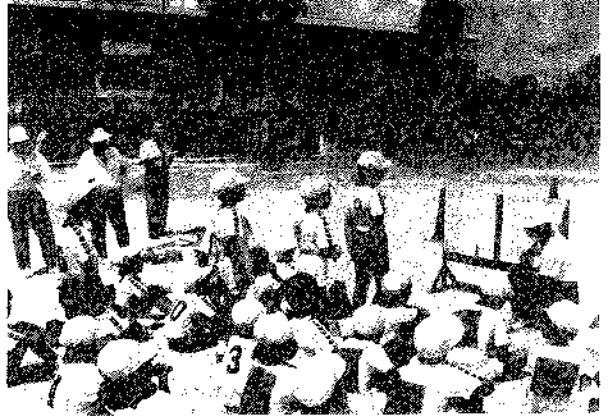
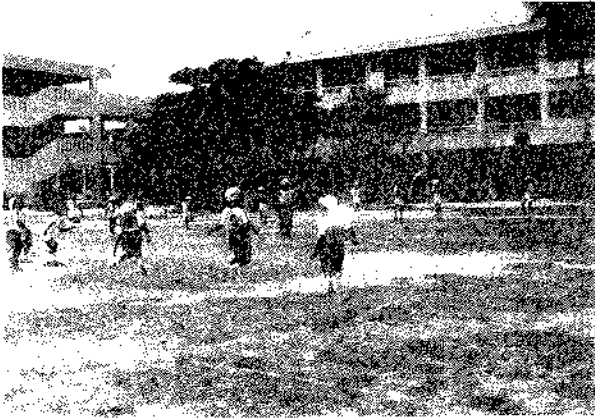
○兄弟チームでも相談できるようにする。

○作戦や練習が生かされているか観察し必要に応じてまとめで助言する。

○勝敗にたいして正しい態度がとれているか観察する。

<p>ま と め 10 分</p>	<p>⑧学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各チームに分かれて各自記入する。 ○各チームのめあてについて省する。 ○みんなで反省する。 <p>⑨後かたづけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○チームで教えあいながら記入する。 ○本時のねらい、チームのめあて、良かった点、困った点などについて発表する。 ○みんなで協力し、短時間でできるように指導する。
-----------------------------------	---	--

2年授業風景



2. 施設・用具部

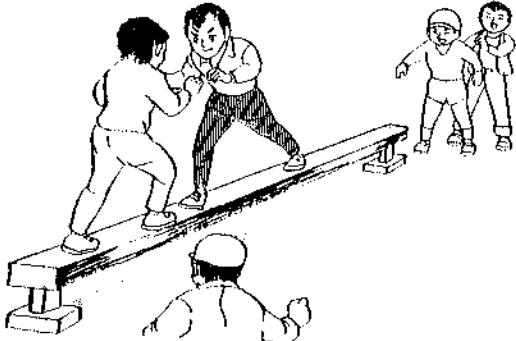
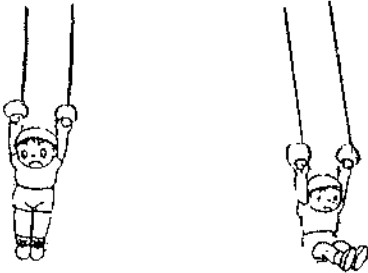
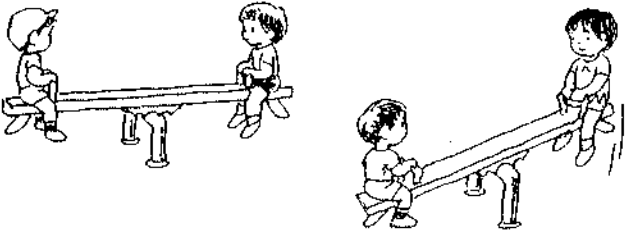
(1) ねらい



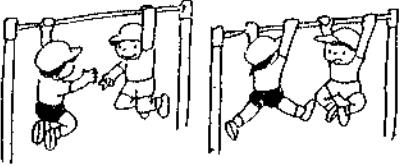





子供たちがいつでも、どこでも、安全に楽しく活動し、体力を増進することができるように施設・用具を整え、環境を整備しておく。

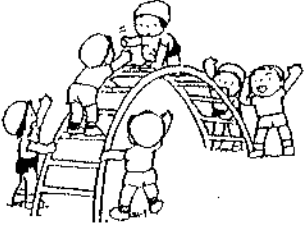
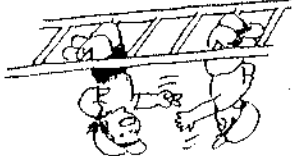
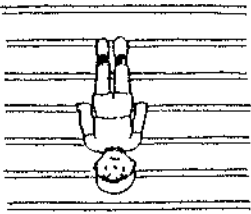
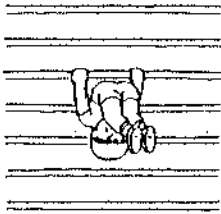

(2) 内容

- ①施設・用具の研究と安全点検
- ②施設・用具の調査研究
- ③学校環境の整備と美化
- ④教具についての研究

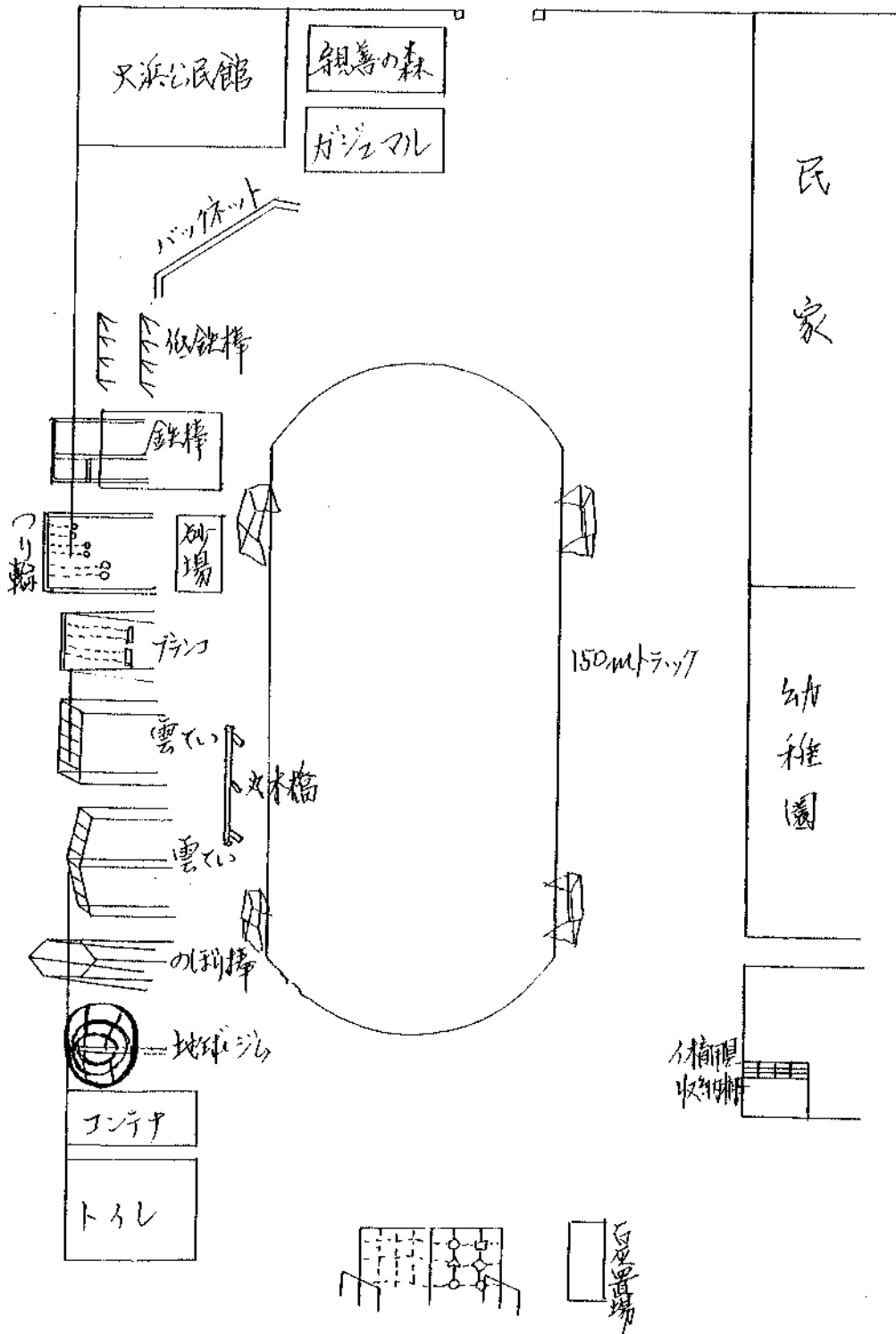
(3) 施設・用具の利用法 本年度は、楽しく遊ぶことで、子どもの体力増進を図ろうと、遊具の利用について考えてみた。

観 察	遊 び 方	工 夫
平 均 台	<p>◎落としっこ</p> 	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ よう。</p>
つ り 輪	<p>◎ふり遊び</p> 	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ よう。</p>
シ ー ソ ー	<p>◎バランス遊び</p> <p>(上下の動き)</p>  <p>(平均になるように)</p>	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ よう。</p>

題名	遊 び 方	工 夫
う め こ み タ イ ヤ	<p>◎踏み越し</p>  <p>◎腕立てして飛び越し</p> 	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ ましょう。</p>
鉄 棒	<p>◎ぶらさがりじゃんけん</p>  <p>・手や足でじゃんけんをする。</p>	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ ましょう。</p>
の ぼ り 棒	<p>◎登りおり</p>      <p>・手足で、手だけで登る。 ・2本の棒を手足で、手だけで登る。 ・回転おりや跳びおりをする。</p>	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ ましょう。</p>

題名	遊 び 方	工 夫
雲 梯	<p>◎陣取り競争</p>  <p>◎こうもりじゃんけん</p> 	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ ましょう。</p>
ろ く 木	<p>◎持久懸垂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足抜きをして逆さ懸 垂をする。  <ul style="list-style-type: none"> ・足抜き回りをする。 	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ ましょう。</p>
ぶ ら ん こ	<p>◎腰かけ両足こぎ</p> 	<p>もっと楽しい遊 びを工夫してみ よう。</p>

(4) 施設の種類と設置場所



(5) 体育用具の一覧表

番	品 目	基準数量	現有数量(1989)	1990	1991	±
1	記録用黒板	2	0	0	0	-2
2	教授用掛け図(体育)	1	0	0	0	-1
3	教授用掛け図(保健)	1	0	0	0	-1
4	跳び箱	4	5	5	6	+2
5	踏み板	4	5	5	5	+1
6	踏切距離調節器	4	0	0	0	-4
7	マット	8	2	2	2	-6
8	セフティマット	2	1	1	1	-1
9	低鉄棒	3	0	0	0	-3
10	平均台	3	4	4	4	+1
11	タンブリン	4	0	0	0	-4
12	体育用太鼓	2	0	0	0	-2
13	オルガン	1	0	0	0	-1
14	ライン引き	3	3	5	5	+2
15	信号機	1	0	0	0	-1
16	走り高飛び用スタンド	2	1	1	1	+1
17	バトン	12	15	15	21	+9
18	ハードル	12	14	14	19	+7
19	体操用腰掛け	23	0	0	0	-23
20	ソフトボール用一式	1	0	0	0	-1
21	ホームベース	1	0	0	0	-1
22	塁ベース	1組	0	0	0	-1
23	バックネット	1	0	0	0	-1
24	テニスラケット	4	0	0	0	-4
25	テニス用支柱ネット	1	0	0	0	-1

番	品 目	基準数量	現有数量(1989)	1990	1991	±
26	サッカーゴールポスト	1	0	0	0	-1
27	サッカーゴールネット	1	0	0	0	-1
28	バスケットゴール	1	0	0	0	-1
29	バトミントン一式	2	0	0	0	-2
30	卓球一式	2	0	0	0	-2
31	ポートボール台	4	1	1	1	-3
32	ボール整理かご	3	0	0	0	-3
33	石灰入れ	1	0	0	0	-1
34	昇降運動用踏み台	1	0	0	0	-1
35	体操用棒	45	0	0	0	-45
36	体操用輪	45	45	45	45	0
37	ボール投的板	2	0	0	0	-2
38	旗立台	12	0	1	1	-11
39	シャベル	4	0	0	0	-4
40	砂ならし	2	0	0	0	-2
41	空気入れ	3	0	0	0	-3
42	長縄	9	13	13	13	+9
43	短縄	23	0	0	0	-23
44	ビート板	23	0	0	0	-23
45	残留塩素測定器	1	0	0	0	-1
46	上体そらし測定器	1	0	1	1	0
47	体前屈測定器	1	0	1	1	0
48	垂直とび測定器	1	0	0	0	-1
49	歩数計	2	0	0	0	-2
50	マルチン式人体測定器	1	0	0	0	-1
51	フリッカー値測定器	1	0	0	0	-1

部	品 目	基準数量	現有数量(1989)	1990	1991	±
52	肺活量計	1	0	0	0	-1
53	握力計	2	0	1	1	-1
54	背筋力計	1	0	1	1	0
△印は基準に無いもの						
△	巻き尺 (30メートル)			1		
△	巻き尺 (50メートル)			1		
△	検尺 (100メートル)			0		
△	逆上がり補助器			0		
△	得点板			0		
△	ストップウォッチ			1		
△	サッカーボール			11		
△	バスケットボール			9		
△	ドッジボール			11		
△	ゲーム用ベスト			20		
△	シグナルセット			0		
△	一輪車			23		
△	ソフトボール			6		
△	スターティングブロック			2		
△	コーン			13		
△	竹馬			6		
△	綱引き用縄(50メートル)			2		
△	エバーミニポンプDX			0		
△	跳び箱			0		
△	ロイター板 JRV			0		
△	シグナル			1		

3. 調査研究部

(1) ねらい

スポーツテスト、各種の調査を行なうことにより、児童の体力、運動能力の実態並びに特徴を把握する。さらに、学校生活の様子や父母の考え方をしり、体力づくりを推進していくための資料とする。

(2) 内容

- ① 児童の体位の調査
- ② スポーツテストの集計・考察
- ③ 体育学習についてのアンケート調査
- ④ 校外での児童の実態調査
- ⑤ 父母の体力づくりに関する意識調査

(3) 本校児童の体位 (平成3年度)

○ 県・全国との比較

▲・・・国の平均より優位 ●・・・県の平均より優位 (県・国一平成2年度資料)

		男 子					女 子						
		6	7	8	9	10	11	6	7	8	9	10	11
身長	本校	115.5	119.3	125.4	130.9	137.2	142.5	114.4	120.2	126.9	131.3	141.1	145.4
	沖縄	115.3	121.0	126.4	131.4	136.6	143.0	114.8	120.5	126.2	132.2	139.0	145.6
	全国	116.8	122.5	128.1	133.2	138.6	144.4	116.0	121.8	127.4	133.1	139.5	146.3
体重	本校	●	22.0	26.4	▲	▲	▲	▲	●	25.1	▲	▲	▲
	沖縄	21.1	23.6	26.5	29.7	33.1	37.6	20.6	23.1	26.1	29.7	34.1	39.0
	全国	21.5	24.0	27.2	30.3	33.9	38.0	21.0	23.6	26.6	29.9	34.0	38.9
胸囲	本校	57.5	59.5	61.9	64.7	68.2	71.7	●	56.6	57.9	▲	▲	▲
	沖縄	57.5	59.7	62.2	64.6	67.2	70.1	56.1	58.2	60.8	63.7	67.4	71.3
	全国	58.0	60.1	62.7	65.2	67.9	70.6	56.7	58.8	61.3	64.0	67.3	71.2
高座	本校	64.7	66.0	69.7	72.1	74.3	77.4	●	63.8	66.8	●	●	▲
	沖縄	64.7	67.2	69.7	72.0	74.2	76.9	64.3	66.9	69.6	72.3	75.5	78.9
	全国	65.3	67.9	70.4	72.6	74.9	77.4	64.9	67.5	70.0	72.6	75.6	79.0

- 5, 6年男子の体重、胸囲は全国平均を上回っている。
- 5年女子は、どの項目においても全国平均を上回っている。
- 5年生の男女ともその体位は、全国平均並である。
- 全体的に見ると本校児童の体位は、全国及び県平均並になりつつある。

(4) スポーツテストの結果と考察

① 体力診断テスト

沖縄県-平成2年度

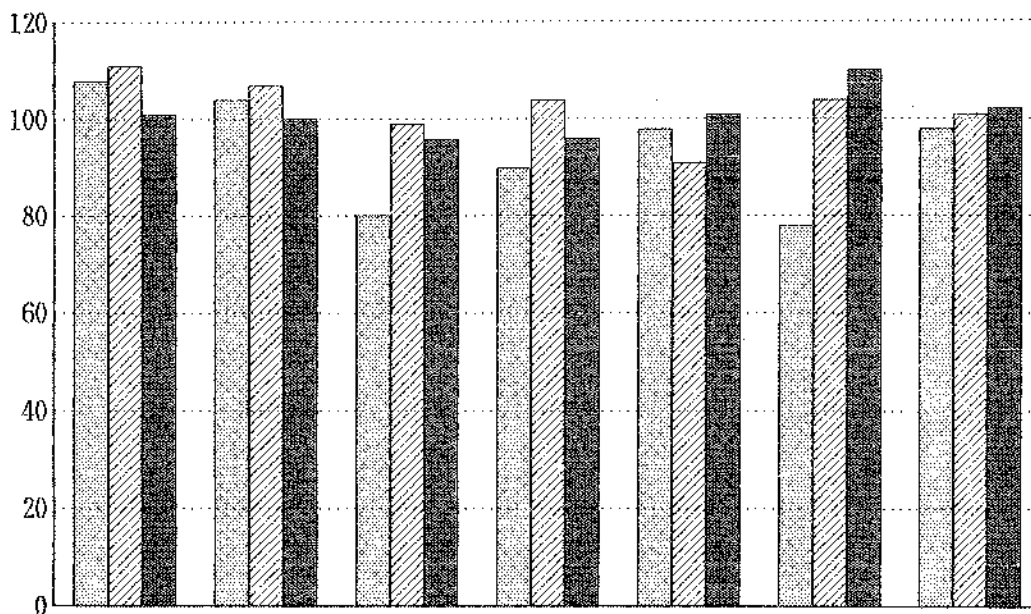
全国-平成1年度

性別		男 子							
年齢	地域	種目	反復横とび(回)	垂直とび(cm)	握力(kg)	伏臥上体そらし(cm)	立位体前屈(cm)	踏み台昇降運動(指数)	背筋力(kg)
		10才	全 国	37.7	34.5	18.2	44.4	6.7	70.8
	県	39.2	34.2	17.4	43.9	6.6	67.0	55.5	
	本 校	1年次	41.0	36.0	14.7	40.0	6.6	55.8	56.5
		2年次	42.0	37.2	18.1	46.3	6.1	74.2	58.6
		3年次	38.2	34.8	17.5	42.7	6.8	78.0	58.8

全国を100としたときの本校の実態

10才男子

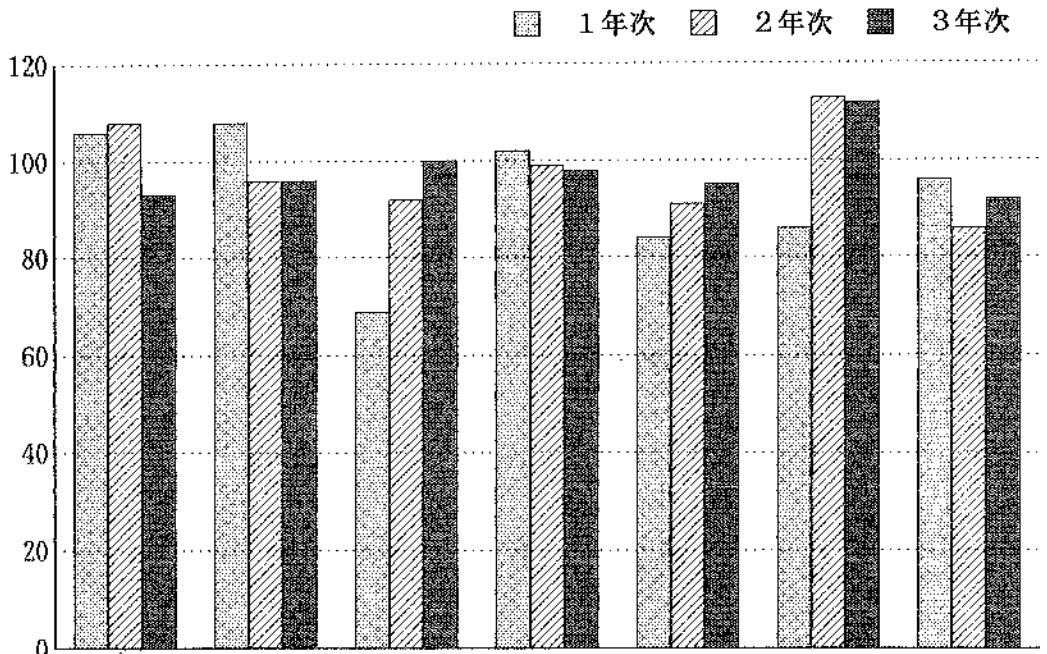
■ 1年次 ▨ 2年次 ■ 3年次



	反復横とび	垂直とび	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降	背筋力
1年次	108	104	80	90	98	78	98
2年次	111	107	99	104	91	104	101
3年次	101	100	96	96	101	110	102

性別		女子								
年齢	地域	種目	反復横とび(回)	垂直とび(cm)	握力(kg)	伏臥上体そらし(cm)	立位体前屈(cm)	踏み台昇降運動(指数)	背筋力(kg)	
10才	全国		36.5	33.2	17.0	45.4	9.4	65.7	47.7	
	県		37.8	32.5	16.3	45.4	8.2	62.4	44.2	
	本校	1年次		39.0	36.0	11.8	46.4	7.9	57.1	46.0
		2年次		39.6	32.1	15.7	45.3	8.6	74.3	41.3
		3年次		34.2	32.0	17.0	44.7	9.0	73.8	43.9

全国を100としたときの本校の実態
10才女子

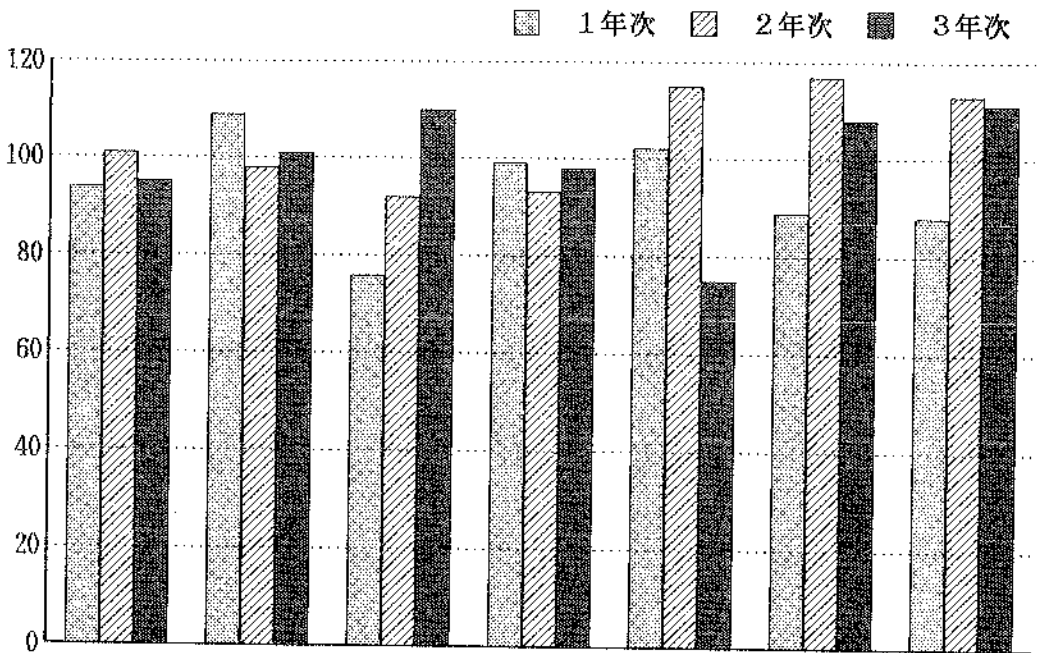


	反復横飛び	垂直飛び	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降	背筋力
1年次	106	108	69	102	84	86	96
2年次	108	96	92	99	91	113	86
3年次	93	96	100	98	95	112	92

性別		男子								
年齢	地域	種目	反復横	垂直とび	握力	伏臥上体	立位体	踏み台	背筋力	
		とび(回)	(cm)	(kg)	そし(cm)	前屈(cm)	昇降運動(回数)	(kg)		
11才	全国		41.5	38.3	21.8	46.2	7.0	71.0	67.6	
	県		41.1	37.7	20.5	45.3	6.7	67.8	63.5	
	本校	1年次		39.2	42.1	16.7	45.9	7.2	68.5	59.9
		2年次		42.0	37.9	20.1	43.1	8.1	83.6	76.6
		3年次		39.6	38.7	24.0	45.3	5.3	76.7	75.1

全国を100としたときの本校の実態

11才男子



	反復横飛び	垂直飛び	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降	背筋力
1年次	94	109	76	99	102	89	88
2年次	101	98	92	93	115	117	113
3年次	95	101	110	98	75	108	111

沖縄県-平成2年度

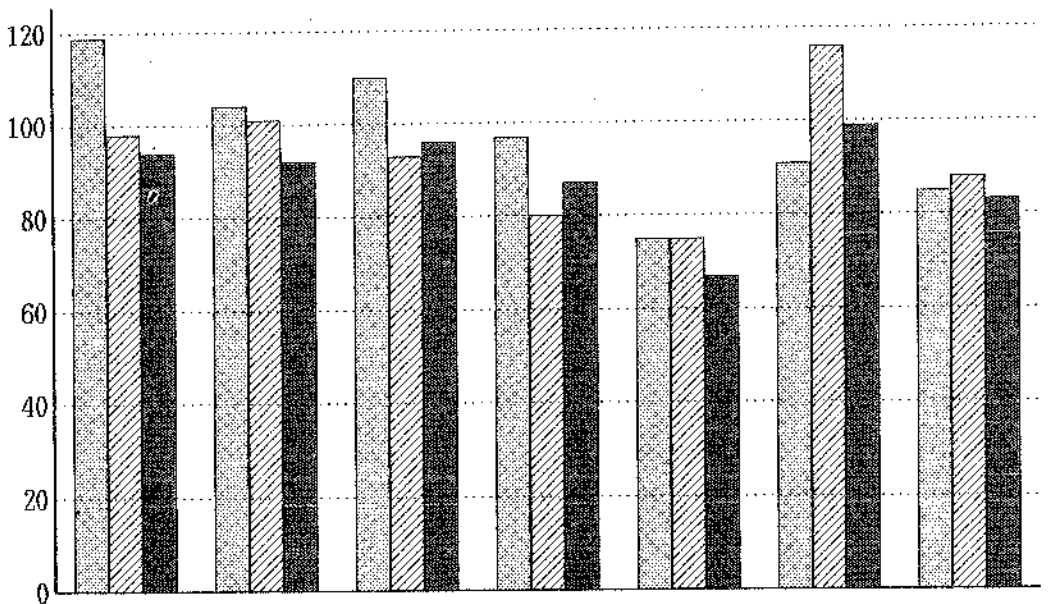
全国-平成1年度

性別		女子							
年齢	種目	反復横とび(回)	垂直とび(cm)	握力(kg)	伏臥上体 持ち(cm)	立位体 前屈(cm)	踏み台 昇降運動(回数)	背筋力(kg)	
	地域								
11才	全国	39.5	36.1	19.6	48.3	10.4	65.6	55.9	
	県	37.8	32.5	16.3	45.4	8.6	62.8	44.2	
	本校	1年次	47.2	37.8	21.7	47.0	7.9	59.9	47.9
		2年次	39.0	36.9	18.3	38.9	7.9	76.4	49.5
		3年次	37.5	33.3	19.0	42.3	7.0	65.4	46.4

全国を100としたときの本校の実態

11才女子

■ 1年次 ▨ 2年次 ■ 3年次

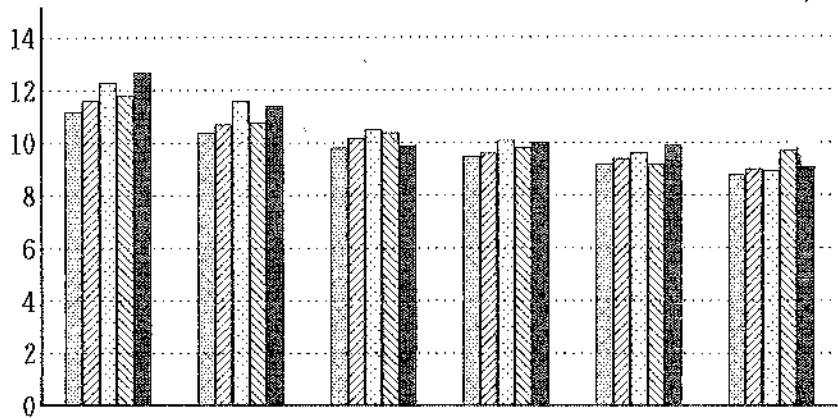


	反復横飛び	垂直飛び	握力	伏臥上体	立位体前屈	踏み台昇降	背筋力
1年次	119	104	110	97	75	91	85
2年次	98	101	93	80	75	116	88
3年次	94	92	96	87	67	99	83

② 運動能力テスト

50m走(秒) 男子
 沖縄県(平成2年度) 全国(平成1年度)

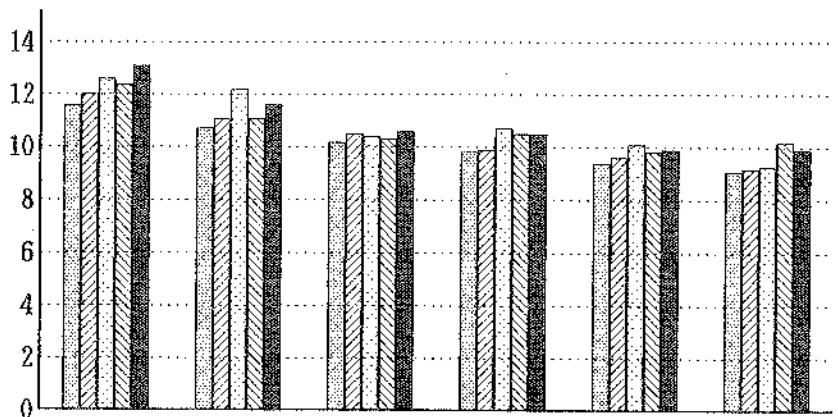
■全国 ▨沖縄県 □本校1年次 ▩本校2年次 ■本校3年次



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全国	11.2	10.4	9.8	9.5	9.2	8.8
沖縄県	11.6	10.7	10.2	9.6	9.4	9.0
本校1年次	12.3	11.6	10.5	10.1	9.6	8.9
本校2年次	11.8	10.8	10.4	9.8	9.2	9.7
本校3年次	12.7	11.4	9.9	10.0	9.9	9.3

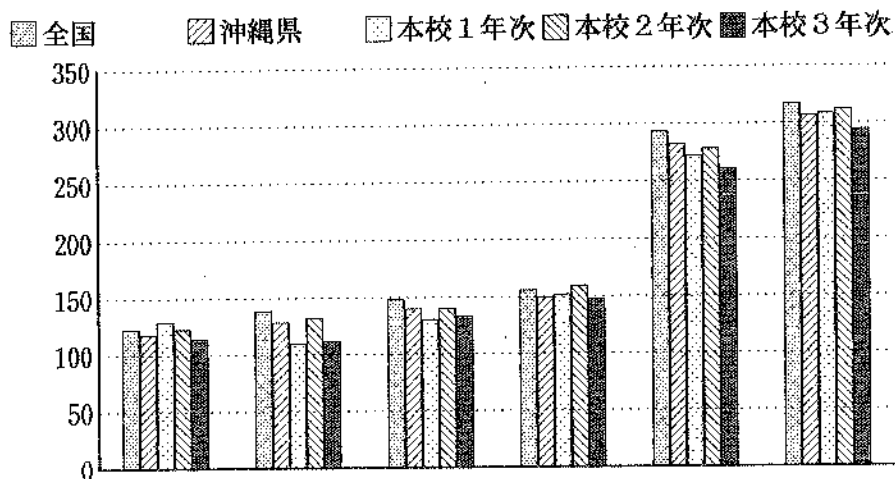
50m走(秒) 女子
 沖縄県(平成2年度) 全国(平成1年度)

■全国 ▨沖縄県 □本校1年次 ▩本校2年次 ■本校3年次



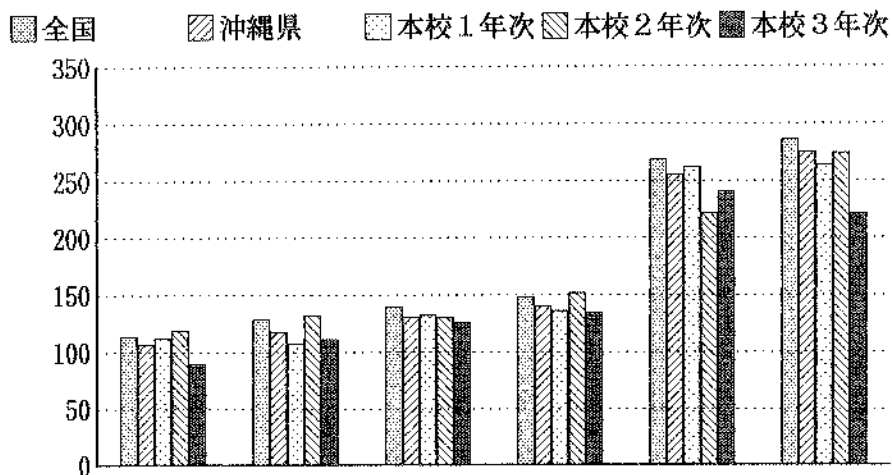
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全国	11.6	10.7	10.2	9.8	9.4	9.1
沖縄県	12.0	11.1	10.5	9.9	9.6	9.2
本校1年次	12.6	12.2	10.4	10.7	10.1	9.3
本校2年次	12.4	11.1	10.3	10.5	9.8	10.2
本校3年次	13.1	11.6	10.6	10.5	9.9	9.9

立ち巾とび (cm) 男子
 沖縄県(平成2年度) 全国(平成1年度)



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全国	123.3	138.9	148.9	156.4	293.8	317.5
沖縄県	118.0	129.0	140.4	149.7	282.9	307.4
本校1年次	130.0	110.0	131.0	152.0	272.0	309.0
本校2年次	123.0	133.0	140.0	160.0	279.0	313.0
本校3年次	114.5	111.7	133.2	147.7	260.8	294.7

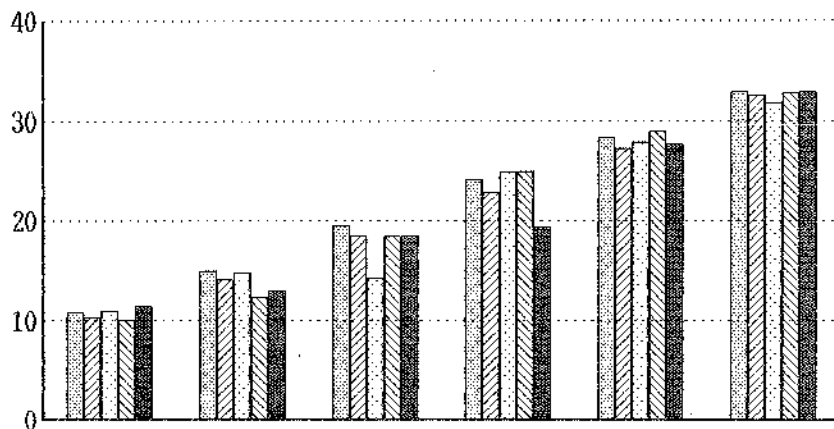
立ち巾とび (cm) 女子
 沖縄県(平成2年度) 全国(平成1年度)



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
全国	113.5	128.9	139.8	148.6	269.1	286.1
沖縄県	107.1	118.0	130.5	140.3	256.6	275.8
本校1年次	113.0	108.0	133.0	136.0	262.5	265.0
本校2年次	119.4	133.0	130.6	152.0	222.3	275.0
本校3年次	90.5	111.6	126.4	134.5	241.5	221.1

ソフトボール投げ (m) 男子
 沖縄県(平成2年度) 全国(平成1年度)

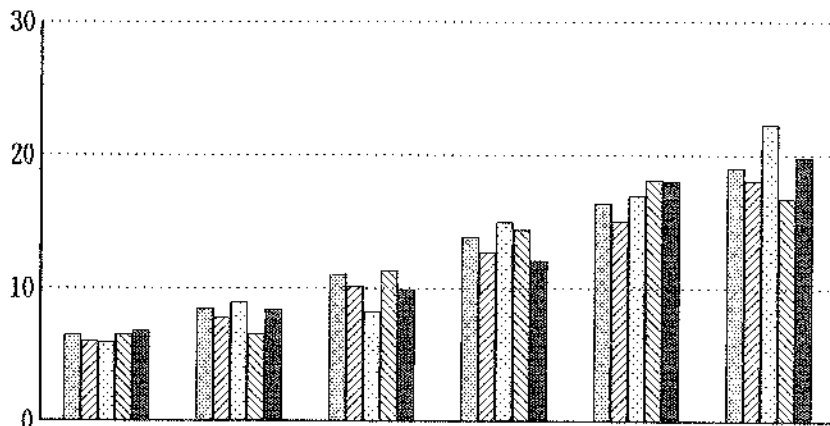
■全国 ▨沖縄県 ▩本校1年次 ▪本校2年次 ■本校3年次



	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
全国	10.8	15.0	19.5	24.2	28.4	33.0
沖縄県	10.4	14.1	18.6	23.0	27.4	32.6
本校1年次	11.0	14.8	14.3	25.0	28.0	31.9
本校2年次	10.0	12.4	18.4	25.0	29.1	32.8
本校3年次	11.4	13.0	18.6	19.4	27.8	33.0

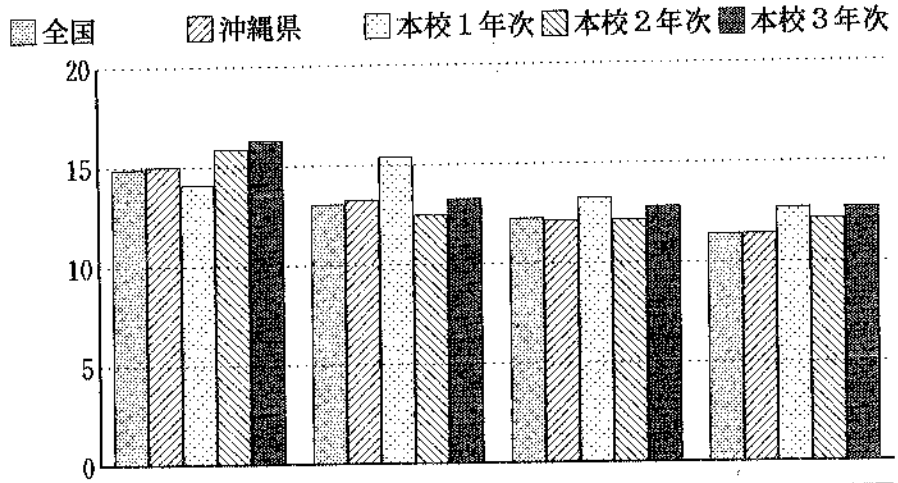
ソフトボール投げ (m) 女子
 沖縄県(平成2年度) 全国(平成1年度)

■全国 ▨沖縄県 ▩本校1年次 ▪本校2年次 ■本校3年次



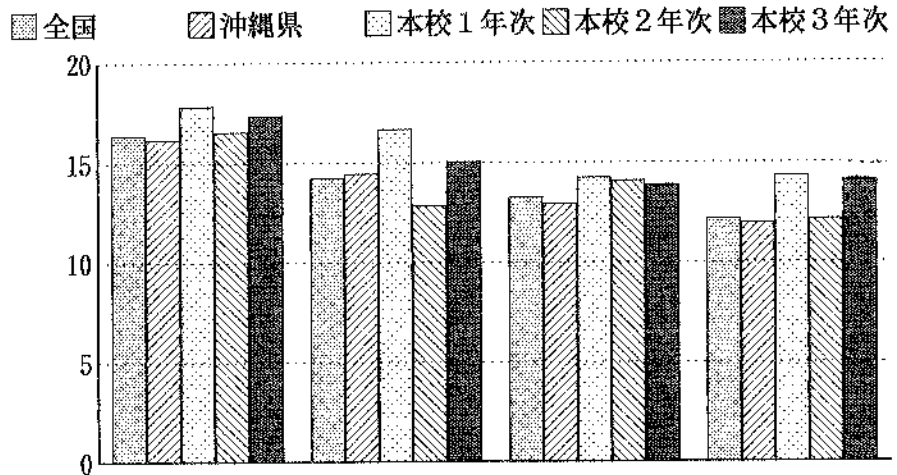
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
全国	6.5	8.5	11.1	13.9	16.5	19.1
沖縄県	6.0	7.9	10.2	12.8	15.1	18.1
本校1年次	5.9	9.0	8.3	15.0	17.0	22.3
本校2年次	6.6	6.6	11.4	14.5	18.2	16.8
本校3年次	6.8	8.4	9.9	12.1	18.1	19.9

飛び越しくぐり（秒）男子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）



	1 年	2 年	3 年	4 年
全国	14.9	13.1	12.3	11.4
沖縄県	15.0	13.3	12.2	11.4
本校1年次	14.1	15.4	13.3	12.7
本校2年次	15.9	12.5	12.2	12.2
本校3年次	16.3	13.3	12.8	12.7

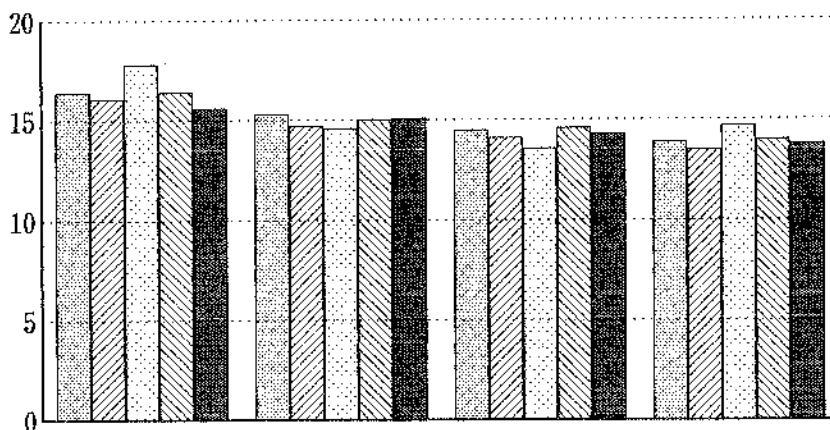
飛び越しくぐり（秒）女子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）



	1 年	2 年	3 年	4 年
全国	16.4	14.3	13.3	12.2
沖縄県	16.2	14.5	13.0	12.0
本校1年次	17.9	16.7	14.3	14.4
本校2年次	16.6	12.9	14.1	12.2
本校3年次	17.4	15.1	13.9	14.0

持ち運び走（秒）男子
 沖縄県-平成2年度 全国-平成1年度

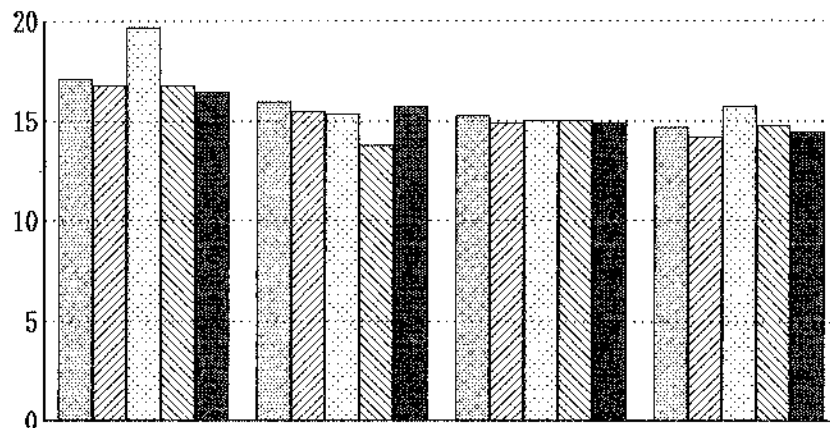
■全国 ■沖縄県 ■本校1年次 ■本校2年次 ■本校3年次



	1年	2年	3年	4年
全国	16.4	15.3	14.5	13.9
沖縄県	16.1	14.7	14.1	13.5
本校1年次	17.8	14.6	13.6	14.7
本校2年次	16.4	15.0	14.6	14.0
本校3年次	15.6	15.1	14.3	13.8

持ち運び走（秒）女子
 沖縄県-平成2年度 全国-平成1年度

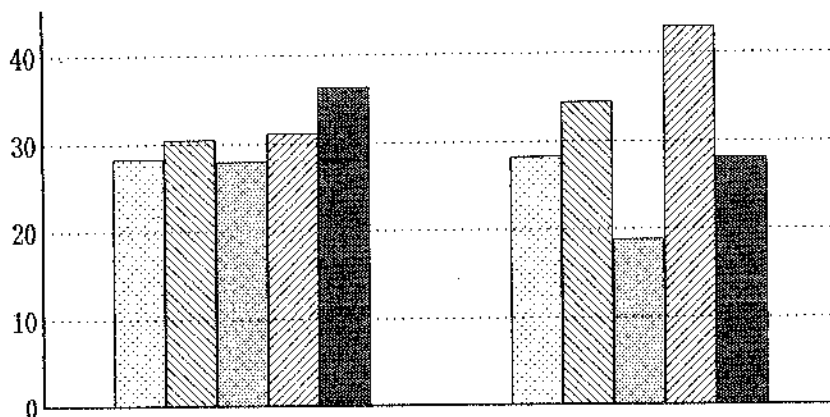
■全国 ■沖縄県 ■本校1年次 ■本校2年次 ■本校3年次



	1年	2年	3年	4年
全国	17.1	16.0	15.3	14.7
沖縄県	16.8	15.5	14.9	14.2
本校1年次	19.7	15.4	15.1	15.8
本校2年次	16.8	13.8	15.1	14.8
本校3年次	16.5	15.8	14.9	14.5

けん垂（回）男子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）

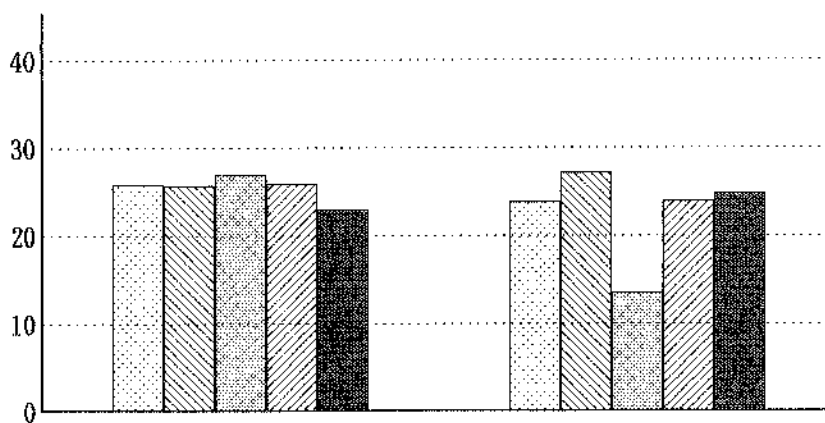
■全国 ■沖縄県 ■本校1年次 ■本校2年次 ■本校3年次



	5年	6年
全国	28.4	28.4
沖縄県	30.5	34.6
本校1年次	28.0	18.8
本校2年次	31.3	43.0
本校3年次	36.4	28.1

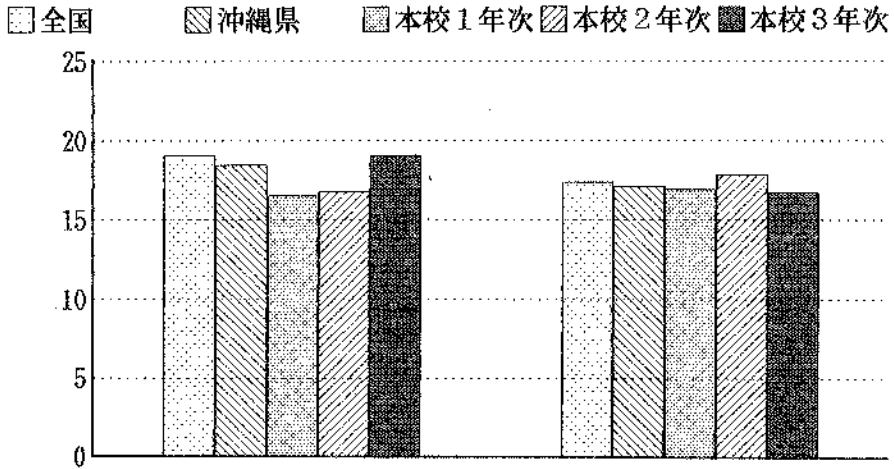
けん垂（回）女子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）

■全国 ■沖縄県 ■本校1年次 ■本校2年次 ■本校3年次



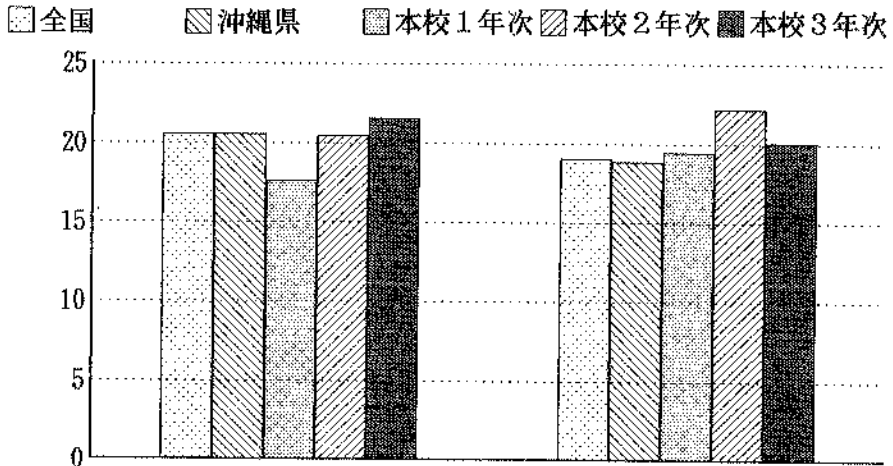
	5年	6年
全国	25.9	23.8
沖縄県	25.8	27.3
本校1年次	27.0	13.6
本校2年次	25.9	24.0
本校3年次	23.0	24.8

ジグザグドリブル（秒）男子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）



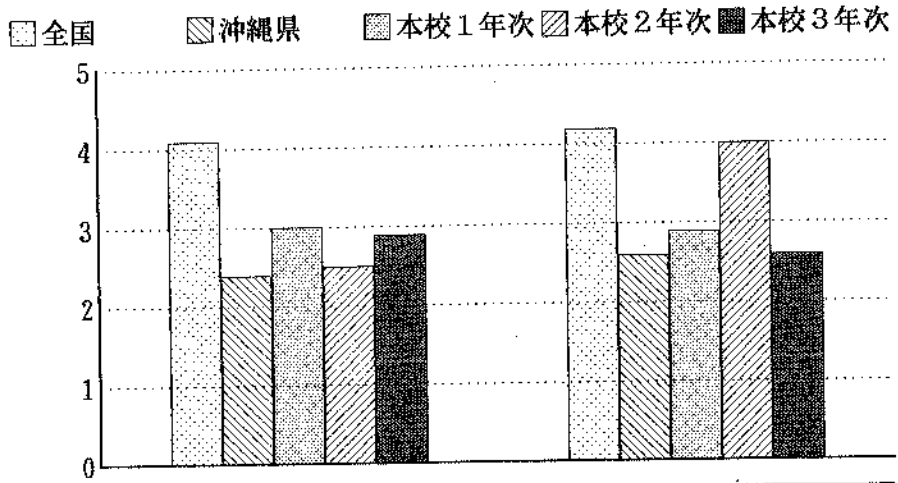
	5年	6年
全国	19.1	17.4
沖縄県	18.5	17.1
本校1年次	16.5	16.9
本校2年次	16.8	17.9
本校3年次	19.1	16.7

ジグザグドリブル（秒）女子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）



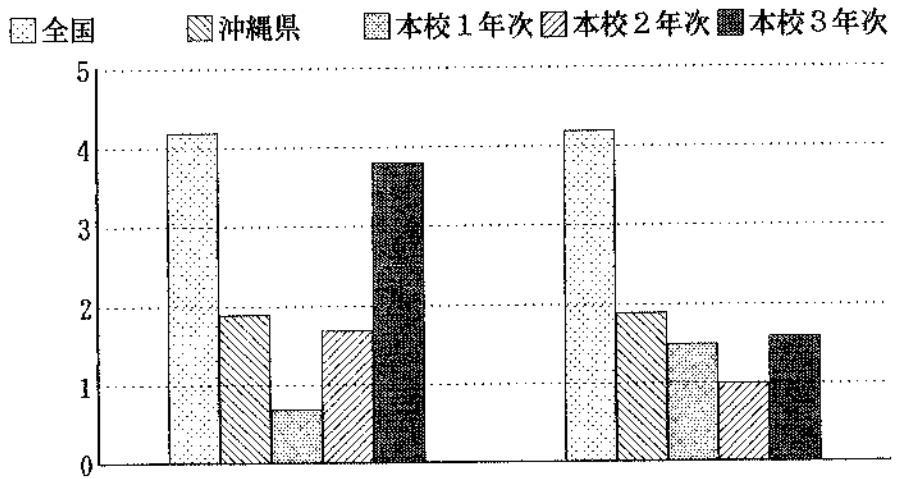
	5年	6年
全国	20.6	19.1
沖縄県	20.6	18.9
本校1年次	17.7	19.5
本校2年次	20.5	22.2
本校3年次	21.6	20.1

連続さか上がり（回）男子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）



	5年	6年
全国	4.1	4.2
沖縄県	2.4	2.6
本校1年次	3.0	2.9
本校2年次	2.5	4.0
本校3年次	2.9	2.6

連続さか上がり（回）女子
 沖縄県（平成2年度） 全国（平成1年度）



	5年	6年
全国	4.2	4.2
沖縄県	1.9	1.9
本校1年次	0.7	1.5
本校2年次	1.7	1.0
本校3年次	3.8	1.6

〈考察〉

1. 運動能力テストについて（全国平均との比較）

・50M走

中・高学年は全国平均並だが、低学年は全国平均を下回っている。

・立ち幅跳・走幅跳（高学年）

低・中・高学年とも全国平均を下回っている。

・ソフトボール投げ

低・高学年は全国平均並だが、中学年は全国平均を下回っている。

・連続逆上がり（高学年）

5・6年男女とも全国平均との差がある。

・持ち運び走・ジグザグドリブル

全学年とも全国並である。

2. 体力診断テストについて（全国平均との比較）

5年生は

- ・男女とも踏み台昇降は全国平均を上回り、男子の反復横跳び、垂直跳びも上回っている。
- ・伏臥上体そらし、握力、立位体前屈は男女とも下回っており、女子の背筋力も下回っている。

6年生は

- ・男女とも伏臥上体そらしは下回っており、女子は立位体前屈、背筋力も下回っている。
- ・男子の立位体前屈は前年度に比べ特に劣り、全国平均との差が大きい。

以上のことから、本校の児童は調整力はあるが、柔軟性、筋力に劣っているようだ。

(5) 体育学習についての意識調査

対象者数

学 年	低学年	中学年	高学年	合 計
人 数	117	126	122	365

① 体育は好きですか。

(数字は%)

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、は い		99	98	98	97	93	97	93	91	97		
イ、い い え		1	2	2	3	7	3	7	9	3		

② 「いいえ」と答えた人はそのわけをえらびなさい。

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、できないから		1	1	2	2	4	2	5	9	1		
イ、失敗すると笑われるから		0	1	0	0	1	0	1	1	2		
ウ、勝敗の責任を追及されいじめられるから		0	0	0	0	0	2	0	0	0		

③ 体育の中で好きな運動をあげなさい。

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、ボ ー ル 運 動		58	54	61	65	62	62	75	80	87		
イ、器 械 運 動		12	19	9	15	10	6	8	4	2		
ウ、陸 上 運 動		9	21	20	19	24	26	17	16	8		
エ、ダ ン ス 表 現		5	6	2	2	2	4	0	0	0		
オ、そ の 他		0.5	0	9	2	0	2	0	0	3		

④ 体育の中で好きな運動のわけ

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、ボールを投げたり、受けたりすることが楽しい。		53	39	43	49	42	27	49	48	28		
イ、ボールを使って思いっきり体を動かせる。		15	9	11	15	14	22	28	21	30		
ウ、シュートやパスができる。		4	12	14	4	4	11	6	9	20		
エ、安全である。		1	1	2	5	2	5	1	2	2		
オ、走るのが好き。		7	14	10	13	18	8	12	13	6		

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
カ、陸上運動が得意。		4	8	12	5	7	6	5	6	3		
キ、腕が強くなる。		13	10	11	7	6	7	1	1	2		
ク、ダンスをしたり創作するのが楽しい。		5	7	3	2	3	3	1	0	0		
ケ、みんなでできるから。		0	0	3	1	0	1	0	0	5		

⑤ 体育の中で嫌いな運動をあげなさい。

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、ボ - ル 運 動		9	11	13	7	22	6	3	1	3		
イ、器 械 運 動		13	27	13	14	18	11	19	16	22		
ウ、陸 上 運 動		24	8	6	12	11	10	7	11	8		
エ、ダ ン ス 表 現		33	54	66	70	47	70	72	72	67		
オ、そ の 他		0	0	2	0	2	2	0	0	0		

⑥ 体育の中で嫌いな運動のわけ。

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、できないから。		24	27	7	11	11	15	24	14	20		
イ、むつかしいから。		16	23	24	12	17	18	13	6	11		
ウ、はずかしから。		22	18	32	41	41	36	38	58	45		
エ、人が笑うから。		7	2	10	9	11	13	6	5	9		
オ、疲れるから。		17	10	18	6	11	4	7	6	6		
カ、けがをしないかこわい。		8	13	7	7	5	6	1	4	3		
キ、速い人に差をつけられるから。		9	7	3	15	2	8	7	7	6		

⑦ 体育の時間、楽しいと思うのはどんなときですか。

項 目	学 年			低			中			高		
	年 度	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
ア、試合で勝ったとき。		30	30	42	36	32	44	34	35	39		
イ、ほめられたとき		23	15	15	11	5	5	2	3	2		
ウ、みんなが力を合わせて頑張ったとき。		20	23	12	10	11	13	7	11	12		
エ、できないものができるようになったとき		26	27	17	35	40	19	49	40	28		
オ、みんなが協力し合ってきたとき。		2	2	8	5	4	12	5	4	9		
カ、たくさん練習できたとき。		0	3	5	5	8	7	5	7	12		

(6) 校外での児童の実態

① 体育の授業の他に、どのくらい運動をやっていますか。

項 目	学 年 度		低			中			高		
	年 度		1	2	3	1	2	3	1	2	3
ア、ほとんど毎日			15	22	17	18	39	36	21	21	34
イ、週に3~4回			12	17	14	27	16	12	41	24	19
ウ、週に1~2回			29	18	25	29	17	29	20	19	23
エ、月に1~2回			33	16	12	11	16	8	4	15	9
オ、ほとんどやっていない			13	37	32	16	12	15	20	21	15

② スポーツを見たりするのは、楽しいですか。

項 目	学 年 度		低			中			高		
	年 度		1	2	3	1	2	3	1	2	3
ア、とても楽しい			68	72	43	47	54	37	59	45	34
イ、楽しい			20	12	23	22	19	21	25	30	27
ウ、普通			4	10	26	22	24	29	21	20	33
エ、あまり楽しくない			6	4	5	3	2	10	2	3	5
オ、楽しくない			3	2	3	6	1	3	1	2	1

③ 一日の睡眠時間はどのくらいですか。

項 目	学 年 度		低			中			高		
	年 度		1	2	3	1	2	3	1	2	3
ア、8時間以上			64	86	70	70	53	47	31	35	42
イ、7~8時間			33	13	23	42	39	30	39	35	40
ウ、6~7時間			3	1	3	13	2	15	3	20	12
エ、5~6時間			1	0	2	9	6	7	6	8	4
オ、5時間未満			0	0	2	0	0	1	0	2	1

④ あなたは、毎日朝食を食べますか。

項 目	学 年 度		低			中			高		
	年 度		1	2	3	1	2	3	1	2	3
ア、毎日食べる			72	83	75	66	70	74	71	62	64
イ、時々食べないことがある			28	17	23	30	29	24	27	37	33
ウ、まったく食べない			0	0	2	4	1	2	3	1	3

⑤ 一日の勉強時間は、どのくらいですか。

項 目	学 年 度		低			中			高		
	年 度		1	2	3	1	2	3	1	2	3
ア、4時間以上			0	0	2	0	0	2	1	1	1
イ、3時間			0	2	1	3	4	6	3	4	1
ウ、2時間			2	3	8	11	15	14	17	10	6
エ、1時間			40	57	52	40	45	40	48	44	38
オ、30分以下			54	38	38	47	36	38	32	41	54

(7) 父母の意識調査

① 健康、体力について

ア あなたの最近の体の調子はいかがですか。

数値は%

大変調子がよい			ふ つ う			調子が悪い		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
14.2	9.4	8.7	81.5	83.5	84.5	4.2	6.9	6.8

イ あなたは、自分の体力についてどう思いますか。

体力がある			ふ つ う			体力がない		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
14.2	8.8	7.5	73.5	70.2	76.2	11.2	21.5	16.3

ウ あなたは、日頃健康の保持増進のために実行していることがありますか。

実行している			実行していない			-----		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	-----	-----	-----
11.3	11.3	20.0	83.5	82.2	80.0	-----	-----	-----

∴ 実行していることはどんなことですか。

- ・ フォークダンス、
- ・ 時々泳ぐ、
- ・ ジョギング、
- ・ 家庭療法の一つ、
- ・ 早寝は早起き、
- ・ スポーツ、
- ・ 食事のバランス、

② スポーツ活動について

ア あなたの家庭では、家族一緒にスポーツをしていますか。

している			していない			-----		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	-----	-----	-----
10.4	6.9	4.2	87.7	90.5	95.8	-----	-----	-----

イ あなたは今後スポーツをしたい(続けたい)と思いますか。

したい			したくない			-----		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	-----	-----	-----
86.9	82.9	88.1	10.0	17.7	11.9	-----	-----	-----

③ 地域スポーツについて

ア お子さんのスポーツ活動という立場から考えて、あなたの地域では、スポーツ施設が整備されていると思いますか。

だいたいされている			あまりされていない			全くされていない		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
10.1	10.1	11.0	68.1	55.6	59.0	21.9	32.9	30.0

イ 子供のために地域でスポーツ行事が開催されるときに、親としてお子さんにとのよう指導していますか。

参加するようにすすめる			子供の自主性にまかせる			-----		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	-----	-----	-----
53.5	47.4	57.5	46.1	47.4	42.5	-----	-----	-----

④ お子さんについて

ア あなたのお子さんの体力についてどう思いますか。

体力がある			ふ つ う			体力がない		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
9.6	9.4	11.6	75.4	82.0	87.8	5.7	7.5	0.6

∴ 体力があると思う分け。

- ・よく走っている
- ・スイミングできたえている
- ・やる気旺盛
- ・日頃から運動して、体をきたえている
- ・強度の運動にもついていける
- ・めったにかぜをひかない

∴ 体力がないと思うわけ

- ・食事がほそい
- ・「疲れた！」をよく口にする
- ・やる気がない

イ お子さんの健康な体力づくりについて、家庭で特に気をつけていることはどれですか。

食 物			規則正しい生活			外遊びや運動		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
39.1	39.3	32.7	37.6	47.5	38.9	17.5	26.1	22.6
保 健 衛 生			運 動 用 具			そ の 他		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
18.3	7.9	3.9	0	1.1	0.5	2.0	0.7	1.4

ウ お子さんが、学校でどのような運動をしているか、知っていますか。

よく知っている			だいたい知っている			あまり知らない		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
7.9	12.0	6.4	53.6	50.5	58.8	28.2	31.6	31.6
全く知らない			-----			-----		
1年次	2年次	3年次	-----	-----	-----	-----	-----	-----
2.5	1.1	3.2	-----	-----	-----	-----	-----	-----

エ お子さんにスポーツをさせたいと思いますか。

ぜひさせたい			できればさせたい			本人にまかせる		
1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次	1年次	2年次	3年次
43.6	33.8	43.7	39.6	53.6	40.5	12.5	12.5	15.8

オ お子さんは体を動かす運動や遊びをしていると思いますか。
1つ選び、わけも書いてください。

項 目	年次	%	わ け
十分している	1年次	15.0	<ul style="list-style-type: none"> よく食べよくなる。 外遊びをよくしている。 赤穂に入っているから。
	2年次	14.9	
	3年次	19.5	
まあまあしている	1年次	40.0	<ul style="list-style-type: none"> 体軽の授業のほか、バレーボール、バスケットボール等をしている。 洋服を洗だらけにして帰ってくる。 ・ フールはいている。 なわとびやかけこをよくしている ・ 道具、施設が多い。 自転車に乗って遊んでいる。 ・ 通学往復徒歩(片道20分)
	2年次	41.2	
	3年次	47.4	
ややたりない	1年次	25.4	<ul style="list-style-type: none"> 学校から帰ると読書をしたり、テレビを見たりしている。 あまり外にでない(休みの日)、家の中にいることが多い。 ・ 動きがにぶい。 ほとんどがゲーム的な遊びで、あまり動かしていない。
	2年次	29.8	
	3年次	20.8	

項目	年次	%	わけ
まだまだ たりない	1年次	10.4	・ 体育の時間だけ運動しているように見える。 ・ すぐ疲れたという。 ・ 太りざみで、動きがぶい。
	2年次	14.0	
	3年次	12.3	

カ お子さんは、地域の少年少女スポーツ活動に所属していますか。

所属している	所属していない	
24.7	75.3	

- 大浜クラブ ○ バレーボール ○ バasketボール ○ サッカー
○ 水泳 ○ 陸上

アンケートの考察

1 体育学習についての意識調査

- ・ 体育が好きだと答えた児童は、98%の高率を示しており、特に高学年では、1年次、2年次の結果を上回っている。
- ・ 領域別に見ると、全学年ともボール運動を好んでおり、高学年に行く程その傾向が、強い。
- ・ 陸上運動を好む児童が、増えている。そのことは、今学年度、陸上運動を中心に取り組んだせいと、思われる。
- ・ 全体的に表現運動を嫌う傾向にある。運動の特性を理解させ、楽しく学習できるように工夫が、必要である。

2 校外での児童の実態

- ・ 自分の体力づくりに関心が高まり、進んで運動する子が、年々増えて来ている。

3 父母の意識調査

- 体力づくりに対する父母の関心が、高まってきた。
 - ・ 日常生活の中で、自分の健康作りや、体力作りを実行する父母が、増えてきた。

IV 教科外体力 づくり

1. ねらい

教科体育外の活動として、業間や、体育集会活動などを通して児童の体力の推進を図る。

2. 内容

- ①業間遊びの計画と実施
- ②なわとび集会の計画と実施・運営
- ③校内陸上の計画と実施

3. 業間遊び実施計画

1. ねらい

- (1) 体力づくり推進活動の一環として、児童の体力の向上を図る。
- (2) 教科体育外の体力づくり活動として、児童主体の遊びを中心に、児童が自己の体力に関心を持つようにさせる。

2. 場所

本校体育館、運動場

3. 実施期間

4月～3月

4. 実施方法

- (1) 2校時と3校時の間のやすみ時間(15分)を利用して行なう。
 - (2) 1・2・3年、4・5・6年をプールにしそれぞれの器具や用具、固定施設を使用する。
 - (3) 児童が活動をし、ある程度その活動が定着するまで教師も参加するようにする。
 - (4) 1・2・3年は火曜日と木曜日、4・5・6年は水曜日と金曜日に行なう。
 - (5) 特定の遊びに集中しないように配慮する。
 - (6) 用具、器具、施設は現在あるものを利用し、必要があれば修理、購入し利用できるようにする。
- #### 5. 現在利用できる用具、器具、施設

①用具、器具

一輪車	22台
竹馬	7セット
サッカーボール	15個
ドッジボール	50個
長縄	10本
バスケットボール	19個
フラフープ	30本
タイヤ	50本

②固定施設

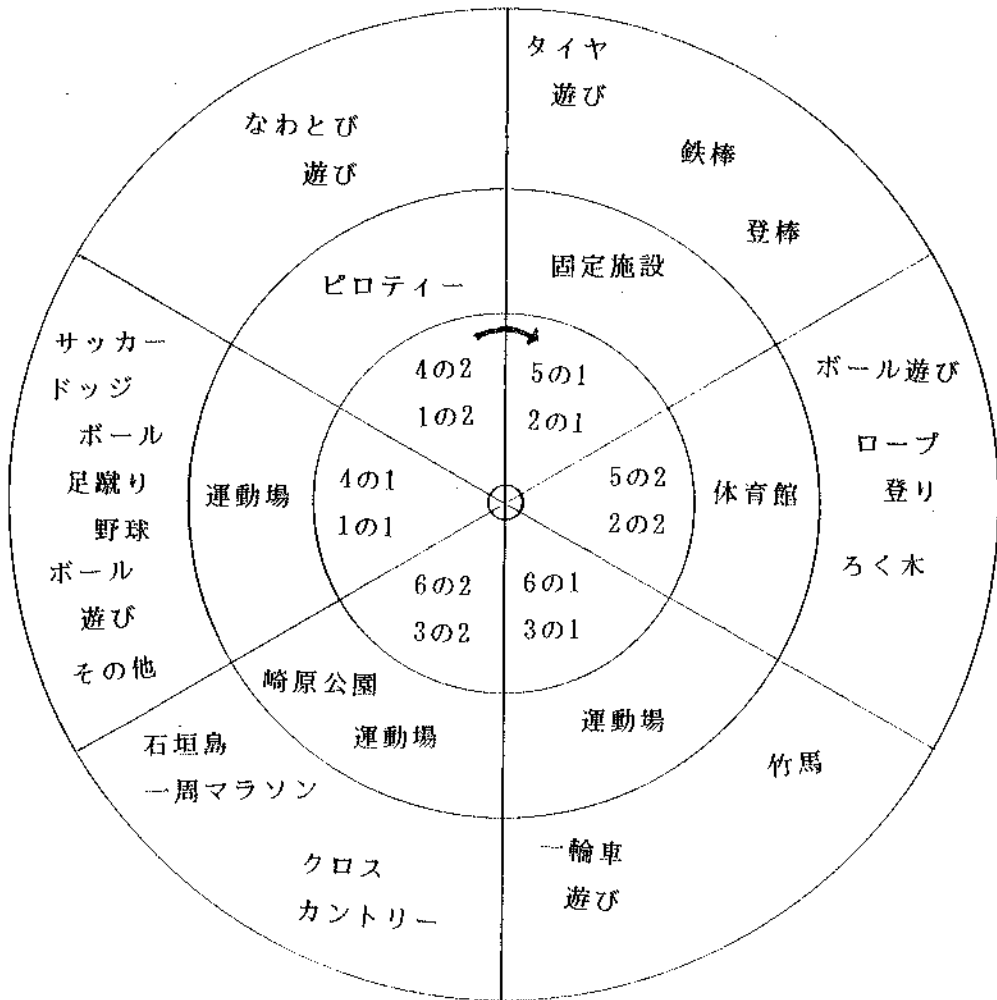
鉄棒	9連
回転ジャングル	1基
登り棒	1基
登り綱	10本
ろくぼく	1基
ブランコ	6連
吊輪	3連
砂場	1
雲梯	2基

* 崎原公園内

カントリーコース

綱渡り遊び

業間遊びローテーション



(1)

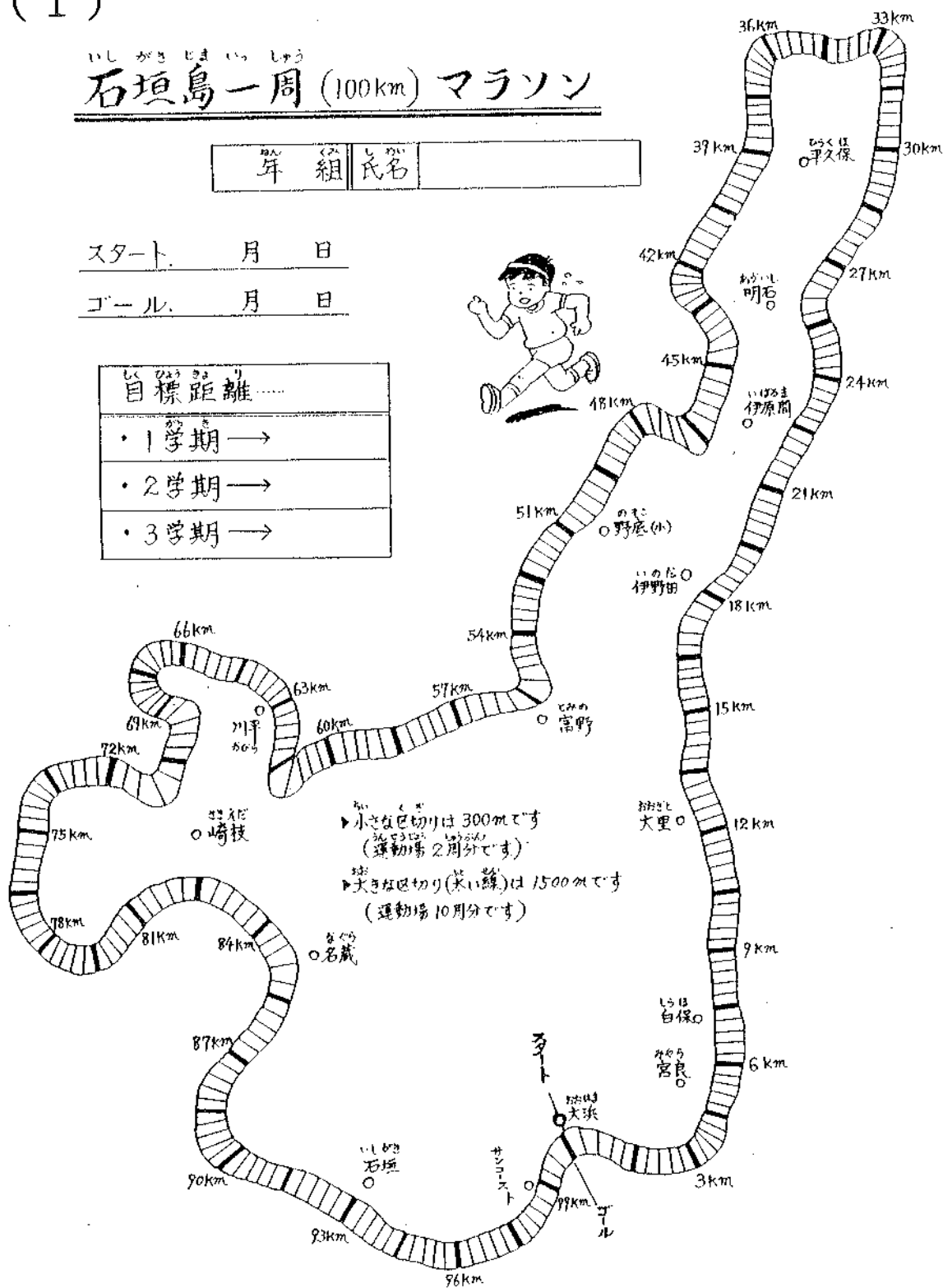
石垣島一周 (100km) マラソン

年	組	氏名	
---	---	----	--

スタート 月 日

ゴール 月 日

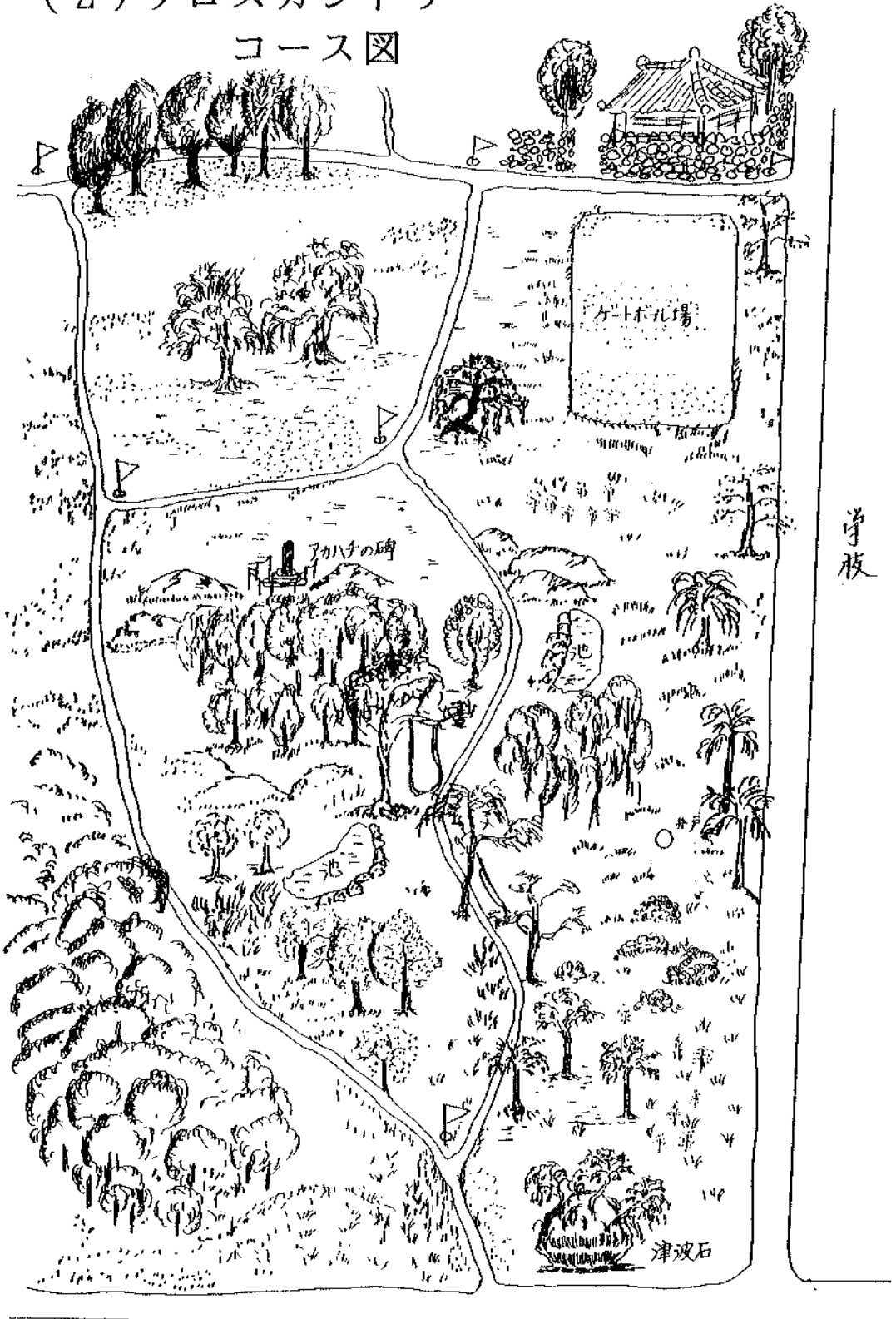
目標距離
・1学期 →
・2学期 →
・3学期 →



▶ 小さな区切りは 300m です
(運動場 2周分です)

▶ 大きな区切り(赤い線)は 1500m です
(運動場 10周分です)

(2) クロスカントリー
コース図



4. なわとび集会実施計画

1. ねらい

- (1) 全校児童が楽しく参加することによって、児童相互のふれあいを深める。
- (2) 短縄や長縄を利用して、楽しくいろいろな跳び方で跳び、なわとびを通して健康な体をつくる。
- (3) 自分の記録に挑戦し、友達と一緒に仲良く跳ぶことができるようになる。

2. 場所

本校グラウンド

3. 参加者

全児童

4. 種目

「なわとがんばりひょう」を使う。

5. 方法

土曜日の児童集会の時間（15分）を使う。

月2回行なう。（第2、第4土曜日）

短縄集会、長縄集会と交互に行なう。

運営は体育委員会です。

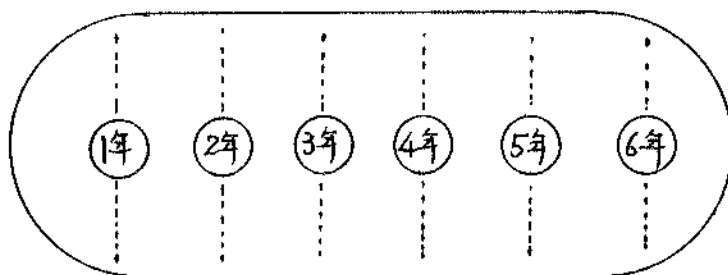
全児童に（なわとび頑張り表）を配り記録させる。

種目や時間は、表をもとにして進める。

長縄は学校で用意する。

集会時の記録をもとに、級を認定する。

6. 場所の配置





なわとび がんばりひょう

大浜小学校 ねん くみ ばい
なまえ



合格月日	きゆう	級の時間	合格月日	きゆう	級の時間	合格月日	きゆう	級の時間
/	1	1:40~1:50 両足前まわし 10えび 15	/	15	両足前まわし 10えび 10~19	/	29	級の時間 150m
/	2	" 20~29	/	16	" 20~29	/	30	ダバとび 10えび
/	3	" 30~39	/	17	" 30~39	/	31	" 20~29
/	4	" 40~49	/	18	両足前まわし 10~19	/	32	" 30~39
/	5	" 50~59	/	19	" 20~29	/	33	ダバとび 10~19
/	6	" 1:00~1:09	/	20	" 30~39	/	34	20~29
/	7	" 1:10~1:19	/	21	前まわし 10~19	/	35	前まわし 10~19
/	8	" 1:20~1:29	/	22	" 20~29	/	36	" 20~29
/	9	" 1:30~1:39	/	23	" 30~39	/	37	" 30~39
/	10	" 1:40~1:49	/	24	後まわし 10~19	/	38	足うちとび 10~19
/	11	" 1:50~1:59	/	25	" 20~29	/	39	" 20~29
/	12	" 2:00~2:09	/	26	" 30~39	/	40	長 はいてとび
/	13	" 2:10~2:19	/	27	走りまわし 50m	/	41	な はいてとび
/	14	" 2:20~2:29	/	28	" 100m	/	42	わ 手をついて5かいまわる

5. 校内陸上実施計画案

【1】ねらい

- 1, 本校の創立101周年に当り、学校のいやさかを祝し今後の発展を祈ると共に愛校心を育てる。
- 2, 体育学習の発展として陸上運動を行うことにより技能を高め、協力、責任等の望ましい態度を育てる。
- 3, 同学年から縦のつながりへ、交流の枠を広げる機会とする。
- 4, 陸上大会への企画・運営・参加を通して自発性、自主性、リーダー性を育てる。

【2】児童のめあて

元氣よく、あつさに負けず、最後まで

【3】日時

平成3年7月6日（金） 9:30～16:00

【4】種目

- 1, トラックの部
 - ① 100M (全員)
 - ② 200M (5.6年男女)
 - ③ 400MR (男女代表各4人)
 - ④ 1000M (男女代表各2人)
 - ⑤ 分会学年別リレー (各学年男女代表各1人)
- 2, フィールド部
 - ① 走り幅跳 (5.6年男女代表各1人)
 - ② 走り高飛び (" ")
 - ③ ソフトボール投げ (" ")
- 3, その他
 - ① 応援合せん (全員)
 - ② なわとび競争 (全員)

【5】服装

体育着・紅白帽・全児童胸に分会マークをつける。

【6】競技方法

1. 分会別対抗とし、1分会・高田は同一分会とする。
2. 各種目1位～3位、記録更新者、優勝チーム、応援賞には賞状を与える。
3. 100Mの組分け方法は1組7名までとする。ただし、同程度の走力の者どうし、及び分会を考慮して組分けするものとする。
4. 出場種目は、代表種目3種目までとする。やむを得ない場合は（人数不足）それ以上認める。
5. 走高跳での背面とびは認めない。
6. 運営委員を組織し、大会の一部運営を行う。（児童会役員、体育委員長）
7. 走高跳はセフティーマットをりようし、トラック内で行う。

【7】採点方法

個人1位（3点）	2位（2点）	3位（1点）
団体1位（5点）	2位（4点）	3位（3点）
4位（2点）	5位（1点）	

【8】記録

記録は100までとる。 例 15"56

6. 校内持久走実施計画案

1989年12月13日

1. ねらい

- (1) 本校教育目標「健康で粘り強い子」をもとに、目指す学校像「スポーツいっぱい」の学校経営方針に基づいて行う。
- (2) 持久走をすることにより、強い心身を培い、自信と喜びを持たせる。
- (3) 持久走を通して身体の発育発達や体力の向上を図る。
- (4) 「自分の調子を守って、最後まで完走できるようにする。」

2. 日時

平成2年 12月 21日(水)

3. 場所

運動場と学校周囲の道路

4. 参加者

全児童

5. 競技方法

(1) 距離とコース

- | | | |
|-------|---------|---------|
| 1, 2年 | (700m) | 学校の回り1周 |
| 3, 4年 | (1300m) | 学校の回り2周 |
| 5, 6年 | (1900m) | 学校の回り3周 |

(2) 決勝ゴールは全学年同位置とする。

(3) 出発の順は、低学年、中学年、高学年の順とする。

(4) 次の出発は、前学年の終了後とする。

(5) 記録は5, 6年が行う。

表A

走者	1年	2年	3年	4年	5年	6年
記録	6年	5年	6年	5年	6年	5年

* 前日までに、記録者と記録してもらおう児童の顔合わせをする。

(6) 時間とスタート順

9 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5	諸注意、記録準備	3 0 分
1 0 : 1 5 ~ 1 0 : 2 5	1 年スタート	1 0 分
1 0 : 3 0 ~ 1 0 : 4 0	2 年スタート	1 0 分
1 0 : 4 5 ~ 1 1 : 0 0	3 年スタート	1 5 分
1 1 : 0 5 ~ 1 1 : 2 0	4 年スタート	1 5 分
1 1 : 2 5 ~ 1 1 : 4 5	5 年スタート	2 0 分
1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 1 0	6 年スタート	2 0 分
1 2 : 1 0 ~ 1 2 : 2 5	記録整理、休憩	1 5 分

6. 留意事項

- (1) 最善をつくし、自分の力に合わせて最後まで走れるように指導する。
- (2) 無理な競争心をあおらない。
- (3) 健康診断で異常なもの、気分がすぐれないものは走らせない。
- (4) 走りおえた後、呼吸調整、汗のふき取り、うがいなどを行うことを指導する。
- (5) 当日までに等距離を何度か走らせるよう指導する。
- (6) 授業時数は体育の時間(3)として扱う。
- (7) 許可証は、前日父母に渡し、当日回収する。
- (8) 着替えやタオルの準備をさせる。

7. 各係

係名	担当者	仕事内容
審判		各学年男女3位までの順位判定
記録		各学年男女3位までの記録、記録更新者
時計		タイムの読み上げ、記録の確認
監察		道路の安全確認、車両の誘導
救護		救護

なわとび集会風景



V 地域における スポーツ活動

地域少年団の諸活動

1. 趣旨

団員がスポーツを通して体力と技術の向上を図り、スポーツマン精神を養うことを目的とする。

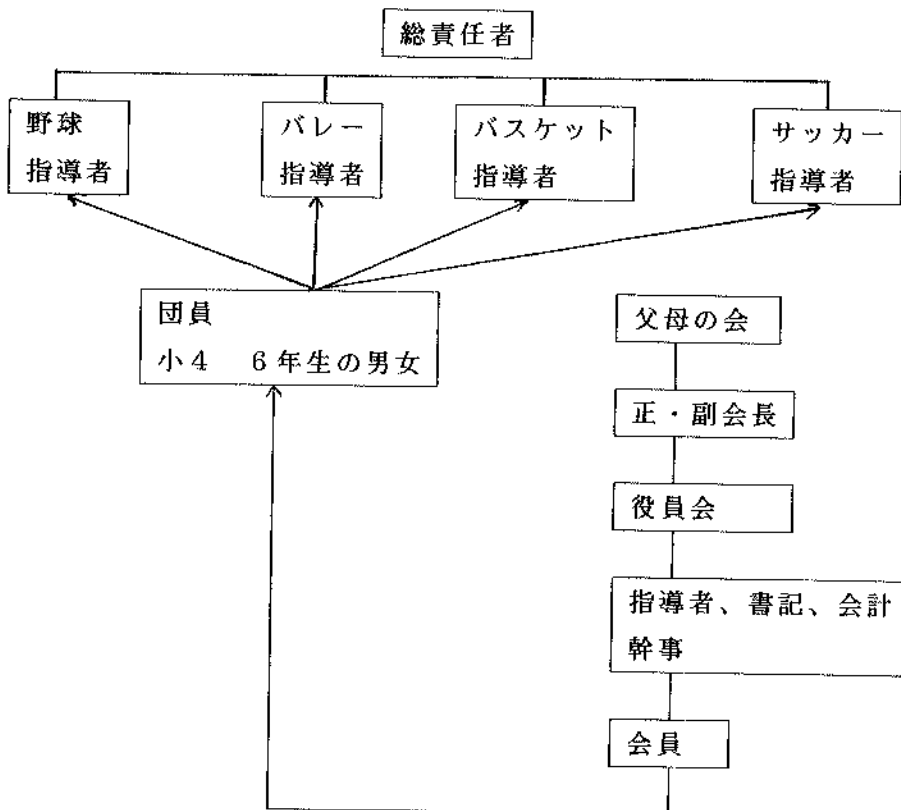
- (1) 協力心の育成
- (2) 忍耐力の育成
- (3) 思いやりの心の育成
- (4) 奉仕の精神の育成

2. 部の現状

大浜小学校の児童4～6年生までの男女が加入し、放課後、休日を利用して地域の指導者が野球、バレーボール、バスケットボール、サッカーの各種目の指導監督に当たっている。

3. 組織と活動

(1) 組織図



(2) 活動内容

① スポーツ活動

- ・野球大会参加
- ・バレーボール大会参加
- ・バスケットボール大会参加
- ・サッカー大会参加

* 児童期において、一つの種目の練習では身体の発達の過程から、望ましいやり方ではない。そこで、できるだけ多くのスポーツを経験させることによってすべてのスポーツに共通する運動能力を育てようと考えている。

② 奉仕活動

- ・地域内の空き缶拾い
- ・公園作業への協力
- ・地域スポーツ行事への参加

③ レク活動

- ・キャンプへの参加
- ・趣味教室

* スポーツ活動は活発に行なわれているが、奉仕活動、レクレーション活動等は目だった活動はされていない。父母の協力をもっと高め今後の活動を進めていきたい。

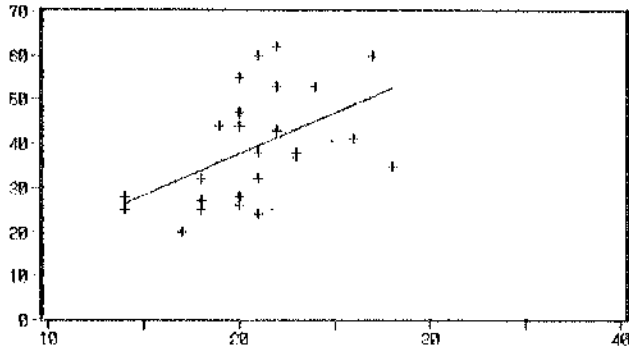
4. 各種大会参加記録

平成3年	2月	石垣市少年サッカー大会参加（男子2回戦進出）
	3月	八重山地区少年野球大会参加
	6月	八重山地区少年野球大会参加
		八重山地区小学生バレーボール大会参加 （男子優勝、女子1勝）
		八重山地区ミニバスケットボール大会参加 （男子2勝）
	7月	沖縄県6人制バレーボール大会参加（男子3位）
9月	八重山地区小学生9人制バレーボール大会参加 （男子優勝、女子2勝）	

VI 資料

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子



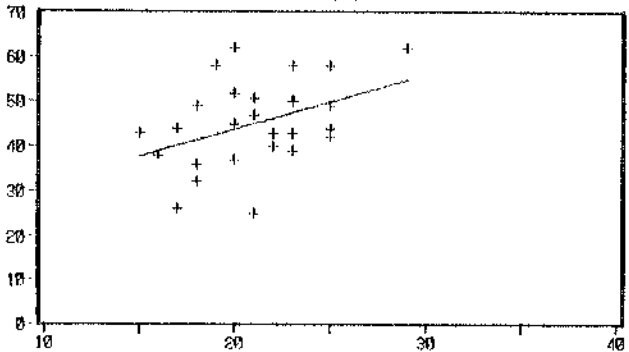
体力：体力診断テスト総合得点

回帰分析の結果：

Y 切片	0.2906375
Y 評価値の標準誤差	11.177112
R ² 乗	0.2528704
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.5078622
X 係数	1.8684663
X 係数の標準誤差	0.6696845

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子



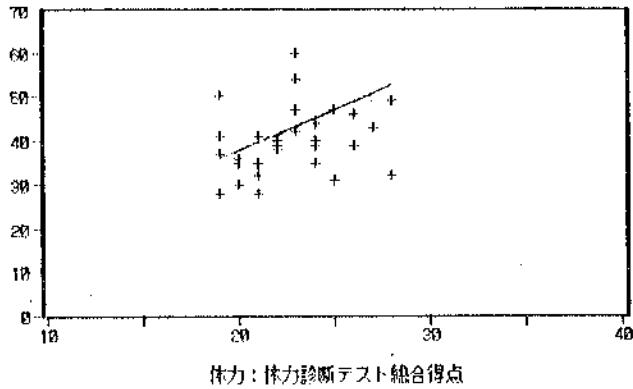
体力：体力診断テスト総合得点

回帰分析の結果：

Y 切片	19.056990
Y 評価値の標準誤差	9.1668697
R ² 乗	0.1710043
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.4159179
X 係数	1.2408759
X 係数の標準誤差	0.5537908

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子

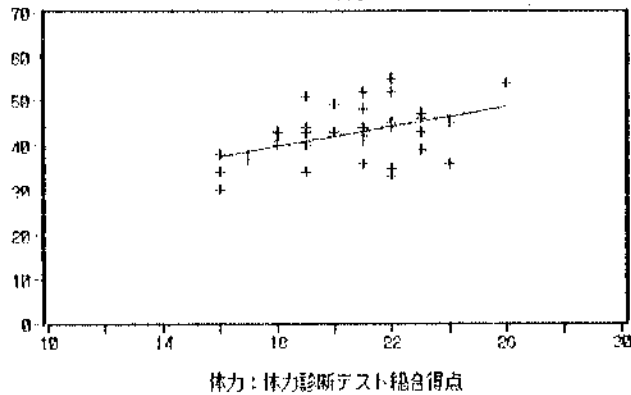


同帰分析の結果：

Y 切片	0.2906375
Y 評価値の標準誤差	11.177112
R ² 乗	0.2528704
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.5028622
X 係数	1.8684663
X 係数の標準誤差	0.6696845

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子

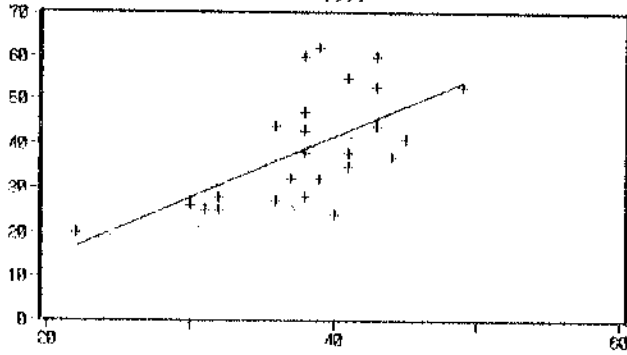


同帰分析の結果： (総合)

Y 切片	19.822935
Y 評価値の標準誤差	5.7803191
R ² 乗	0.1896498
標本数	33
自由度	31
相関係数	0.4354881
X 係数	1.1059633
X 係数の標準誤差	0.4106009

学力・標準学力テスト標準値

体力と学力との相関
5年男子



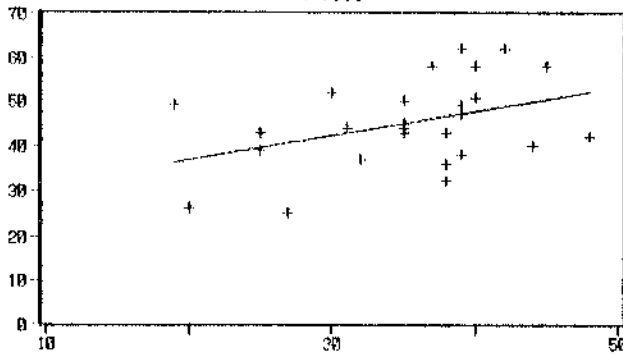
体力：体力診断テスト（反復横とび）

回帰分析の結果：

Y 切片	-11.49297
Y 評価値の標準誤差	10.208568
R ² 乗	0.3767442
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.6137949
X 係数	1.3776985
X 係数の標準誤差	0.3694878

学力・標準学力テスト標準値

体力と学力との相関
5年女子



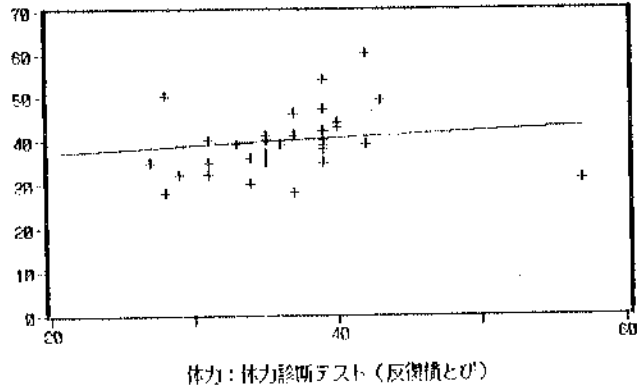
体力：体力診断テスト（反復横とび）

回帰分析の結果：

Y 切片	25.877921
Y 評価値の標準誤差	9.2169001
R ² 乗	0.1630526
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.4049107
X 係数	0.5466383
X 係数の標準誤差	0.2519710

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子

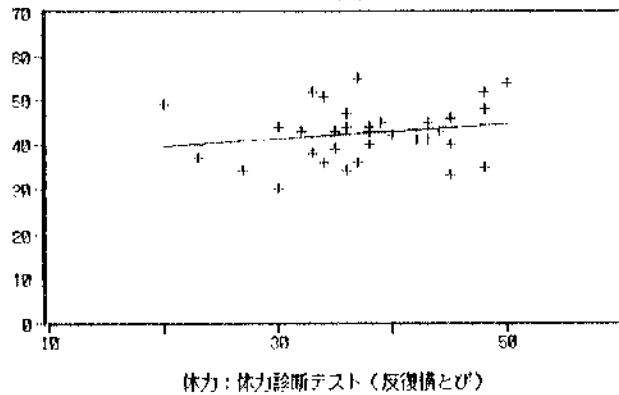


回帰分析の結果：

Y 切片	33.896807
Y 評価値の標準誤差	7.2232056
R ² 乗	0.0318038
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.1783362
X 係数	0.1638887
X 係数の標準誤差	0.1624090

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子

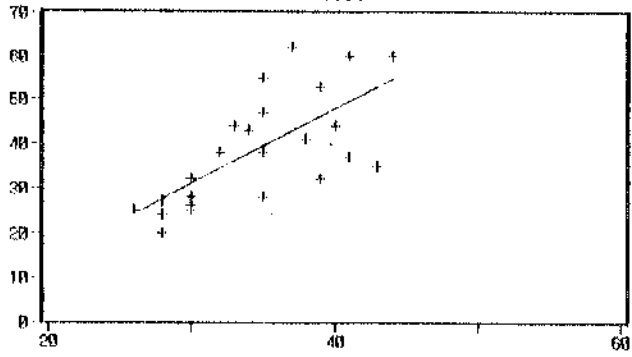


回帰分析の結果：

Y 切片	36.205338
Y 評価値の標準誤差	6.3030861
R ² 乗	0.0364471
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.1909113
X 係数	0.1684571
X 係数の標準誤差	0.1555660

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子



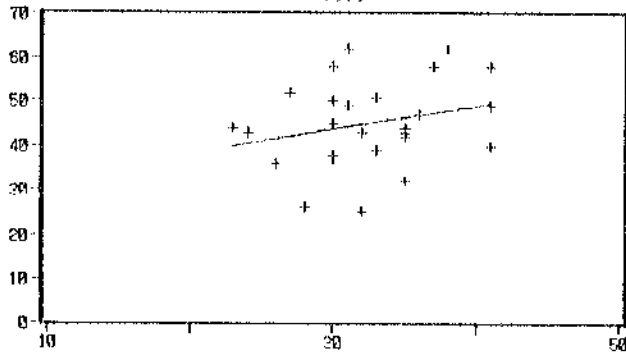
体力：体力診断テスト（垂直とび）

回帰分析の結果：

Y 切片	-20.05838
Y 評価値の標準誤差	9.2924460
R ² 乗	0.4835875
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.6954045
X 係数	1.6993788
X 係数の標準誤差	0.3661736

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子



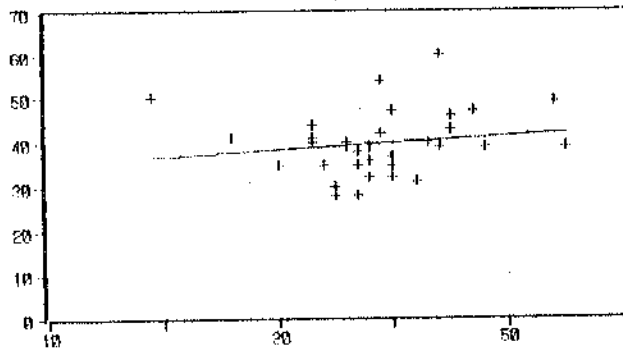
体力：体力診断テスト（垂直とび）

回帰分析の結果：

Y 切片	27.829636
Y 評価値の標準誤差	9.7243762
R ² 乗	0.0693538
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.2633511
X 係数	0.5324993
X 係数の標準誤差	0.3981718

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子



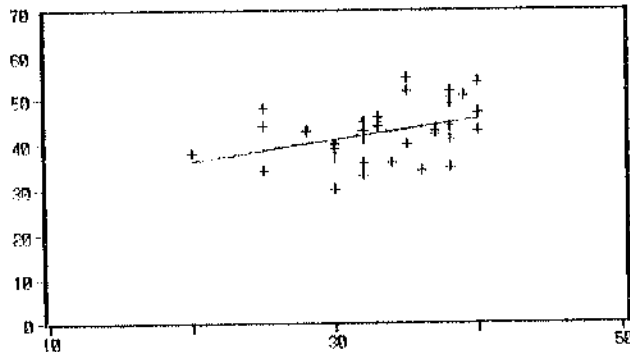
体力：体力診断テスト(垂直とび)

回帰分析の結果：

Y 切片	33.847842
Y 評価値の標準誤差	7.2584616
R ² 乗	0.0223293
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.1491301
X 係数	0.1515790
X 係数の標準誤差	0.1801425

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子



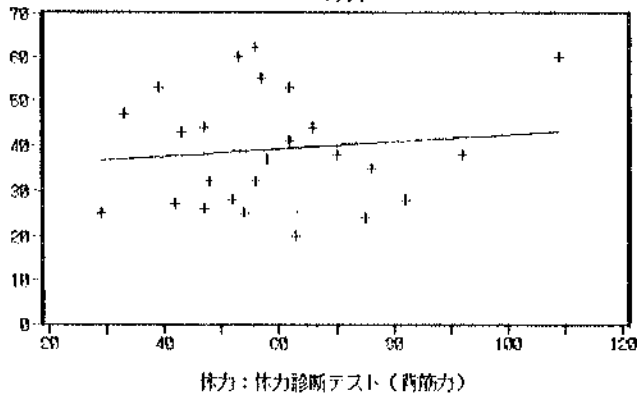
体力：体力診断テスト(垂直とび)

回帰分析の結果：

Y 切片	26.840870
Y 評価値の標準誤差	5.2672788
R ² 乗	0.1363819
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.3692992
X 係数	0.4711375
X 係数の標準誤差	0.2129361

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子

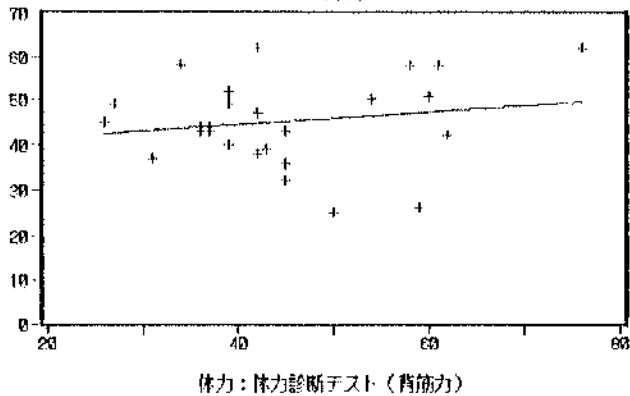


回帰分析の結果：

Y 切片	34.328490
Y 評価値の標準誤差	12.843763
R 2乗	0.0134451
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.1159531
X 係数	0.0807530
X 係数の標準誤差	0.1442358

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子

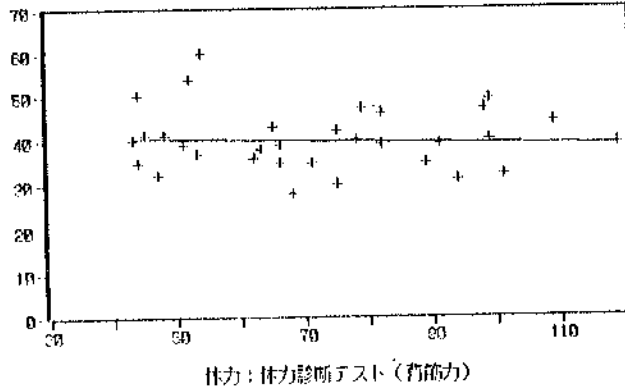


回帰分析の結果：

Y 切片	38.816504
Y 評価値の標準誤差	9.9307583
R 2乗	0.0294321
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.1715579
X 係数	0.1405758
X 係数の標準誤差	0.1647810

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子

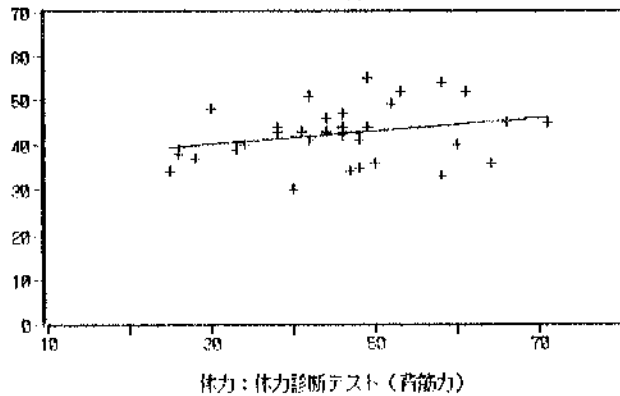


同帰分析の結果：

Y 切片	41.307533
Y 評価値の標準誤差	7.3258998
R 2 乗	0.0040779
標本数	33
自由度	31
	相関係数：-0.063858
X 係数	-0.021911
X 係数の標準誤差	0.0615002

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子

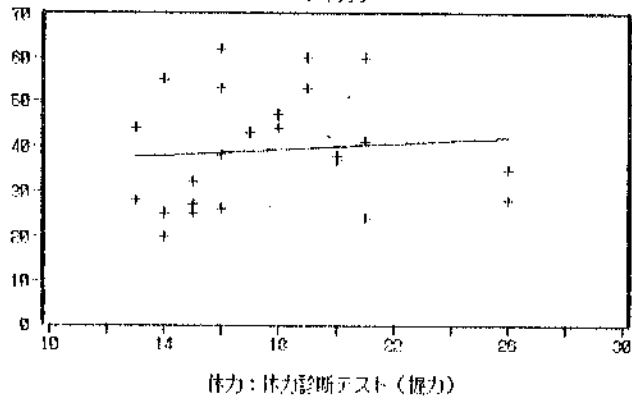


同帰分析の結果：

Y 切片	35.900461
Y 評価値の標準誤差	6.2014182
R 2 乗	0.0672804
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.2593846
X 係数	0.1439821
X 係数の標準誤差	0.0962850

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子

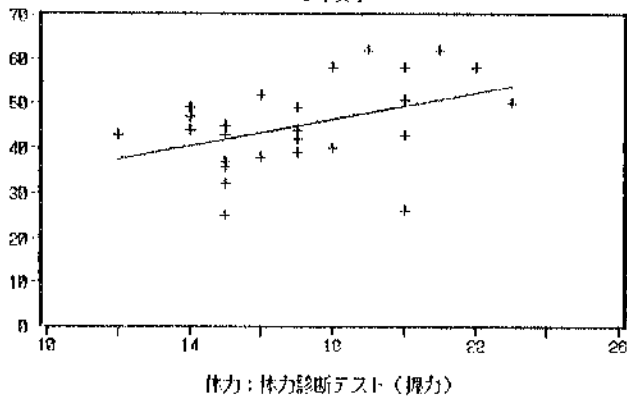


回帰分析の結果：

Y 切片	33.322073
Y 評価値の標準誤差	12.874529
R 2乗	0.0087130
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.0933437
X 係数	0.3286487
X 係数の標準誤差	0.7309412

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子

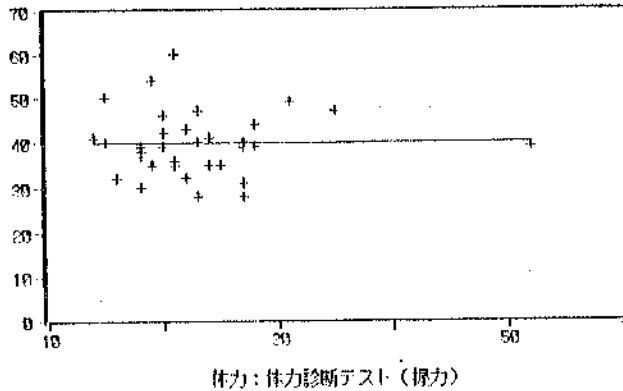


回帰分析の結果：

Y 切片	19.209661
Y 評価値の標準誤差	9.1015729
R 2乗	0.4847440
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.4208185
X 係数	1.5135928
X 係数の標準誤差	0.6400306

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子

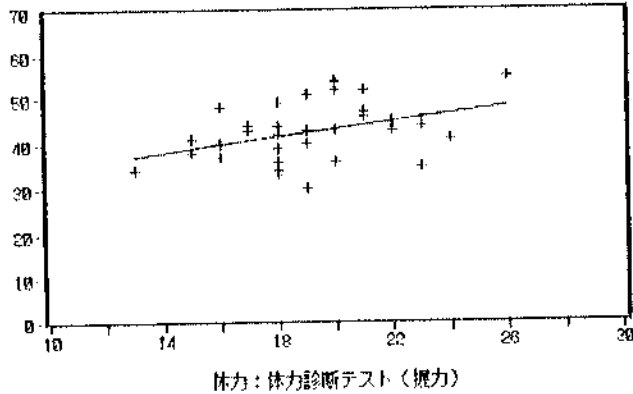


回帰分析の結果：

Y 切片	39.532028
Y 評価値の標準誤差	7.3406110
R ² 乗	0.0000686
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.0082855
X 係数	0.0084665
X 係数の標準誤差	0.1835227

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子

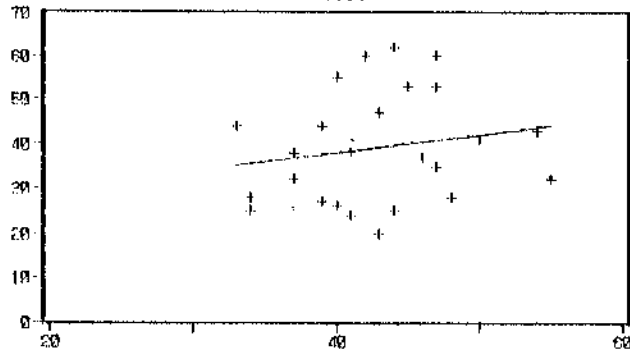


回帰分析の結果：

Y 切片	26.135648
Y 評価値の標準誤差	5.9258489
R ² 乗	0.1483322
標本数	33
自由度	31
	相関係数
	0.3851392
X 係数	0.8568411
X 係数の標準誤差	0.1607540

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子



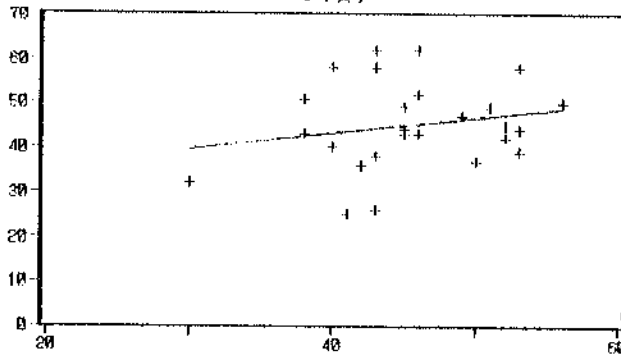
体力：体力診断テスト（伏臥上体そらし）

回帰分析の結果：

Y 切片	21.431738
Y 評価値の標準誤差	12.702009
R 2 乗	0.0351031
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.1873582
X 係数	0.4123425
X 係数の標準誤差	0.4507771

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子



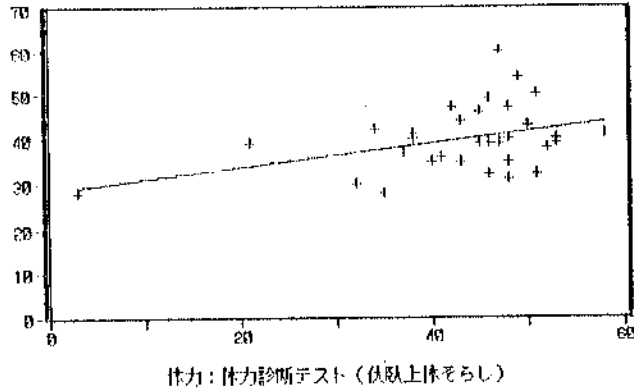
体力：体力診断テスト（伏臥上体そらし）

回帰分析の結果：

Y 切片	28.885278
Y 評価値の標準誤差	9.8410909
R 2 乗	0.0468800
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.2165179
X 係数	0.3567056
X 係数の標準誤差	0.4283100

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子

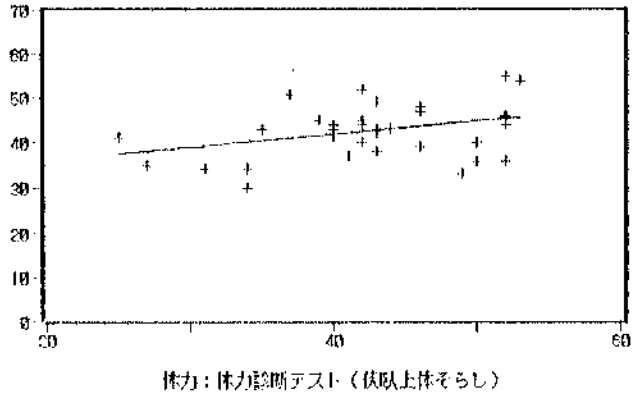


回帰分析の結果：

Y 切片	28.386722
Y 評価値の標準誤差	6.8135763
R 2乗	0.1385032
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.3721602
X 係数	0.2633625
X 係数の標準誤差	0.1179695

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子

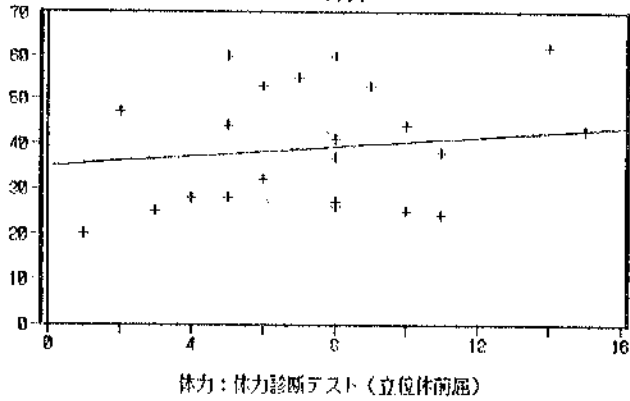


回帰分析の結果：

Y 切片	29.998022
Y 評価値の標準誤差	6.0556582
R 2乗	0.1106109
標本数	33
自由度	31
相関係数	0.3325822
X 係数	0.2963960
X 係数の標準誤差	0.1509518

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子

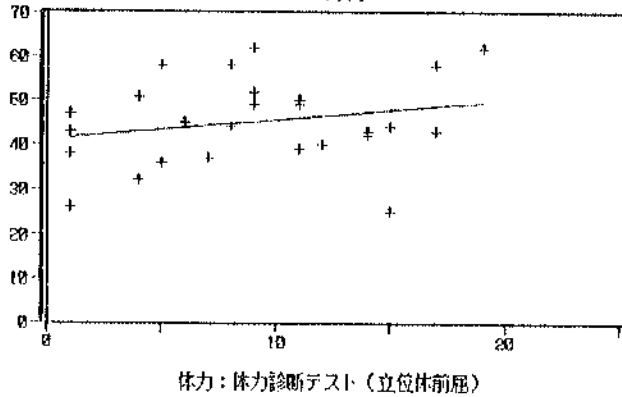


回帰分析の結果：

Y 切片	35.011593
Y 評価値の標準誤差	12.703453
R ² 乗	0.0348823
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.1867682
X 係数	0.5269956
X 係数の標準誤差	0.5780032

学力：標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子

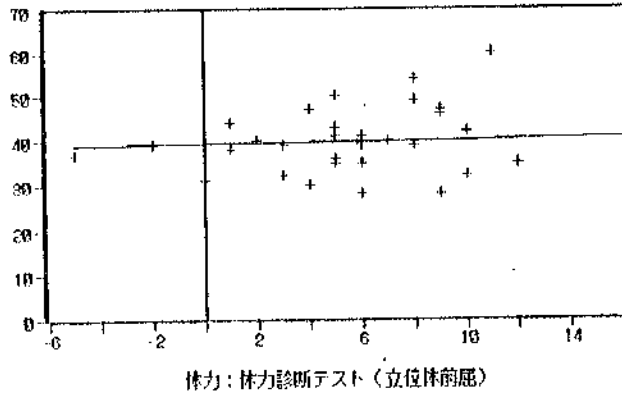


回帰分析の結果：

Y 切片	41.025605
Y 評価値の標準誤差	9.7663318
R ² 乗	0.0613060
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.2476005
X 係数	0.4544198
X 係数の標準誤差	0.3629628

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子

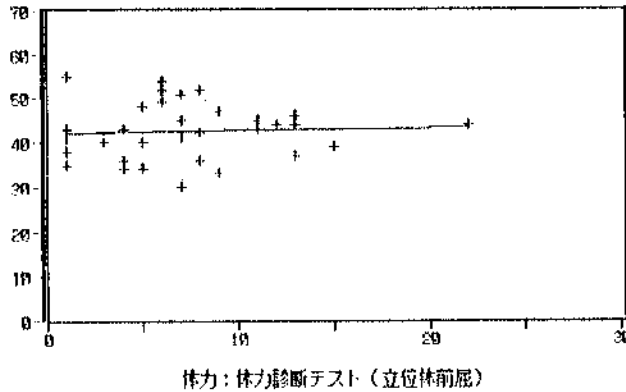


回帰分析の結果：

Y 切片	39.313917
Y 評価値の標準誤差	7.3184155
R^2 乗	0.0061418
標本数	33
自由度	31
	相関係数：0.0781780
X 係数	0.0600913
X 係数の標準誤差	0.1376304

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子

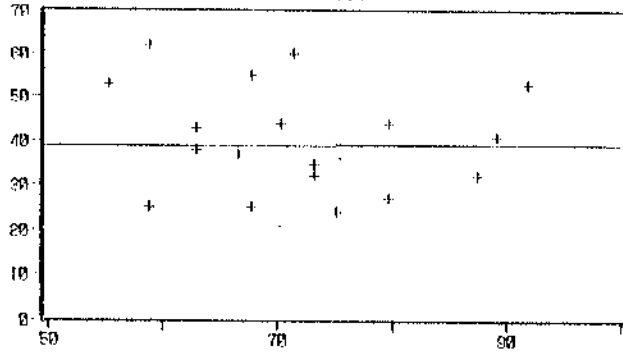


回帰分析の結果：

Y 切片	42.123913
Y 評価値の標準誤差	6.4150342
R^2 乗	0.0019161
標本数	33
自由度	31
	相関係数
	0.0437740
X 係数	0.0586956
X 係数の標準誤差	0.2405979

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年男子



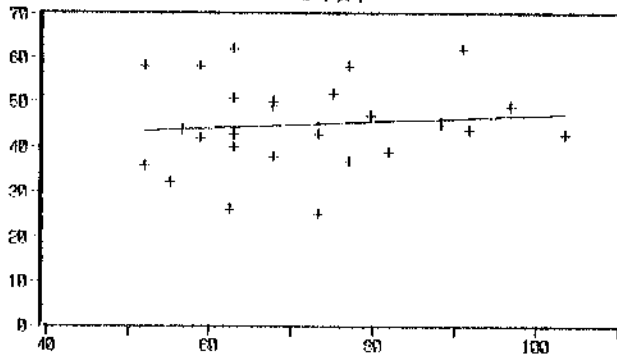
体力：体力診断テスト（踏台昇降運動）

回帰分析の結果：

Y 切片	38.551729
Y 評価値の標準誤差	12.930144
R 2乗	0.0001304
標本数	25
自由度	23
	相関係数：0.0114201
X 係数	0.0067685
X 係数の標準誤差	0.1235748

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
5年女子



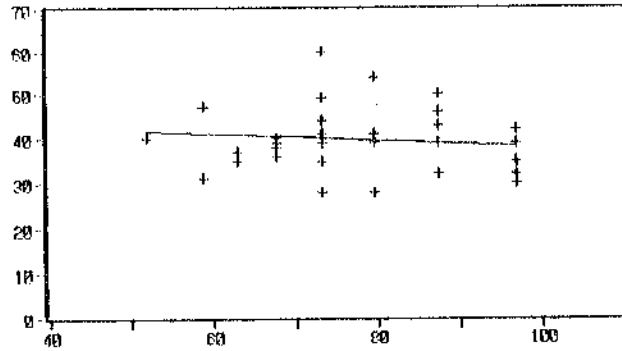
体力：体力診断テスト（踏台昇降運動）

回帰分析の結果：

Y 切片	39.894890
Y 評価値の標準誤差	10.025359
R 2乗	0.0108527
標本数	26
自由度	24
	相関係数：0.1041763
X 係数	0.0730492
X 係数の標準誤差	0.1423545

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年男子



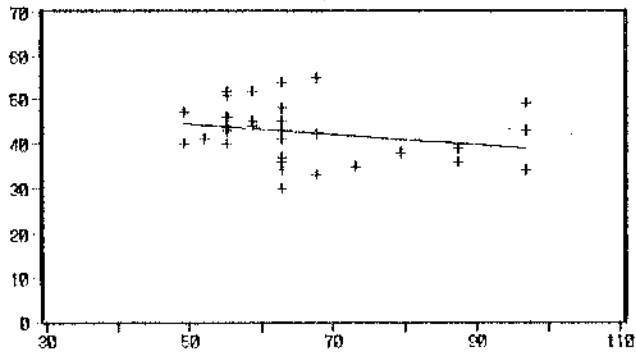
体力：体力診断テスト（踏台昇降運動）

回帰分析の結果：

Y 切片	45.414669
Y 評価値の標準誤差	7.2762006
R ² 乗	0.0175448
標本数	33
自由度	31
	相関係数：-0.132456
X 係数	-0.073694
X 係数の標準誤差	0.0990451

学力・標準学力テスト偏差値

体力と学力との相関
6年女子



体力：体力診断テスト（踏台昇降運動）

回帰分析の結果：

Y 切片	50.191145
Y 評価値の標準誤差	6.2188229
R ² 乗	0.0620375
標本数	33
自由度	31
	相関係数：-0.249073
X 係数	-0.116630
X 係数の標準誤差	0.0814513

VII 研究のまとめ

1. 研究のまとめ

平成元年度より、体力づくり推進校の指定を受け「一人ひとりがめあてを持ち、自ら取り組む体力づくり」を主題に掲げ、全職員協力のもとに研究を進めてきた。

1年次は新しい体育の理論研究を中心に研究の方向、体制づくりに取り組み、2年次は理論研究を授業を通して検証し、最終年次の今年は、過去2ヶ年間の課題を解決すべく研究を深めて来た。

研究当初に比べ、児童・教師共に学習の進め方がより理解され効果的な学習を展開することができるようになった。

また、学習カードの活用、場の設定の工夫によって、主体的に学習に取り組む子が増えてきている。更に、体育館の新築にともない、施設・用具が充実され、より効果的な授業を進めることができた。3ヶ年間という短い研究期間ではあったが、子供たちは少しずつ変容してきている。

2. 今後の課題

- 個を生かすための学習カード・資料の効果的な活用の仕方。
- 施設・用具を授業の中で、どう生かしていくか。

参考文献・資料

- 「小学校体育指導書・体育編」文部省
 「小学校体育指導資料・指導計画の作成と学習指導」文部省
 「小学校体育の学習と指導」竹之下 休蔵、宇土 正彦
 「小学校・新しい体育の考え方、進め方」 (宇土 正彦)
 「学校体育ハンドブック」 (" ")
 「体育の学習・指導書」 (" ")
 「現大学校体育大事典」 (" "、松田 岩男)
 「月間学校体育」 (高畑 栄一)
 「小学校体育の課題 100のQ&A」 (三浦 勇)
 「学校における体力づくりの全体構想」 (沖縄県教育委員会)
 「体力づくり読本」 (教育開発研究所)
 「運動能力テスト・スポーツテストハンドブック」 (青山 昌二、嘉戸 脩)
 「新しい体育授業の展開・1～6年」 (杉山 重利、細江 文利、宇土 正彦)
 「さかの体育」 (佐賀県保健体育研究会小学部)

平成3年度職員名

校長	前 津 栄 信	教諭	長 浜 明 美
教頭	波照間 永 晃	"	漢 那 憲 吉
教諭	新 本 タツミ	"	平 地 三千裕
"	入福浜 芙佐恵	"	徳 山 明 美
"	登野城 紀 子	"	塩 原 恵 美
"	嘉弥真 マ サ	養護教諭	平 地 ますみ
"	金 嶺 秀 子	図書司書	波照間 良 子
"	佐久本 茂 樹	事務主事	仲 皿 勝
"	大 城 照 美	用 務	米 盛 勝 恵
"	与那国 久 枝		
"	石 田 美喜子		

